

発行日 2025年3月28日

2023年度 日本学生オリエンテーリング選手権大会 スプリント、ロング・ディスタンス競技部門 報告書



期日	2023年(令和5年)10月14日(土)～10月15日(日)
開催地	茨城県笠間市
競技会場	笠間芸術の森公園
主催	日本学生オリエンテーリング連盟
主管	2023年度 日本学生オリエンテーリング選手権大会 スプリント競技部門実行委員会 ロング・ディスタンス競技部門実行委員会
共催	一般社団法人 大学スポーツ協会 (UNIVAS)
後援	笠間市 笠間市商工会 茨城県教育委員会 一般社団法人 笠間スポーツコミッション 株式会社 茨城新聞社 オリエンテーリングクラブ サン・スーシ

オフィシャルスポンサー いばらきフラワーパーク

O-Support

笠間工芸の丘

笠間市いこいの家 はなさか

笠間焼協同組合

株式会社 茨城県民球団

株式会社 ニチレイ

株式会社 フォルテ

有限会社 ヤマカワオーエンタープライズ

協力

オリエンテーリングクラブ サン・スーシ

オフィシャルパートナー イベスポ（株式会社 INSHI）

株式会社 アークコミュニケーションズ

ライラック

Waisports ジャパン

ロゴ



目次

ご挨拶

1

Page 6-9

公式成績（選手権の部）

- 1.1 スプリント競技部門
- 1.2 ロング・ディスタンス競技部門

2

Page 10-28

入賞者コメント

- 2.1 スプリント競技部門 男子選手権
- 2.2 スプリント競技部門 女子選手権
- 2.3 ロング・ディスタンス競技部門 男子選手権
- 2.4 ロング・ディスタンス競技部門 女子選手権

3

Page 29-61

競技結果と解説

- 3.1 スプリント競技部門
- 3.2 ロング・ディスタンス競技部門
- 3.3 調査依頼と提訴の回答

4

Page 62-82

大会運営報告

- 4.1 大会企画の経緯
- 4.2 活動実績
- 4.3 競技面の準備経緯
(スプリント競技部門)
- 4.4 競技面の準備経緯
(ロング・ディスタンス競技部門)
- 4.5 会計

5

Page 83-90

イベント・アドバイザー報告

- 5.1 スプリント競技部門
- 5.2 ロング・ディスタンス競技部門

6

Page 91-92

将来への提言

7

Page 93-96

スタートリスト

- 7.1 スプリント競技部門
- 7.2 ロング・ディスタンス競技部門

8

Page 97

大会役員

ご挨拶

日本学生オリエンテーリング連盟会長

河合 利幸



1979年3月にインカレが初めて開催されてから44年あまり、茨城県での開催は四半世紀ぶり3回目となる大会でしたが、いかかだったでしょうか。天気がよかった初日のスプリント競技はつつがなく終わることができた一方、2日目のロング競技では、かなりの雨と低い気温で低体温症が発生したり、蜂の巣による被害が発生して出走中止になったクラスがあったり、それに伴い男子選手権クラスもコースの一部変更を余儀なくされたりとトラブルが続出しました。それでも熱い戦いはいつもと変わらず、無事今年の学生日本一を決めることができました。特にスプリント女子選手権では同タイムで優勝、続く25秒間に6位までが入る、まさにスプリントらしい接戦でした。入賞された選手の皆さん、改めておめでとうございます。

今回のインカレでは、競技面以外に様々な試みが行われました。選手権開始前の地元有志によるチアダンスや稲荷囃子のパフォーマンスは、長いインカレの歴史の中でも初めてです。地域クーポンの配付、待ち行列のできたキッチンカー出店、それに地元特産品の入賞賞品など、地元とのつながりが感じられるものでした。スプリントとロングを同じ会場で行えて、しかも道の駅がすぐそばにあって、お土産も買える。会場含めそこかしこにあ

る芸術作品やギャラリー。アンケートの結果、約7割の参加者がまた来たいと答えており、実行委員会や地元関係者の努力は報われたのではないかと思います。

大会プログラムの挨拶文では、参加者数について触れましたが、それも杞憂だったようです。関東在住者以外にとっては遠方だったにもかかわらず、エントリー数はコロナ前に近い状態まで回復、しかも学年別では1年生が最多という結果でした。競技や上述した試みなどを通じて、その1年生たちの多くが楽しかった、また来たいと思ってくれたのなら、それだけでも大会は成功だったといえるでしょう。今後注目したいと思います。

最後になりましたが、多忙な日々を縫って準備に当たっていただいた実行委員会とその関係者の皆さん、そして大会を側面から支えていただいたUNIVASの方々に改めて感謝いたします。茨城県や笠間市をはじめ地元関係者の皆様には、これまでになく様々な面でご指導ご協力をいただきました。主催者の日本学連を代表して、厚く御礼を申し上げます。

日本学生オリエンテーリング連盟 幹事長

市川 俊介



約四年前、各大学クラブはコロナ禍による厳しい活動制限を受けていました。対面新歓は中止、内外での練習活動禁止、インカレも大会も多くが中止。そんな危機的な状況に陥った後でも、学生オリエンテーリングは折れませんでした。オリエンテーリングを続けトレーニングを積んできた選手たち、オリエンテーリングの共同体を維持し続けた各大学クラブ、非常対応の連続でもセレクションを実施してきた地区学連、インカレという舞台を守り通した日本学連。皆様の頑張りがある、今のインカレがあります。

本年度もインカレスプリントロングを無事開催することができましたこと、本当に嬉しく思います。各選手とも思い思いの準備を重ねてきた当日、一日目のスプリントでは天気にも恵まれた快晴の中で、選手たちがたくさんの応援を背に受けながら懸命に笠間の地を駆け巡り、大きな盛り上がりを見せました。一方、二日目のロングはあいにくの大雨、それに加えて蜂騒ぎというアクシデントに見舞われながらも、運営者の皆様のご尽力と選手たちの頑張りにより、完遂することができました。

そんな本大会ですが、その開催にあたっては本当にたくさんの方にご協力をいただきました。開催をお許しいただいたばかりか、当日も応援に駆けつけてくださいました地元笠間市の皆様。大会

数年前から計画・渉外を行っておいりましたインカレSPUの皆様。大会開催に向け様々な面で貢献してくださいました多くの関係者の皆様。そして何より、開催に向けてこの一年ご尽力くださいました実行委員会の皆様に、学生を代表して改めて感謝申し上げます。皆様のおかげで、私たちはこの舞台を全力で楽しむことができました。本当にありがとうございました。

さて、今年のインカレスプリントロングはこれにて閉幕となります。しかし、インカレはまだ終わりではありません！本大会で納得のいく結果が得られた人も得られなかった人も、次の戦いが待っています！

また3月、インカレミドルリレーの舞台でお会いしましょう！！



2023年度も秋インカレも何とか開催することができました。トラブルも多くありましたが、参加者の方々を含め、様々な形でこのインカレに携わっていただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

今回のインカレは900名を超える参加者がおり、今回も期待に漏れず、熱いレースを見させていただきました。選手の皆さんの様々な感情が込み上げる様子を見て、運営中にもかかわらず、心が動かされてしまいました。特に、選手権クラスに優勝・入賞を掲げて出場し、目標を達成された皆さんの表情やこれまでの努力を思うと、とても心が熱くなりました。目標を達成された方々はおめでとうございます。

一年生をはじめ、インカレに初めて出場した皆さんはどうだったでしょうか。特にロングは天気にも恵まれず、初出場の方には少し厳しい状況だったかもしれませんが、このインカレを通してオリエンテーリングをより好きになってくれた人がいれば、とても嬉しいです。

今年の秋インカレは、終了してしまいましたが、三年生以下の皆さんの学生オリエンテーリング生活はまだまだ続きます。四年生のみなさんも、ぜひ卒業後もオリエンテーリングを続けてほしいなと思います。そして、これまで共に過ごしてきた仲間との繋がりを大切にして欲しいなと思います。

ロング・ディスタンス競技部門 実行委員長

高見澤 翔一



ここ最近、オリエンテーリングの大会はどんどん面白くなっている気がする。そんなことを思っていたのが、今回の運営の出発点でした。

インカレももちろん例外ではありません。この競技が日本に持ち込まれてからある程度年月も経ち、インカレも50年近く続いています。企画者の熱意と技術の進歩に伴って大会運営の常識やそれに対する期待値は更新されていく一方です。魅せる競技としてのGPSトラッキングやライブ映像、コロナ禍を経て停滞していたかと思われた参加者による応援も、以前よりも力を増して復活したように感じています。所属する地域クラブの先輩方とお話していると、私自身もその実感はより一層増えています。

そんな中で、昨今の素晴らしい全日本大会・インカレが与える競技性や演出に対して上がり続ける期待にどう応えるのか、参加者の負担とのバランスはどうなるのか、実行委員長を引き受けさせて頂いてからの難しい悩みでした。トレイン管理や地図作成の持続性、演出に要するコストやUNIVASとの協奏、地域との連携などまだまだインカレ運営も発展途上です。本運営では結果的には、実行委員会内での自主性と各責任者の追い込みにより乗り切ることができたのですが、今回の運営でもまだまだ答えは出ていません。

それでも本大会での様々な試み・トラブル対応が、

この先のインカレの歴史の中で活かされていくことが少しでもあれば幸いです。特にロング・ディスタンス競技部門においては、豪雨や蜂による被害などもあり万全な競技環境をご用意することができませんでした。特に蜂に関しては対応に苦心しましたが、スタート地区や当該コントロールに運営者を派遣しての周知した上での回避が奏功し、実行委員会の責務として学生選手権者を決めるという点においては何とか最低限を保つことができ安堵しております。ただし一般クラスではスタート停止により一部クラスを競技不成立とせざるを得ず、該当する皆様にはお詫び申し上げます。そして最後になりますが、本大会を開催するにあたってご協力を賜りました地域の皆様、ご参加くださった皆様に心より感謝申し上げます。

1

公式成績

1.1 スプリント競技部門

ME		参加人数 62	
順位	氏名	学校・学年	記録
1	橋本遼佑	神戸市立工業 高等専門学校 4	0:12:57
2	寺嶋謙一郎	東京農業大学 (オホーツク) 2	0:13:24
3	加藤賢斗	筑波大学 1	0:13:46
4	上妻慶太	横浜国立大学 3	0:14:00
5	古角海志	東北大学 2	0:14:03
6	根本浩平	東京理科大学 3	0:14:11
7	森創之介	横浜国立大学 2	0:14:21
8	谷口瑞樹	筑波大学 3	0:14:22
9	石原潮人	京都大学 3	0:14:25
10	美濃部駿	横浜国立大学 3	0:14:27
11	久保木航	東京大学 3	0:14:28
12	早川正真	立命館大学 2	0:14:30
13	梶本和	東京大学 1	0:14:33
14	千葉奨太郎	横浜国立大学 3	0:14:36
15	三井健世	東京大学 3	0:14:40
16	波多野直人	大阪大学 3	0:14:42
17	折橋旺	東京大学 3	0:14:46
18	真家遼介	千葉大学 4	0:14:49
19	市川礼人	名古屋大学 3	0:14:52
20	鈴木寛人	名古屋大学 2	0:14:54
21	加賀谷湧	東京大学 4	0:14:55
22	福室凜	早稲田大学 1	0:14:58
23	小野旭陽	名古屋大学 3	0:15:05
24	八巻伶門	新潟大学 3	0:15:07
25	川崎陽暉	茨城大学 3	0:15:11
26	青木悠真	早稲田大学 2	0:15:14
27	酒川卓斗	新潟大学 3	0:15:17
28	神谷篤大	新潟大学 4	0:15:21
29	金子隼人	東京大学 4	0:15:23
30	毛利智紀	京都大学 3	0:15:28
31	佐藤諒平	東京大学 3	0:15:30
32	平出駿	東北大学 3	0:15:36
32	鎌倉京平	筑波大学 4	0:15:36
34	横山大樹	東北大学 3	0:15:41
35	加藤優拓	広島大学 2	0:15:42
36	伊藤悠真	横浜国立大学 1	0:15:43
37	白川和希	東北大学 3	0:15:46
38	政井秀仁	大阪大学 1	0:15:54
39	常広寿哉	慶應義塾大学 2	0:15:58
40	小浦姿	北海道大学 3	0:16:01
41	川邊太清	慶應義塾大学 3	0:16:02
42	丸田祐大	大阪大学 3	0:16:14
43	藤原考太郎	筑波大学 2	0:16:22
44	酒井幸太	名古屋大学 3	0:16:24
45	高橋忠大	東北大学 4	0:16:25
46	浅川竣風	横浜国立大学 3	0:16:28
47	清古光	早稲田大学 1	0:16:36
48	栗原拓未	筑波大学 2	0:16:45
49	竹林寛生	京都大学 1	0:16:54

50	谷口直弥	京都大学 3	0:17:04
51	荒川恭誠	名古屋大学 3	0:17:12
52	大六野祐斗	千葉大学 4	0:17:24
53	堀口航	東北大学 3	0:18:09
54	吉岡奨悟	大阪大学 3	0:18:53
	山口颯大	東京大学 2	DISQ
	竹下舜人	筑波大学 2	DISQ
	野口遊瑚	横浜国立大学 3	DISQ
	澤野祐希	新潟大学 3	DISQ
	安部雄真	東北大学 3	DISQ
	佐藤健人	広島大学 2	DISQ
	稲邊拓哉	筑波大学 3	DISQ
	倉上英	慶應義塾大学 4	DISQ

WE		参加人数 35	
順位	氏名	学校・学年	記録
1	柴崎愛有	新潟大学 4	0:14:06
1	羽鳥汐音	新潟大学 4	0:14:06
3	松尾晴乃	神戸大学 3	0:14:15
4	落合英那	京都大学 2	0:14:28
5	木口瑞穂	慶應義塾大学 3	0:14:29
6	山崎葵	筑波大学 2	0:14:31
7	桑原唯歩	横浜国立大学 3	0:14:58
8	森下遥	千葉大学 4	0:15:17
9	福田有紗	国際基督教大学 4	0:15:19
10	宮澤海帆	横浜市立大学 4	0:15:50
11	牧依瑠香	早稲田大学 2	0:16:04
12	羽岡美紀	京都大学 3	0:16:32
13	沼田奈津	京都大学 2	0:16:36
14	西川真由	日本女子大学 3	0:16:44
14	高野澄佳	大阪大学 4	0:16:44
14	大石遥	新潟大学 4	0:16:44
17	山崎有里彩	慶應義塾大学 2	0:17:01
18	安部紗也佳	横浜市立大学 3	0:17:37
19	藤澤ゆい	神戸大学 3	0:17:41
20	砂田優萌子	お茶の水女子大学 2	0:18:33
21	香西彩名	東北大学 2	0:18:37
22	岩城美奈	東北大学 3	0:18:39
23	片岡明日香	千葉大学 2	0:19:13
24	和田向日葵	法政大学 2	0:19:48
25	小野希美	椛山女学園大学 3	0:20:32
26	山本ひより	名古屋大学 3	0:20:53
27	秋澤実乃里	椛山女学園大学 3	0:21:07
28	浦中美里	東京理科大学 3	0:22:22
29	古谷那奈	千葉大学 2	0:24:19
	樋口佳那	筑波大学 3	DISQ
	中館美卯	横浜国立大学 1	DISQ
	小野塚智美	筑波大学 1	DISQ
	鷺津加子	東北大学 3	DISQ
	杉田瑠菜	京都大学 1	DISQ
	皆上直香	千葉大学 2	DISQ

1.2 ロング・ディスタンス競技部門

ME		参加人数 63	
順位	氏名	学校・学年	記録
1	寺嶋謙一郎	東京農業大学 (オホーツク) 2	1:14:16
2	石原潮人	京都大学 3	1:18:57
3	森清星也	筑波大学 3	1:19:46
4	森創之介	横浜国立大学 2	1:20:07
5	金子隼人	東京大学 4	1:21:24
6	梶本和	東京大学 1	1:22:24
7	美濃部駿	横浜市立大学 3	1:22:33
8	橋本遼佑	神戸市立工業 高等専門学校 4	1:22:42
9	折橋旺	東京大学 3	1:22:44
10	久保木航	東京大学 3	1:24:00
11	三井健世	東京大学 3	1:24:17
12	根本浩平	東京理科大学 3	1:27:01
13	市川優人	早稲田大学 3	1:27:20
14	市川礼人	名古屋大学 3	1:27:52
15	角田和貴	京都大学 3	1:28:17
16	四宮裕一朗	京都大学 3	1:28:35
17	井崎竜之介	横浜国立大学 3	1:28:51
18	佐藤諒平	東京大学 3	1:29:06
19	山口颯大	東京大学 2	1:30:37
20	谷口瑞樹	筑波大学 3	1:30:50
21	小野旭陽	名古屋大学 3	1:31:48
22	田中雅崇	筑波大学 2	1:33:24
23	村岡泰輝	横浜国立大学 4	1:33:35
24	波多野直人	大阪大学 3	1:33:46
25	弓田和生	法政大学 3	1:34:25
26	本多哲大	北海道大学 3	1:34:40
27	堀口航	東北大学 3	1:34:50
28	藤原考太郎	筑波大学 2	1:35:17
29	八巻伶門	新潟大学 3	1:35:56
30	泉浦旭秀	法政大学 2	1:36:34
31	鈴木悠太	東北大学 2	1:36:46
32	栗田稜也	東京大学 2	1:38:25
33	徳力雅哉	立命館大学 4	1:38:34
34	早川正真	立命館大学 2	1:38:48
35	福室凜	早稲田大学 1	1:39:17
36	加藤優拓	広島大学 2	1:39:56
37	中野啓太	東北大学 2	1:40:24
38	加賀谷湧	東京大学 4	1:40:43
39	及川悠太郎	筑波大学 2	1:40:58
40	柴田日向	名古屋大学 2	1:41:12
41	横江明弘	神戸大学 2	1:41:31
42	高塚碩己	千葉大学 3	1:42:31
43	川邊太清	慶應義塾大学 3	1:43:07
44	吉田聖悟	東京大学 2	1:44:15
45	澤野祐希	新潟大学 3	1:44:35

46	神谷篤大	新潟大学 4	1:45:55
47	島田智也	名古屋大学 3	1:46:05
48	満田壮晴	大阪大学 4	1:46:55
49	直江隼輝	筑波大学 2	1:48:01
50	白川和希	東北大学 3	1:48:35
51	一戸厚志	広島大学 3	1:48:44
52	八房稜	千葉大学 3	1:49:56
53	鎌倉京平	筑波大学 4	1:50:02
54	小浦姿	北海道大学 3	1:58:28
55	小島佑太	東北大学 3	2:01:34
56	酒川卓斗	新潟大学 3	2:05:37
57	古角海志	東北大学 2	2:06:33
58	川崎陽暉	茨城大学 3	2:08:58
58	小野慶真	法政大学 3	2:08:58
60	山村瑛	東北大学 2	2:19:33
61	平出駿	東北大学 3	2:19:52
62	杉中海斗	京都大学 2	2:26:29
	倉上英	慶應義塾大学 4	DISQ

WE		参加人数 33	
順位	氏名	学校・学年	記録
1	木口瑞穂	慶應義塾大学 3	1:06:42
2	大石遥	新潟大学 4	1:09:01
3	落合英那	京都大学 2	1:10:44
3	桑原唯歩	横浜国立大学 3	1:10:44
5	砂田優萌子	お茶の水女子大学 2	1:14:38
6	柴崎愛有	新潟大学 4	1:16:52
7	岩城美奈	東北大学 3	1:18:54
8	宮川葵衣	東京理科大学 3	1:21:37
9	山崎葵	筑波大学 2	1:23:41
10	牧依瑠香	早稲田大学 2	1:23:53
11	羽岡美紀	京都大学 3	1:23:59
12	羽鳥汐音	新潟大学 4	1:27:30
13	角本柚香	京都大学 3	1:27:50
14	西川真由	日本女子大学 3	1:27:58
15	樋口佳那	筑波大学 3	1:31:31
16	鷺津加子	東北大学 3	1:31:53
17	小野萌菜	千葉大学 2	1:35:07
18	山本佳奈	東京理科大学 2	1:35:54
19	兼子照実	実践女子大学 2	1:37:36
20	福田有紗	国際基督教大学 4	1:38:14
21	相葉莉子	横浜市立大学 3	1:40:08
22	高野澄佳	大阪大学 4	1:40:21
23	山本ひより	名古屋大学 3	1:46:49
24	宮澤海帆	横浜市立大学 4	1:47:48
25	浦中美里	東京理科大学 3	1:48:11
26	坂池なつほ	筑波大学 3	1:50:48
27	中野友貴	名古屋大学 2	1:58:39
28	片岡明日香	千葉大学 2	2:02:01
29	渡邊朋香	京都大学 2	2:13:17
30	溝端昭子	明治大学 3	2:19:32
	安部紗也佳	横浜市立大学 3	2:30:29
	吉田栞里	椙山女学園大学 3	DISQ
	小野希美	椙山女学園大学 3	DISQ

2 入賞者コメント

2.1 スプリント競技部門 男子選手権

優勝 橋本 遼佑（神戸市立工業高等専門学校 4）

昨年の秋インカレでトップゴールし、最後まで入賞争いに残れた興奮、あと6秒届かなかった悔しさ。湧き上がる様々な感情を噛み締めながら、この1年間を過ごしてきました。あの瞬間から、学生最後のインカレスプリントで優勝することだけを目標にしてきたので、今回の結果が本当に嬉しいです。



昨年度の全日本スプリント3位となり、上り調子で挑んだ今大会。強いプレッシャーを感じながらも、これまで積み上げてきた努力を信じ、万全の準備を整えてレースに臨みました。

当日は待機場で、阪神奈の仲間だけでなく、さまざまな大学の同期や後輩と話しながら、いつもと変わらないリラックスした状態でスタートを迎えることができました。特に、付き添ってくださった阪神奈オフィシャルの皆さんには、スタート直前まで本当に本当にお世話になりました。

レースを振り返ると、細かなミスがいくつかありましたが、勝敗を左右するほどのものではなく、実力を最大限発揮できたと自負しています。次々と前の走者を捉え、「いいレースができているな」と実感していましたが、フィニッシュした際にウィングタイムを1分以上更新していたことには、自分でも驚きました。

私がここまでオリエンテーリングを続けてこられたのは、阪神奈の仲間たちの応援や励ましがあったおかげです。特に、コロナが流行し殆ど活動が無かった中、競技派だった自分と変わらず接してくれた同期の存在がなければ、ここまで続けられていませんでした。ありがとう。フィニッシュレーンに入った瞬間に見えた景色は、今でも忘れられません。また、これまで支えてくれた両親や、本大会を運営してくださった皆様に、心から感謝申し上げます。

次の春インカレはチャレンジャーとして、阪神奈一丸となって頑張っていきます。応援よろしくお願ひします

準優勝 寺嶋 謙一郎（東京農業大学（オホーツク）2）

昨年のインカレスプリントから引き続きの入賞で2位という結果は嬉しい気持ちでもあり、悔しい気持ちも残る結果でした。

昨年の大会から4年生が抜けて、今年は自分にも優勝のチャンスがあると考えていました。当日は順位のことあまり意識せずに自分のレースに集中することを意識してスタートしました。隔離所の静かで緊張感ある空間から、土曜日の家族連れで賑わう公園内に飛び込んで行く感覚はJWOCやAsJYOCのスプリントと似ていて、さらに公園内には人工柵やカメラマンを随所に見ることができ、走りながら「ここは本当に学生の日本一を決める大会なんだ」と感じ気持ちが高まりました。昨年と違うことで昨年はコースのほぼ全ての場所に一般クラスの学生が応援してくれましたが今年はそれが無く、会場1カ所に集中していてそのビジュアル区間に飛び込んでいくと時に聞いたものすごい歓声は今でも鮮明に覚えています。

レースの内容としては全体的にスピードを出すことができました。ただ、優勝した橋本選手と差がついてしまったレッグはゴールの会場に入る前、駐車場を横切る19→20だったと思っています。駐車場のエリアは対策していたものの、負けルートを選んでしまし、終盤の走力差も2位になった原因だと思っています。以上のように悔いも残りますが、質の高いスプリントを楽しめたこと、また入賞できたことを嬉しく思います。

最後になりますが、今大会開催のために尽力して下さった大会関係者の皆様、たくさんの応援を送って下さった皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



第3位 加藤 賢斗 (筑波大学1)

まず、初めてのインカレで入賞することができたのがとても嬉しいです。それと同時に、オリエンテーリングに出会った頃には思いもしなかった結果を残すことができ、驚いています。

レース当日は、待機所やスタート地区でチームメイトやオフィシャルの方々が話してくれたおかげで程よい緊張感を持つことができ、どのようなコースが来るのか、実際のトレインの様子はどのような感じなのかと心の余裕を持つことができました。レース中も、いつもの練習通りの走り、自身の強みを生かせるような走りを意識しました。結果的にベストルートを引きいて実行し続けるこ

とはできませんでしたが、今まで重ねてきた練習やビジュアル区間での仲間の応援を自信に変えて最後まで走り続けることができました。今回の結果は、日々練習に付き合ってくれたチームメイトや指導してくださったコーチの方々、応援してくださった方々のおかげで実ったものだと思います。レース後に初めて気が付いたルートやレース中に焦ってできなかったことがたくさんあり自身の未熟さを痛感しましたが、逆にまだ伸びしろがありもっと成長できると感じました。

一般の部で同期を始め、たくさんのチームメイトが入賞していたことや、次の日のロングを会場で観戦できたことも嬉しく、またインカレ選手権の舞台に立ちたい、上手くなりたいと強く思うようになりました。今回のインカレは、オリエンテーリングがもっと好きになれるような忘れられない大会になりました。

最後になりますが、このような素晴らしい大会を開催してくださった運営者の皆様、応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。



第4位 上妻 慶太 (横浜国立大学3)

私が初めて選手権を走った去年のインカレスプリントは、47位と散々な結果でした。ガチガチに緊張して、手も足も出ませんでした。レースの記憶もほとんどありません。そこから約1年後、このインカレスプリントの舞台で目標としていた入賞を達成することができ、素直にうれしいです。6月のロングセレに落ちてしまい、そこから10月のインカレ本番まではスプリントを重視したトレーニングを積んできました。特に9月後半以降は毎週スプリントの大会に出場し、実戦経験を重ねました。間違いなく、これまでで一番真剣にオリエンと向き合った1ヶ月だったと思います。



本番のレースは、上手くまとめられたものの、100点満点とはほど遠いレースでした。私のオリエンはいつもスロースタートです。しかし今回は特になかなかギアが上がらず、動きが悪いままビジュアルへと突入しました。会場に入った瞬間、眼前に広がる大勢の姿と、響き渡る大歓声。ああ、この体験をするために、私は頑張ってきたんだ。そう思わせるほどの力がありました。このような体験はめったに出来るものではありません。素晴らしい舞台を整えてくださった運営者の方々、本当にありがとうございました。ようやく私のギアも上がり、後半は納得のいくレースが出来ました。しかし、レースが終わってコースを振り返ってみると、上手くいったと思っていた後半も最速ルートをいくつも見落としており、コースの奥深さ、完成度の高さに圧倒されました。それほど複雑な構造ではないこのトレインで、これほどの素晴らしいコースを用意していただきありがとうございました。このレースは一生忘れることはないと思います。

第5位 古角 海志 (東北大学2)

はじめに、インカレという舞台を作ってくださった運営者の皆様に感謝を申し上げます。自分がこのインカレの舞台で入賞できるとは思っていませんでした。まだまだミスが目立つ部分はいくつかありますが、自分が今できる最高のレースができたと思います。

1年生の秋インカレで見た選手権を走る先輩方の熱に当てられ、選手権の舞台に出ることが一つの目標になっていました。それから1年、今回のインカレは自分が選手権として走り、自分が後輩や東北大 OLC 全体に何か心に残るレースが出きたらいいな、という思いでレースを走りました。そんな中、入賞という形でインカレスプリントを終えられたことをとてもうれしく思います。

最後になりますが、東北大 OLC の皆および応援してくださった方々に感謝を申し上げます。2年目でこの舞台に立てた貴重な経験を糧にして、残りのインカレの舞台では成長した姿を見せていけるようにがんばります。そして、今後も大きくなり続ける東北大 OLC を応援よろしくをお願いします。



第6位 根本浩平 (東京理科大学3)

インカレという舞台で入賞することができとても嬉しいです。初のスプリントエリートと入賞も目指せるんじゃないかと淡い期待から序盤から浮き足立ってしまい簡単なミスを連発して、フィニッシュの間はレースに絶望して頭を抱えてしまいました。

それでも大石さんのテクニカルなコースにしがみ続け、ラストの勝負レッグでなんとか入賞圏内までもっていくことができました。高速下で常にルートチョイスを迫ら一発勝負のひりつく今までのオリエンテーリングの中で最も濃い15分間でした。

またオフィシャルの立松さんには、コースの回しに関して色々相談しました。その話の中でしていたトレイン対策のおかげで当日は自信を持ってレースに望むことができ、今回の結果にも繋がりととても感謝しています。

立松監督を筆頭に諸オフィシャル方、OCのメンバーには当日まで競技に集中できる環境を作ってください感謝しかありません。

これがキャリアハイとならないよう来年のインカレスプリントは今年以上の成績を目指します。

最後になりますが、このような学生が輝ける最高の舞台を提供して下さった運営の皆様、本当にありがとうございました。とても楽しかったです。



2.2 スプリント競技部門 女子選手権

優勝 柴崎愛有（新潟大学4）

一昨年はペナ、昨年と今年はセレ落ち、夏休みのスプリントは大きなミスが続き、優勝したい気持ちはあったものの勝てるという自信を持ってないまま挑んだインカレでした。それでも勝てたのは、たくさんの偶然が重なったからだと思います。

私はスタミナが無く、難易度の高いレッグは止まって地図を読むことが多いです。WEの距離はギリギリ持ちそうな2.9km、序盤は難易度が抑えめのスピードの出せるレッグが続いたこともあり、貯金を作るレース展開になりました。前半で飛ばしすぎましたが、今の実力を考えるとベターなレースができたと思います。羽鳥選手と同タイム優勝でしたが、ほんの1秒でも気を緩めていたらと思うと恐ろしいです。インカレ前の大会で声をかけてくださった方、練習のアドバイスをくださった方、一緒に練習してくれた同期や後輩たち、たくさんの方々のおかげで最後まで気持ちを切らさずに走ることができました。

今年の4月からジョグを習慣づけ、様々な練習を取り入れたりして、「一ヶ月そこらで足は速くならない」「食事はしっかり取らないと強くない」ということを強く感じました。これからの大会に向けて、トレーニングとたくさん食べることは継続していきたいと思います。最後に、インカレという舞台を用意してくださった運営者の皆様、本当にありがとうございました。



優勝 羽鳥汐音（新潟大学4）

まず始めに、昨年までは観客としてビジュアルを走る選手の姿を見て自分も走りたいと憧れていたこのレースに、推薦枠という形で挑戦するチャンスをいただけたこと、本当にありがとうございました。

最初で最後の選手権スプリントということで、不安を少しでも自信に変えられるよう対策をしてきました。その対策が本当に力になっているのかわからなかったけれど、やれることはやってきたという自信には確実に繋がっていました。レース前半でポストを通り過ぎてしまうようなロスがあっても、自信がついていたからこそまだワンチャンある！と最後まで足を進めることができたのだと思っています。

そして同期との同タイム優勝という結果を聞いた時、最初は驚きとうれしさでいっぱいでしたが、段々と、もう一步早く足を進められていたらという悔しさが押し寄せてきました。しかし逆に言えば、あの坂で少しでも足を止めてしまっていたら、ルート選択を少しでも迷っていたらこの優勝はなかったわけで、もうとにかく複雑な感情でした。たった1秒で結果が変わっていたとなると、スタートからゴールまで全てが勝負レグだったのだなと思います。

表彰式でもまだ優勝の実感がなく、いつも観客側から見ていたこの場に立っているというのが信じられませんでした。そんなふわふわした気持ちでしたが、自分もこの場に立ったのだという自覚をもってこれから励んでいきたいと思っています。まずはキング牛丼を完食できるようになるところから頑張ります。同期2人の胃袋に追いついて、共に春インカレに向けて頑張ります。

最後に、こんな貴重な経験ができた場を与えてくださった方々、ビジュアルやゴール前で応援してくださった方々、本当にありがとうございました！



第3位 松尾晴乃（神戸大学3）

まず初めに、この素晴らしい大会を開催して下さりありがとうございました。

今大会は、巡航で勝ち巡航で負けた3位だと感じています。1年目2年目のインカレスプリントでは、緊張と焦りから序盤で冷静な判断が全くできず、常に大きなミスを重ねていました。その経験から3年目の今大会では、全体的に、特に序盤はあえて巡航を落とすことを意識して挑みました。その結果過去2年にしたような信じられないミスは大きく減り入賞圏内に入り込むことが出来たと考えています。一方で前半に走力で差をつけられるレッグが固まっていたにも関わらず、あえて巡航を落としたがために優勝者と序盤で大きく差がついてしまいました。正直、体力的な面では前半部分で優勝タイムまでの10秒はまけたと思うので悔しい結果ともなりました。



来年のインカレスプリントではこのような後悔が無いように巡航を意識するとともに、技術力は入賞圏外なので高難度のコースが来ても怯むことの無いよう基礎から練習していきたいです。そして一昨年の松本萌恵、今年の橋本遼佑に続き、絶対この3位という順位を下げることなく上だけを目指し最後のインカレスプリントを終えます。

最後になりましたが、今回の入賞は周りの方々の応援があってこそだと考えています。阪神奈をはじめ、コースを提供して下さいました方、アドバイスを下さった方、運営の方、皆様本当にありがとうございました。

第4位 落合英那（京都大学2）

いまの自分にできることをすべて出し切れたことに対する満足感、昨年度に引き続いて入賞ができた安堵感もありますが、優勝という目標に届かなかったことに対して、また今の自分の実力に対して悔しさのほうが大きいです。ベストルートを選び続けられなかったこと、速いペースを維持できなかったことなどあらゆるところに自分の弱さを感じます。それでもレース前の緊張感も含めて、他人を意識せず純粋にレースそのものを楽しむことができたのは良かったです。いつもと違った盛り上がりをもつ舞台でレースを楽しむことができるのが自分の強さであり、入賞できた要因なのかもしれません。また、ビジュアルポストに近づくにつれて大きくなる応援の声で最後まで頑張ることができました。特に日頃から一緒に活動している京大 OLC の仲間たちには感謝の気持ちでいっぱいです。一人ではできないトレーニングを一緒にしてくれたり、ルート談議に盛り上がったりととても力になっています。ありがとうございました。今回の悔しい気持ちを胸に来年さらに強くなってインカレスプリントに挑むことができるよう頑張ります。今後ともよろしくお祈りします。



最後になりましたが、今大会の運営していただいたすべての皆様に感謝申し上げます。素晴らしい舞台を用意していただき、ありがとうございました。

第5位 木口瑞穂（慶應義塾大学3）

初めて、インカレ入賞という結果を残すことができ、とても嬉しいです。

レース前、4年生である自分にとって、最後のインカレスプリントということで、入賞という結果に対する憧れがある一方で自分の実力不足も感じていました。ですが、次の日のロングもあるしと、開き直り、自分ができるだけのことをやって、諦めず最後までがんばって走ろうという心持ちに切り替えた結果、リラックスしてレースに臨むことができたと思います。

今回のレースは今までで一番楽しく悔しいスプリントでした。

レース中、KOLCのメンバーとすれ違って声をかけあったこと、日吉の階段を思い出しながら全力で階段を登ったこと、応援を背にかっこつけて脱出してしまったこと、私の課題であるロングレッグでまたも良い判断ができなかったこと、先読みしていて瞬時に次の方向へ脱出したこと等々、すべての瞬間が、たった数秒数秒が、尊くて、悔しくて、楽しくて。改めてスプリント競技の面白さを思い知らされてしまいました。

悔しさを晴らすための来年が、自分にはないことがとても残念ですが、自分の課題にもっともっと向き合って、いつか自分にとって完璧なスプリントができる日まで、探求を続けていきたいと思いました。

昨年のスプリントセレは不通過、一般クラスでの出場となりましたが、桃井さんのご指導の元、インカレ一般クラス優勝に向けて、練習や思考を重ねていました。ロングに意識を置いていた今年でしたが、昨年の頑張りを活かせたと思います。

最後になりますが、今までご指導してくださった先輩方や、一緒に練習・対策をしてくれた仲間、ライバルとして立ちほだかりモチベーションとなってくれた選手、そしてこのような素晴らしい舞台を用意してくださった運営の方々、応援してくださった皆様、すべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



第6位 山崎葵 (筑波大学2)

昨年度のインカレスプリントは自分なりに対策と練習をして10位と悔しい結果でした。次は優勝したいと思っていましたが、思うような練習ができないまま1年がたっしまい、インカレスプリント優勝を目指したいが、今の私の練習状況では無理だと思っていました。フォレストに比べて熱意が低かったのだと思います。

出走前の目標は入賞。結果は昨年度頑張っても達成できなかった6位入賞。しかし、嬉しさはなく、この一年のスプリントへの取り組みに対する悔しさがありました。レース中何度も止まり、数回現口スするなど、スプリントが下手であることを痛感するレースでした。とてもおもしろいコースであったにもかかわらず、それを技術不足で満喫できないのは悔しいです。それでも入賞できたのは昨年度大会の反省を受けたレースを数回経験できたこと、長いレグは時間をかけてでも複数のルートを見ることなどと戦略を考えていたことが要因だと思います。現在はスプリントの練習機会を増やしてもっとスプリントを楽しめるようになりたいと思っています。

最後になりましたが、サポートをしてくださったオフィシャルさん、指導をいただいたOB・OGの皆さん、いつも応援してくださる方々、本当にありがとうございました。これからも応援・サポートをよろしくお願いいたします。



2.3 ロング・ディスタンス競技部門 男子選手権

優勝 寺嶋 謙一郎（東京農業大学（オホーツク）2）

始めに、今大会を開催するに当たり尽力された運営関係者の皆様、本当にありがとうございました。特にロングは大雨、蜂などのトラブルもあり大変だったかと思いますが、私たち学生のためにこのような素敵な舞台を用意して下さい、感謝しています。

さて、スプリントのレース前は順位や優勝することをあまり意識せずにスタートしましたが、ロングでは一転、スプリントで負けてしまいロングでは勝つてやるという気持ちでスタートしました。スタート直後から激しい雨で、足下もぬかるんでおりレース序盤はなかなか冷静に走ることができませんでしたが、一步一步確実に進んでいき、徐々に笠間の森に慣れてからはスピードを上げることができました。

今回の勝因としては、天候のこともあり過酷な環境でのレースでしたが、その中で安定した走りが出たことにあると思います。ゴール後、優勝が確定してからは本当にたくさんの方に「おめでとう」と声を掛けていただき、小学校から始めたオリエンテーリング人生で一番幸せで、夢のような時間でした。

今後、春にはインカレミドルがあり、そしてインカレスプリント・ロングはあと2年出場出来ます。さらに来年は年齢的に最後のJWOC、全日本大会ではついにジュニアからシニアクラスになります。今後僕自身、日本国内・海外でさらに活躍できるような選手になれるよう、より一層の努力を積んでいきます。



準優勝 石原潮人（京都大学3）

まずはインカレ開催に尽力くださった運営者の皆様、ありがとうございました。インカレの1週間前に行われた京京立大会において自身も競技責任者を務め、言葉では言い表せないほど苦労をしましたが、インカレを運営することはそれにも増して大変だったと思いますが、大雨にはじまる様々なイレギュラーの中、レースを走れることのありがたさを実感し、感謝しています。

目標こそ優勝でしたが、準優勝は自分のレースをした結果だと受け止めています。自分はこのレースの中で何も特別なことはしていなくて、多くの人が知っている技術、考え方をもって走りました。基本的なナビゲーション、ルートチョイス、タフネス、そして最後まで冷静に自分をコントロールする集中力。秋インカレを目指して取り組んできた1つの成果として、安定したオリエンテーリングを実践することが出来たと感じています。自分の実力を信じていつも通りのレースをすれば良いよと声をかけてくれた方々、これまで応援してくれてきた皆様本当にありがとうございました。今年の春インカレに向けて、そして来年はスプリント競技でも活躍出来るように一層鍛錬を積もうと思います。これからもよろしくお願ひします。



第3位 森清星也（筑波大学3）

一度オリエンテーリングを離れ、所属する大学も変わりましたが、表彰台という場に戻ってくることができ大変嬉しいです。

大会前はまさか入賞することができるとは思っていませんでした。というのも、体力・技術が戻っておらず、喘息症状も良くない中で迎えた大会本番でした。当日は大雨で不安も大きかったですが、コンディションが悪い中での踏ん張りは他選手より自分の方が一枚上手だ、この逆境を利用してやろう、という気持ちで挑みました。



レース中は踏ん張るのが辛い場面もありましたが、周りの選手と競り合いながらのレースはやはり楽しく、苦しい中でも頑張ることができました。特に、OCで切磋琢磨した根本浩平選手との競り合いは楽しかったですし、彼のおかげで痺れるレースになりました。そしてレース最後、会場に帰ってきたときの景色は素晴らしかったです。応援してくださった皆様、ありがとうございました。

結果としては3位ということで、自身が二年前に取った結果より良い順位を残すことができました。実力は昔の方が上だったと思いますが、今は素直にこの結果を喜び、次への努力に繋げていきたいと考えています。

加えて、筑波大学入学同期かつ中高同窓生の加藤賢斗君がスプリント部門で取った順位と同じ3位を取ることができたのはとても嬉しかったです。素晴らしいライバルができたので、今後より一層努力し、今後大成するであろう彼と互いに競り合えるくらいの力を身に付けていきたいです。

最後になりましたが、このような素晴らしい大会を開催していただき本当にありがとうございました。

第4位 森創之介（横浜国立大学2）

まずは素晴らしい大会を運営していただきありがとうございました。

昨年のインカロングは23位という胸を張れるような成績ではありませんでした。様々なミスをしてしまいロングに対して少し苦手意識を残したまま昨年度を終えてしまいました。

今年度に入り、昨年の10月から月間200kmをキープしてきた成果が出てきたのかロングでもスピード感が他の人とも変わらず、自分が満足できる結果も出てくるようになりました。そして今年参加させていただいたJWOCで、ルート、ペース配分などロング走り方が見えてきた気がして、インカロングで優勝という目標を掲げられるくらいロングに対してすごくポジティブになりました。

そして本番ですが、前日のスプリントで思うような走りができず入賞までも逃す結果となってしまいました。自分に対する自信が下がっていましたが、もう失うものはなにもないと思い、頭を真っ白にして結果にこだわらないことにしました。切り替えてある意味気負うものがなにもなくなった気がします。

4位という結果には安堵しています。励ましの声をかけていただいたオフィシャルさんには本当に感謝しかありません。しかしやはり優勝を目標にしていた手前、表彰台に立った時は悔しさがありました。

来年はしっかり優勝という目標を掲げて、その走りができる選手になりたいと思います。

改めてではありますが、KOLCのメンバー、OB,OGさん、その他の応援していただいた全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました



第5位 金子 隼人 (東京大学4)

まず、運営の皆様、悪天候や蜂など様々なアクシデントがあった中、今大会を成功に導いてくださりありがとうございました。冷たい雨の中でサポート、応援して下さったクラブ OBOG、現役の皆様にも感謝いたします。

インカレロングに憧れ、優勝を目指して長年取り組んできました。しかし、実力不足だった一昨年、怪我に泣いた昨年と満足のいく結果が出せないまま、気づけば最後の1回となってしまいました。今年も夏に怪我が再発、1ヶ月以上の離脱を余儀なくされ、復帰後も自信になるレースができないまま秋インカレを迎えました。「自信は全くない、でも残ったインカレロングは今回しかない、、」当日は地に足のつかない、どこかふわふわして落ち着かない気持ちでいたことを覚えています。レース開始後もその感覚は続き、瞬く間にレースは壊滅的状態となります。6分ミス、その直後に2分ミス、転倒してビニールに穴が開き地図は浸水、優勝どころか入賞すら不可能に思える、紛れも無い「終戦」でした。しかし、そこで諦めず、スイッチを入れ直すことができました。完全に目の前のレッグに集中するようになり、スピードと安定感の共存する、これまでにない感覚すら感じました。気づいたらもうフィニッシュで、自分の名前が1番上に来ることは当然ながらありませんでしたが、楽しくレースを終えることができました。

今回のインカレは、自分の心の弱さ、強さを両方感じるものでした。結果は満足には程遠いものですし、最後残された春インカレに向け、今度は自信を持って臨めるよう、しっかりと準備していきたいと思えます。



第6位 梶本和（東京大学1）

JWOC2023 から JWOC2024 への中間地点として、このインカレロングを位置づけていました。自分の技術力を客観的に考慮した結果6位入賞を目標にしていたのですが、なんとか上級生の選手らの間に割って入ることができ、入賞をつかみ取ることができたのは大変嬉しいです。

7月から9月の間、丸々2か月間一切オリエンテーリングをせずにフィジカルだけを鍛えていました。これはオリエンテーリングの“感覚”を忘れかねない、結果を出さなければならない競技者としては大きな決断でしたが、ロング競技における自分の強みを伸ばすことができ、漠然とですが良かったのではないかなと感じます。しかし技術力は未熟なもので、このレースでも悔しい場面がいくつもありました。特に、絶対に間違えられない道辿りで初歩的なミスをしてしまい、大きくタイムに影響しました。もう数ステップ強くなるために、確かな実行力を獲得し、難易度の高いルートチョイスから逃げないための自信を得るために努力したいと強く思います。

大学生のオリエンテーリングの世界に飛び込んで今感じるのは、非常に手厚いサポートをいただけているということです。オフィシャルさんのお力添えはもちろんのこと、この素晴らしい舞台を作り上げてくださった運営の皆様のご尽力には大変感謝しています。また、強雨の中応援をし続けてくださった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



2.4 ロング・ディスタンス競技部門 女子選手権

優勝 木口瑞穂（慶應義塾大学3）

計センを通し、優勝が決まった瞬間は、信じられず、ぼかんとしてしまいました。素直にすぐ喜べなかったことを今でも後悔しています。

私にオリエンテーリング愛を注ぎ込み、私にとって神で師匠な岩崎先輩(慶應 OG2 年)の前で、岩崎先輩が入賞したときの黄色慶應トリムを着て走り、優勝という結果を残せて、本当に嬉しいです。また、いつも私を応援してくれている家族にも、優勝カップを見せることができ、とても嬉しいです。



ロングで2位以内に入ること、卒業までに優勝、中途半端だったスポーツ人生でちゃんと結果を残して家族への感謝を伝えること、これらが4月に立てた目標でした。笠間の旧図を壁に貼りました。しかし、レースが一週間後に迫った時、目標を達成できる自信はなく、不安とプレッシャーでとても緊張してしまいました。そんな時、ドイツにいる清水コーチの助言や、過去のインカレ入賞者のコメントが心の支えとなりました。「いつも通り、自分のできることを淡々とやる。結果がついてきたらラッキー。」そう心に決め、ある意味開き直った結果、緊張が解け、レースに対してワクワクする気持ちで臨めました。

レース中、ルートチョイスに時間がかかったり、細かいミスをいくつかしました。でも、ミスをしてそこから最善を尽くす事に集中しつづけ、登りは全て走りました。大雨の中の大冒険を終始楽しみました。

正直、今回の優勝は、ラストスタートや大雨、他選手のミス等様々な幸運が重なった結果である事は自覚しています。でも、自分のこれまでの「探究」の積み重ねの成果であることには自信を持ちたいと思います。泣いても笑っても最後の春インカレでは、自分至上最高のオリエンテーリングを目指し、探究を楽しみ重ねていきます。

改めて、大雨の中、このような素晴らしい大会を開いてくださった運営の方々、応援して下さった方々、そして、岩崎先輩や清水コーチ、KOLCの先輩、仲間や、オリエンテーリングを通して出会った全ての方々に感謝いたします。ありがとうございました。

準優勝 大石遥 (新潟大学 4)

私のインカレロングについてお話する前に、まずは多くの支えてくれた皆さんにお礼を言いたいです。スプリント競技が終わり、同期2人のW優勝で嬉しい反面、不甲斐ない結果に終わった私のメンタルは地に落ちていました。そんな中、多くの励ましの言葉をいただき、鼓舞してもらい、2日目のロングに向けてメンタルを持ち直すことができました。ありがとうございます。

レース内容としては、1→2で間違えて4ポに向かってしまうという大きなミスをしたのですが、逆にそこで止まって深呼吸をしたことでその後は大きなミスをすることなくゴールできました。今年に入って自分のレースをできなくて悩んでいた日々が続いていましたが、やっと何かを得られたような安心感と走り切れたという満足感でいっぱいでした。

やっぱり春インカレは準優勝で満足するような自分ではいたくないので、ますますトレーニングを頑張りたいと思います。本当に多くの方に支えられていることを改めて実感しました。感謝の気持ちを持ちつつ、全力でオリエンテーリングに向き合っていきたいです。

最後になりましたが、一緒に選手権で戦った同期の2人、応援して下さった皆様、運営者の皆様、本当にありがとうございました。



第3位 落合英那 (京都大学 2)

やはり悔しいという気持ちが、入賞した嬉しさなどプラスの感情よりも先に出てしまいます。自分のなかでは正直良い感じで走れているわけではなかったものの、無難にまとめて相対的に上手くいった中で、7番での大ミスはとてもし悔しいものです。どうしたらミスを防げたのか、ミスを最小限に抑えられたのかを今でも考えることがあります。答えが一つでないからこそ、ずっとすっきりした気持ちにならないのかもしれませんが、この気

持ちを晴らすことができるのは、もっと速くなって再びインカレの舞台で良いレースをすることしかないと思っています。来年のインカレロングで自分にとって最高のレースができるように今から努力を積み上げていきます。今後ともよろしくお願いします。

自分のレースに関しては悔しいという一言に尽きますが、途中まで良いレースができたことや大ミスのあとの数レッグで1位ラップをとれたのは、皆様のサポートや応援の力だと思っています。特に日頃から一緒に活動している京大OLCの仲間たちには感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

最後になりましたが、今大会を運営していただいたすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。素晴らしい舞台を用意していただき、ありがとうございました。



第3位 桑原唯歩（横浜国立大学3）

初めてエリートを走った1年前のインカレロングは、森の中でただ一人淡々と走ることをのめり、フォレストでもっと上を目指したいと思ったきっかけとなりました。その時から1年の間、ミスをして思うようにいかないレースを繰り返しながらも自分の課題や弱点と真剣に向き合ったことで、できるようになったことが少しずつ増えていき段々とフォレストでの成長と自信を感じるようになっていったと思います。

そして今年もこの特別な舞台で走ることができ、今までのレースを思い出しながらやるべきことを1つずつこなしていこうという気持ちで臨みました。レース中は並走区間や現在地が曖昧になった場所で焦りを感じる場面があったものの、落ち着いてと言い聞かせながら自分のベストを尽くし、全力を出し切ることができたと思っています。1時間強という長いレースを通して、頭をフル回転させ自分をコントロールしながら走り続けることの難しさ、楽しさを再認識することができました。そしてオリエンテーリング競技はとても奥深く、まだ自分にたくさんある課題を克服し、強くなりたいという思いがさらに大きくなりました。

自分が成長し、このような結果を出すことができたのは、いつもご指導くださる先輩方、それぞれの目標に向けて一緒に頑張る仲間たちがいたからだと思います。今後も春インカレやその先に向けて切磋琢磨しながら共に頑張っていくことがとても楽しみです。

これからもさらに上を目指してオリエンテーリングと向き合い、努力していきたいと思っています。



第5位 砂田優萌子（お茶の水女子大学2）

お茶大の先輩ふたりが卒業し、「今度は私がお茶大の、OLK 女子のエースになる」と春インカレで宣言してから迎えたはじめてのインカレでした。

私は今回インカレロング5位という結果を残すことができましたが、これは私の運がよかったからだどひしひしと感じています。私にインカレ入賞レベルの実力と努力があったかと問われると、胸を張って頷くことはできません。私以上に実力がある選手、努力してきた選手がたくさんいることを私は知っているからです。それでも JWOC をはじめとする様々な経験を通して、たとえ運であったとしても、インカレロングという大きな舞台で結果を残せるレベルまで成長できたことはとても嬉しいです。これは私だけの力では絶対になくて、背中を追わせてくれる先輩や一緒に戦ってくれる同期、カッコいい姿をみせたいと思わせてくれる後輩や応援してくれる方々とたくさんの人に支えられて得られた結果です。

今回のインカレで、私のオリエンテーリングはまだまだこれからだな、ということを変えて噛み締めました。まずは春、インカレロング入賞は運ではなくて実力でつかみ取ったんだと自信をもって言えるようなレースができるように頑張りたいと思います。応援よろしくお願いします。



第6位 柴崎愛有（新潟大学4）

これまでのインカレロングはセレ通過することができず、今回が最初で最後の選手権クラスになりました。夏休みにはスプリントよりもロングで勝ちたいと思っていました。しかし当日は S-1 から5分ミス、1-2ポでは現ロスと酷いレースになってしまいました。2ポについた時点で入賞はもう厳しいと思いましたが、前日の Twitter を思い出しました。「ロングは最後まで何があるかわからない」「最後に逆転の可能性もある」その言葉を信じて、3ポから勝負だと気持ちを切り替えて走りました。結果、ギリギリ6位に滑り込むことができました。悪天候やスタート前のトラブルにも動じない強いメンタルと集中力も足りなかったと思います。

インカレロング以降、レースの最後まで集中力が続かない状態が続いています。春インカレこそは勝てるように、練習一本一本を大切に、集中して取り組んでいきたいと思います。

最後に、インカレという舞台を用意してくださった運営者の皆様、本当にありがとうございました。



3

競技結果と解説

3.1 スプリント競技部門

コース設定者 大石 洋輔

【コンセプトの設定】

トレインの特性、オリエンテーリングのコース、スプリントのコース、インカレのコースの4項目に分けてコンセプトを設定した。

▼ テレインの特性

コースセットの際に大きく影響を及ぼすのがテレインの特性である。本大会で使用した笠間芸術の森は下記特徴がある。

- ・ テレインの大部分を走行可能度の高いオープンが占め、一部オープンの周りを通行不能な植え込みが囲んでいる。
- ・ 西エリアを除き、アップダウンに富んでいる。特にテレイン中央の山塊は斜度も厳しい。
- ・ 駐車場やスプリント競技に不向きな山林部が公園の半分程度を占めており、使えるエリアに制限がある。
- ・ 北東部の陶芸の丘エリア／南東部のスケートボード近くは公園利用者も多く、安全性の観点から使用方法に工夫が求められる。

以上の特性を把握したうえでコースセットを行った。

▼ オリエンテーリングのコースとして

「オリエンテーリングのコースを組む」という文脈にて IOF の競技規則を参照した。

重要な事項は多岐に渡るが、その中でも競技規則-付録 2>コースプランの原則>3,オリエンテーリングのコース>3.4 コースレック>3.4.1 良いレック、より【レック長・難易度・課題にバリエーションがあること】を重視した。具体的には

- ・ レック線長が一定ではなく、50~300m 程度の幅で交互に組まれていること
- ・ 全て中途半端に難しいレックが連続するのではなく、高難易度／シンプルなレックが入り組んでいること
- ・ ルートチョイス／実行／直進／など課題が分散すること

を意識した。

▼ スプリントのコースとして

「スプリント競技のコースを組む」という文脈にて IOF の「Guideline for Course Planning(Sprint)」を参照した。こちらはスプリント競技の特徴／考慮すべき事項が網羅的に記載されているので是非参照してほしい。ガイドライン内の特徴を記載した3項に対し、上記したテレインの特性を鑑みてコンセプトの大枠／使用エリアを決定した。

▽ 複雑な環境下で読図しながら地図を解釈すること

残念ながら笠間芸術の森公園はトレインの多くがオープンに占められており、複雑な構造下での読図力を試すことは難しい。ただし、トレイン中央北の植え込み／南西部の陶芸大学周辺は複雑な構造を有す。残念ながら陶芸大学周辺は視認性が低く衝突など危険の可能性があったため一般クラスでは一部クラスのみ使用に留めた。

▽ 高速下でナビゲーションを実行すること

スプリント競技はオリエンテーリング種目の中で最も「高速下で走る」競技である。高速で走るからこそ机上では容易なルートチョイスも難易度が上がるし、一見すると容易なナビゲーションの難易度も上がる。机上ではどうしてもルートチョイスの方に注目してコースセットをしてしまうが、実際に現地で走った際に高速下でナビゲーションが実行されているかは注意する必要がある。

上述のトレイン特性の通り、本トレインはアップダウンに富んだ公園だ。そのため斜度の厳しい中央山塊は全クラスで、なだらかではあるが全体的にアップダウンの激しい北東エリアについては選手権クラスでは使用しないこととした。

▽ ルートチョイスがあること

いわずもがなルートチョイスはスプリントの醍醐味だ。ガイドライン内に記載はないが、「ただルートチョイスがあるだけでなく、ルートチョイスによってタイム差が生まれること」を意識し、人工障壁などを用いながらコースを作成した。

▼ **インカレのコースとして**

特に規則などは参照していないが、選手権クラスは各地区のセレクションを勝ち上がったものだけが走れる特別な舞台だ。

そのため、選手権クラスでは

- ・ 視認性が低く危険が伴うが複雑な構造を持つ陶芸大学エリアを役員配置によって使用する。
- ・ ビジュアル区間の設置、及びビジュアル後のレックが最高難易度になるような調整以上の取り組みにより、「魅せる」工夫をした。

【レース解説・レック解説】

▼ ME テーマ解説

男子コースでは、各エリアの特徴を踏まえて 4~5 レックごとにテーマを設けている。まずはそちらの補足をしたうえで、各レックについて解説していく。

▽ △~4

スタート直後ということもあり、基本的なパーク O の要素を多く盛り込みつつ、2~3 択のチョイスを問いた。簡単な分スピードを上げつつも、4 番以降のルートチョイスへの先読みが出来ると理想的だろう。

▽ 4~8

花壇の通行不能部分とオープンの人工障壁を織り交ぜ、ルートチョイスによって差が付くような構成とした。チョイスで最適解を選ぶのは勿論のこと、ナビゲーションが簡単な区間でもあるためスピードのギアを上げられるかが上位に食い込むためには必須となるだろう。

▽ 8~14

似た構造が複数存在する植え込みエリアなどを中心に、現地のナビゲーションを素早く正確に実施できるかが鍵となる。私は実際にこのエリアで選手権クラスの観戦をしたが、上位選手の無駄のなく美しいナビゲーションに感銘を受けた。

また、ビジュアル前にはやや体力負荷が高いレックを織り交ぜた。終盤の回しに向けて先読みをするのか、それともギアを上げて数秒を削り出すのか、選手の戦略がラップにも表れるだろう。

▽ 14~◎

ナビゲーション負荷、ルートチョイスともに、最も難易度の高いエリアとなる。14→15 や 19→20 はルートによって 10~15 秒程度がつくように設計した。特に 19→20 は一見すると最速そうな駐車場ルートが最もタイム的には遅く、優勝争いに大きな影響を与えたレックとなる。

▼ ME レック解説

△→1

▲橋本 0"23 ▲寺嶋 0"23 ▲加藤 0"23 ▲上妻 0"25 ▲古角 0"22 ▲根本 0"23

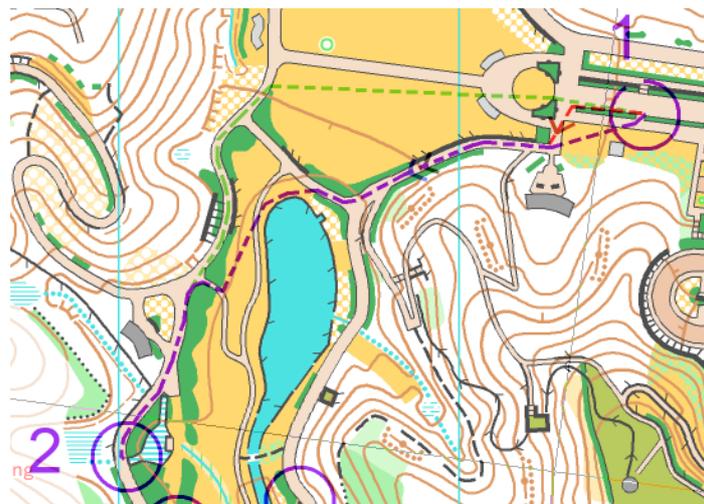
スタート直後ということもあり、チョイスは無いが細かいナビゲーションを最初から正確に実行できるかを問いた。入賞者は堅実に実行できている。7 位の森選手（横浜国大 2）はここで 15 秒程度のミスをしてしまい苦しいスタートとなってしまった。



1→2

▲橋本 0"52 ▲寺嶋 0"50 ▲加藤 0"50
▲上妻 1"04 ▲古角 0"51 ▲根本 1"08

最初のルートチョイスレック。池の近くを走る真ん中ルートが最速、上妻選手のようにレック線に対して右に巻くのが次点、池を道で渡る左ルートが最も遅い。上妻選手が唯一右ルートを選択し、他の選手に10~15秒ほど遅れを取ってしまった。



2→3

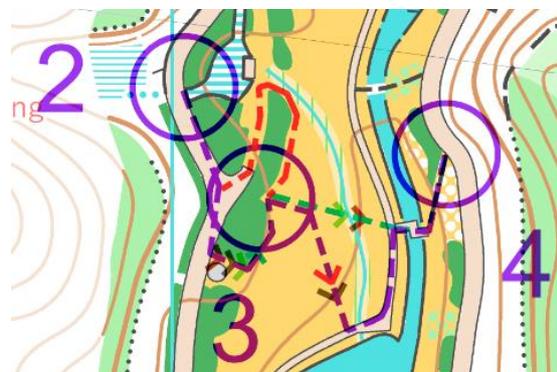
▲橋本 0"15 ▲寺嶋 0"15 ▲加藤 0"23 ▲上妻 0"17 ▲古角 0"15 ▲根本 0"19

3番コントロールの藪を南 or 北から巻くかでタイム差が付いている。実際に長さを計測すると北は南に比べて15m長かった。小さいがこの積み重ねがスプリント競技なのだと実感する。

3→4

▲橋本 0"26 ▲寺嶋 0"14 ▲加藤 0"29
▲上妻 0"24 ▲古角 0"21 ▲根本 0"21

レック真ん中あたりにある通行可能な水系を不能と誤った判断をした選手にミスタイムがつく結果となった。知識として渡れると分かっているにもかかわらずインカレの緊張感の中だと誤った判断をしてしまうことは大いにある。



△~4 総評

▲橋本 1"56 (8位) ▲寺嶋 1"42 (1位) ▲加藤 2"05 (15位)
▲上妻 2"10 (29位) ▲古角 1"49 (2位) ▲根本 2"11 (32位)

※カッコ内は4番終了時点での順位

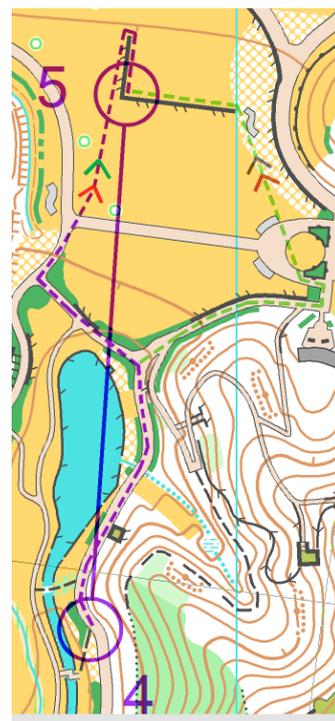
寺嶋選手、古角選手がそつのないオリエンテーリングでワンツースを飾ってのスタート。橋本選手、加藤選手は2→3→4エリアでのミスが響いて8位と15位に、上妻選手は1→2のミスが響く形となった。

とはいえレースはまだ始まったばかり。前半は脚を温存して後半に向けた先読みをしている選手もいたことだろう。各選手の戦略次第でまだまだ巻き返しは十分可能だ。

4→5

▲橋本 0"58	▲寺嶋 1"03	▲加藤 0"57
▲上妻 1"05	▲古角 1"07	▲根本 1"05

人工障壁を用いてルートチョイスを生んだ。観戦ガイドに記載しているが、レック線に対して左のルートの方が右よりも 20mほど短い。入賞者の中では橋本選手・寺嶋選手・加藤選手が左を、上妻終了・古角選手・根本選手が右を選択した。実際のタイムを見ると左と右で約 5~10 秒程度の差が付いている。

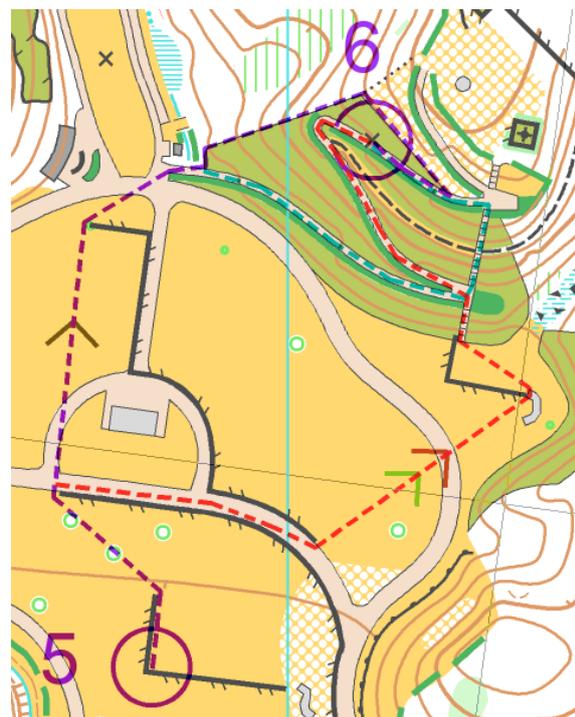


5→6

▲橋本 1"27	▲寺嶋 1"36	▲加藤 1"26
▲上妻 1"41	▲古角 1"30	▲根本 1"30

入賞者の間でも大きくルートが分かれた。橋本選手が唯一不整地を駆け上がるルートをチョイスしており、寺嶋選手、古角選手は山エリア入り口までは左→道を走るルートを選択。加藤選手、上妻選手、根本選手は真ん中よりのルートを選択した。

最速は加藤選手、プランナー想定もこちらのルートだった。橋本選手の山ルートは距離が他より 30m 程度短いスピードに乗れない分遅いと想定していたが流石のフィジカルである。



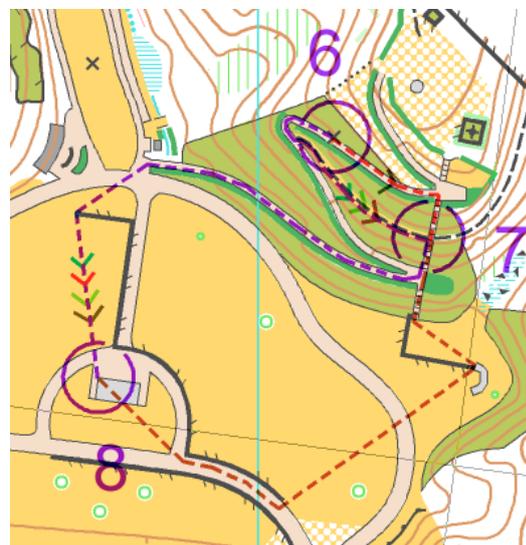
6→7

▲橋本 0"18 ▲寺嶋 0"14 ▲加藤 0"18 ▲上妻 0"20 ▲古角 0"15 ▲根本 0"17

7→8

▲橋本 0"45 ▲寺嶋 0"45 ▲加藤 0"44
▲上妻 0"48 ▲古角 0"49 ▲根本 0"55

根本選手以外はすべてレック線進行方向に対して右側をチョイスした。右は左より 15m 程度短いうえ、下り基調でスピードに乗れる。実際に 10 秒程度の差が付いている。



4～8 総評

▲橋本 3"28 (3 位) ▲寺嶋 3"38 (1 位) ▲加藤 3"27 (5 位)
▲上妻 3"54 (26 位) ▲古角 3"41 (4 位) ▲根本 3"47 (18 位)

※カッコ内は 8 番終了時点での順位

寺嶋選手がそつのない走りで 1 位をキープ、橋本選手と加藤選手が勝負レックのルートチョイスを見事見破り上位に浮上した。上妻選手と根本選手は何か所かルートチョイスでミスをしており順位としては下にいるがまだまだ射程圏内。

8→9

▲橋本 0"33 ▲寺嶋 0"29 ▲加藤 0"33 ▲上妻 0"30 ▲古角 0"37 ▲根本 0"29

公園のオープン内を真っ直ぐ進む力を問うた。橋本選手と古角選手が手前の道に吸い込まれてしまい 5 秒程度のミスをつけている。

9→10

▲橋本 0"15 ▲寺嶋 0"17 ▲加藤 0"18 ▲上妻 0"31 ▲古角 0"16 ▲根本 0"16

10→11

▲橋本 0"13 ▲寺嶋 0"13 ▲加藤 0"12 ▲上妻 0"13 ▲古角 0"14 ▲根本 0"13

11→12

▲橋本 0"33 ▲寺嶋 0"34 ▲加藤 0"31 ▲上妻 0"33 ▲古角 0"37 ▲根本 0"32

9~12 は似たような植え込みが連続しておりナビゲーション難易度が高い。実際に併設クラスや一部選手権出場者もこのエリアで細かなミスを重ねていたが、流石入賞者達というべきか、ミスを最小限に抑えこのエリアをこなしている。

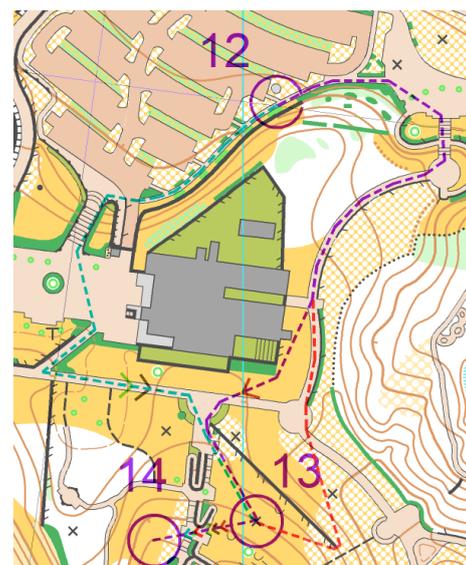


12→13

▲橋本 1"14 ▲寺嶋 1"11 ▲加藤 1"16
▲上妻 1"13 ▲古角 1"17 ▲根本 1"16

会場に向かって2択のルートチョイス、辛い坂を駆け上がるフィジカル、ビジュアル後の先読みを課題として設定した。

寺嶋選手/上妻選手/古角選手がレック線進行方向右を、橋本選手/加藤選手/根本選手が左側のルートを選択した。距離は右が左より10m短いが階段があるためほぼ同タイムとなったようだ。



13→14

▲橋本 0"10 ▲寺嶋 0"09 ▲加藤 0"08
▲上妻 0"10 ▲古角 0"11 ▲根本 0"12

8～14 総評

▲橋本 2"58 (2位)	▲寺嶋 2"53 (1位)	▲加藤 3"00 (4位)
▲上妻 3"10 (14位)	▲古角 3"12 (5位)	▲根本 2"58 (6位)

※カッコ内は 14 番終了時点での総合タイム

比較的体力負荷が高いエリアとなるが、上位 3 名は素晴らしいタイムとなった。特に加藤選手は 1 年生ながら素晴らしいタイムである。根本選手は 8 番まで 18 位と苦戦していたが、このエリアの好走で一気に入賞圏内に食い込んできた。

14 番時点で 2 位の橋本選手と 1 位の寺嶋選手の差は 9 秒。2 位橋本選手と 3 位加藤選手の差が 23 秒あり、優勝争いはこの 2 人に絞られた。

14→15

▲橋本 1"38	▲寺嶋 1"48	▲加藤 1"55	▲上妻 1"33	▲古角 1"49	▲根本 1"47
----------	----------	----------	----------	----------	----------

終盤の目玉レック①。ビジュアルで大きな声援を受けた後に幅広いルートチョイスが試されている。

まずは脱出で橋本選手のようにアップ損にならないようなコンタリングぎみのチョイスができるかが重要。入賞者の中では唯一橋本選手がコンタぎみの脱出を選択した。実際に現地で観戦していても橋本選手の走りには迷いがなく、彼の美しい走りには運営者一同感動した。

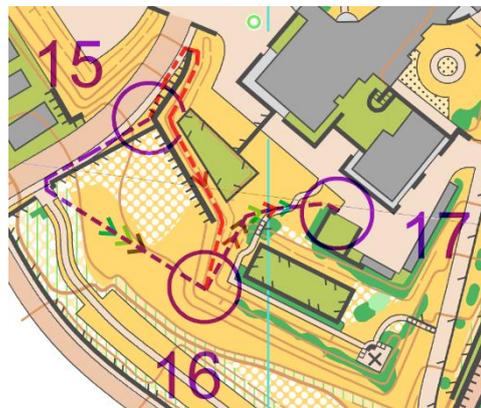
しかしながら橋本選手はその後の陶芸大学周りで簡単なミスをしてしまった影響もあってか、上妻選手が一位ラップを獲得している。



15→16

▲橋本 0"27	▲寺嶋 0"31	▲加藤 0"33
▲上妻 0"27	▲古角 0"29	▲根本 0"32

レック線進行方向右のルートが 20m ほど短い。
タイムとしても 5 秒ほどの差が付いている。細かい
いがこの積み重ねが大事。



16→17

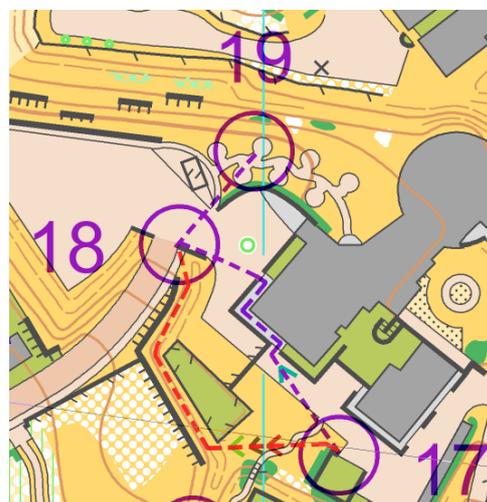
▲橋本 0"16	▲寺嶋 0"17	▲加藤 0"16
▲上妻 0"17	▲古角 0"17	▲根本 0"18

17→18

▲橋本 0"27	▲寺嶋 0"27	▲加藤 0"26
▲上妻 0"28	▲古角 0"28	▲根本 0"31

18→19

▲橋本 0"13	▲寺嶋 0"13	▲加藤 0"10
▲上妻 0"12	▲古角 0"19	▲根本 0"14

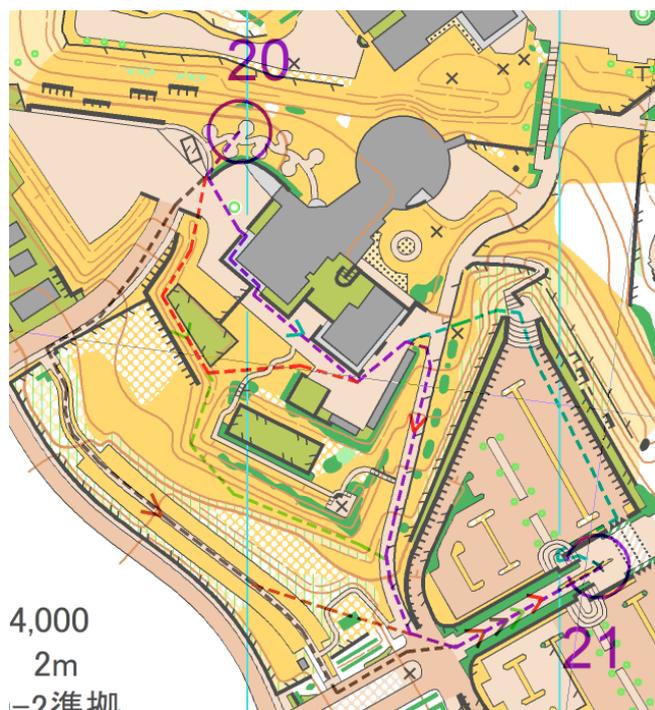


19→20

▲橋本 1"10	▲寺嶋 1"26	▲加藤 1"26
▲上妻 1"16	▲古角 1"29	▲根本 1"25

終盤の目玉レック②。一見すると寺嶋選手のように駐車場を通るのが速そうだが、距離は他ルートと10mほどしか短くなく、その分アップダウンが発生するため、試走時点では最も遅いルートと想定していた。最速想定は上妻選手のようにうまくオープンの上を走るルートで、優勝した橋本選手に次いで2番目のタイム。

橋本選手のルートは上妻選手よりも20mほど長いのだが、タイムは6秒速い。優勝者の最後の追い込みには天晴である。



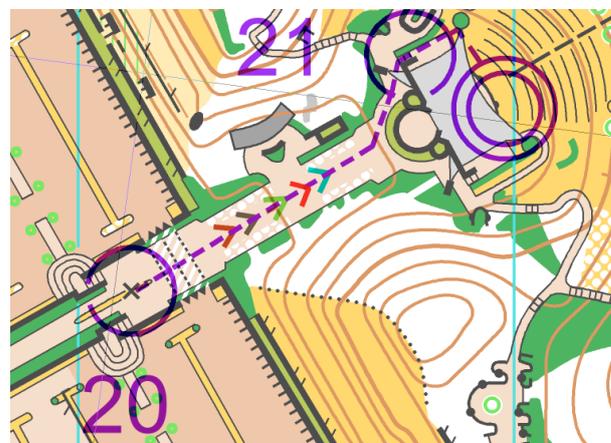
20→21

▲橋本 0"15	▲寺嶋 0"19	▲加藤 0"18
▲上妻 0"21	▲古角 0"20	▲根本 0"20

会場に向かって走るだけ。走るだけにも関わらず橋本選手は他選手より3~5秒程度速い。圧倒的である。

21→◎

▲橋本 0"09	▲寺嶋 0"10	▲加藤 0"09
▲上妻 0"12	▲古角 0"10	▲根本 0"08



14～◎総評

▲橋本 4"35 (1位)	▲寺嶋 5"11 (2位)	▲加藤 5"14 (3位)
▲上妻 4"46 (4位)	▲古角 5"21 (5位)	▲根本 5"15 (6位)

※カッコ内は最終順位

14 番終了時点では寺嶋選手に 9 秒ほどビハインドだった橋本選手が寺嶋選手と 36 秒差をつける圧倒的な走りをみせた。20→21 で見せた圧倒的な走力に加え、美しいルートチョイスとナビゲーションを見せており、最難関の終盤エリアを見事に攻略してみせた。

また、上妻選手も橋本選手+10 秒ほどで終盤エリアを走り、14 位から一気に 4 位に浮上した。加藤選手、古角選手、根本選手は崩れない安定した走りを見せ、入賞を決めた。

▼ ME クラス総評

▽ 優勝争い

序盤は寺嶋選手が先行し、中盤で橋本選手が追い付き、終盤に寺嶋選手が細かなミスが続いてしまったところを橋本選手の爆発力が刺した展開となった。

橋本選手の走りは素晴らしく、コースを把握した全日本スプリントチャンプの橋選手の前走をも超える結果となった。彼の今後の全日本の舞台での走りにも要注目だ。

▽ 入賞争い

6 位の根本選手+1 分の中に 19 人もの選手がいる非常に逼迫したレースとなった。凡ミスをしていないこと、5~10 秒ほどの差が付くルートチョイスを確実に決めきること、このあたりが入賞ラインを分ける要素となっただろう。入賞者は細かなミスはあれど、10 秒以上の凡ミスをしているものは一人もいなかった。机上で見ると絶対にしないようなミスもインカレという舞台では起きうるもの。大舞台で実力を発揮した彼らの勝負強さにも拍手を送りたい。

▼ WE テーマ解説

女子コースでも、男子同様各エリアの特徴を踏まえて 4~5 レックごとにテーマを設けている。まずはそちらの補足をしたうえで、各レックについて解説していく。

▽ △~5

花壇の通行不能部分とオープン的人工障壁を織り交ぜ、ルートチョイスによって差が付くような構成とした。チョイスで最適解を選ぶのは勿論のこと、ナビゲーションが簡単な区間でもあるためスピードのギアを上げられるかが上位に食い込むためには必須となるだろう。

▽ 5~11

似た構造が複数存在する植え込みエリアなどを中心に、現地のナビゲーションを素早く正確に実施できるかが鍵となる。

また、ビジュアル前にはやや体力負荷が高いレックを織り交ぜた。終盤の回しに向けて先読みをするのか、それともギアを上げて数秒を削り出すのか、選手の戦略がラップにも表れるだろう。

▽ 11~◎

ナビゲーション負荷、ルートチョイスともに、最も難易度の高いエリアとなる。11→12 や 16→17 はルートによって 10~15 秒程度がつくように設計した。特に 16→17 は一見すると最速そうな駐車場ルートが最もタイム的には遅く、優勝争いに大きな影響を与えたレックとなる。

▼ WE レック解説

△→1

▲柴崎 0"25 ▲羽鳥 0"26 ▲松尾 0"28 ▲落合 0"28 ▲木口 0"30 ▲山崎 0"28

男子クラス同様、選手権クラスの緊張感の中で細かいナビゲーションが正確に実行できるかを問いた。入賞者は全員漏れなく無駄のないルートを取っており流石である。

1→2

▲柴崎 0"35 ▲羽鳥 0"39 ▲松尾 0"38 ▲落合 0"37 ▲木口 0"35 ▲山崎 0"35

細かいがレック線進行方向に対して左側の方が 10m ほど短い。木口選手と山崎選手が左を選択し、全体でも 3 位の好ラップを出した。羽鳥選手は 2 番のコントロール周りで簡単なミスをしてしまった。



2→3

▲柴崎 1"53 ▲羽鳥 1"53 ▲松尾 2"03 ▲落合 2"10 ▲木口 2"00 ▲山崎 2"27

WE 最初の勝負レック。山崎選手以外が通過している花壇エリアの階段と道が交差している箇所までの距離としてはレック線進行方向に対して右（松尾選手）→真ん中（落合選手）→左（柴崎選手、羽鳥選手、木口選手）の順に 10m ずつ短い。その後の 3 番までのルートは階段を上の方が道を巻くより 20m ほど短いがアップが少し増える。

松尾選手はルートとしては良いが上位 2 名より+10 秒ほどのタイムを計上しており、チョイスの時間で少しタイムロスがあったのかもしれない。

この程度の距離差なら、見えたルートを全力で走る戦略も大事になるだろう。

山崎選手は山ルートを選択したうえ、少し実行のミスも重なってしまいトップ+30 秒ほどのミスとなっている。



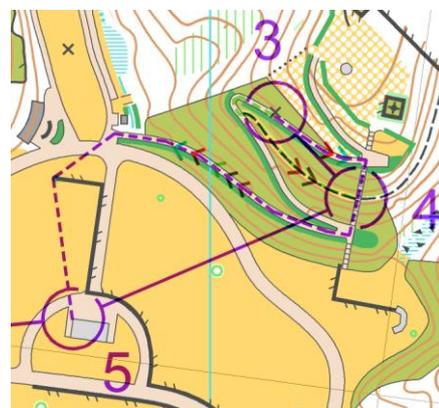
3→4

▲柴崎 0"21 ▲羽鳥 0"17 ▲松尾 0"21
▲落合 0"22 ▲木口 0"22 ▲山崎 0"21

4→5

▲柴崎 0"50 ▲羽鳥 0"51 ▲松尾 0"54
▲落合 0"56 ▲木口 0"55 ▲山崎 0"53

ME 同様、レック線進行方向に対して左が 20m ほど短い。入賞者は全員左を選択しており見事である。



△～5 総評

▲柴崎 4"04 (1位)	▲羽鳥 4"06 (2位)	▲松尾 4"24 (6位)
▲落合 4"33 (9位)	▲木口 4"22 (4位)	▲山崎 4"44 (11位)

※カッコ内は5番終了時点での順位

△→1、2→3、4→5で1位ラップをたたき出した柴崎選手が1位、2→3で柴崎選手同様1位ラップを出した羽鳥選手が2位となった。最も長いレックである2→3が前半戦の鍵となっていたようだ。

反対に2→3で少しミスをした山崎選手は柴崎選手+40秒と大きく出遅れてしまった。

5→6

▲柴崎 0"39	▲羽鳥 0"40	▲松尾 0"39	▲落合 0"42	▲木口 0"42	▲山崎 0"38
----------	----------	----------	----------	----------	----------

柴崎選手以外は手前の道に引っかかってしまった。しかしタイムはそこまで差がついていない。

6→7

▲柴崎 0"36	▲羽鳥 0"44	▲松尾 0"31	▲落合 0"19	▲木口 0"20	▲山崎 0"20
----------	----------	----------	----------	----------	----------

ナビゲーション難易度が一気にあがる花壇エリア。上位3名の柴崎選手、羽鳥選手、松尾選手はここで15~20秒ほどのミスをしてしまった。



7→8

▲柴崎 0"15 ▲羽鳥 0"19 ▲松尾 0"16 ▲落合 0"21 ▲木口 0"20 ▲山崎 0"19

レック線進行方向に対して左が右よりも 10mほど短い。実際に 5~10 秒ほどのタイム差がついている。

8→9

▲柴崎 0"38 ▲羽鳥 0"38 ▲松尾 0"36 ▲落合 0"40 ▲木口 0"38 ▲山崎 0"44

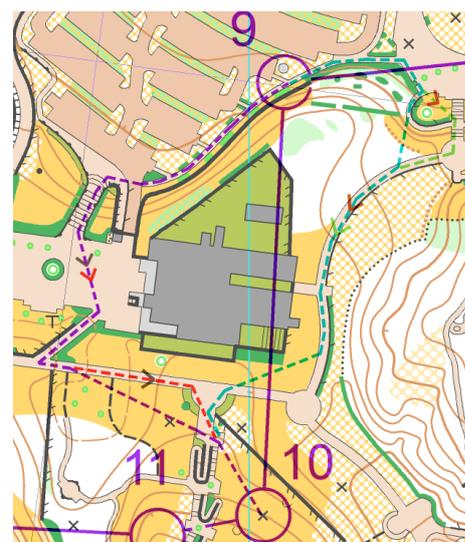
9→10 に向けたつなぎのレック。山崎選手が脱出でミスをしてしまい 5 秒ほどのミスタイムを計上している。花壇をぐるぐる走り方向感覚がやや狂う中でしっかりと方向を定められたかが肝となっていた。



9→10

▲柴崎 1"30 ▲羽鳥 1"32 ▲松尾 1"24
▲落合 1"41 ▲木口 1"27 ▲山崎 1"40

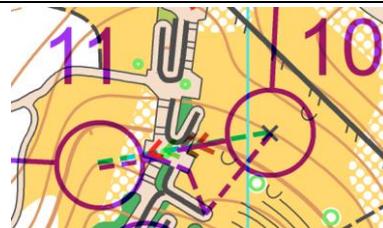
会場に戻ってくるルートチョイス、辛い坂を駆け上がる走力、終盤の先読みを冷静に行えるかが大事なレック。羽鳥選手は花壇エリアを上手くショートカットしているが、このショートカットは男子クラスの入賞者を含めても誰も実行できておらず素晴らしい。



10→11

▲柴崎 0"21 ▲羽鳥 0"11 ▲松尾 0"13 ▲落合 0"14 ▲木口 0"13 ▲山崎 0"13

柴崎選手のみ、簡単なミスをした。ビジュアル区間はたくさんの観客に応援されながらになるため、思いもよらないミスが生まれるため注意が必要だろう。



5～11 総評

▲柴崎 3"59 (3位) ▲羽鳥 4"04 (5位) ▲松尾 3"39 (3位)
▲落合 3"57 (7位) ▲木口 3"40 (1位) ▲山崎 3"54 (8位)

※カッコ内は 11 番終了時点での順位

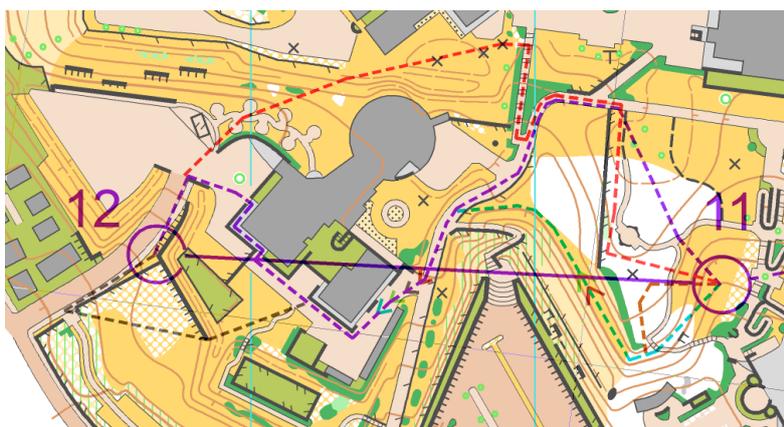
中盤の最長レックである 9→10 を制した松尾選手がそのまま中盤の最速タイムを出し、一気に 3 位まで躍り出た。

11 番終了時点では木口選手が 8"02 で 1 位、柴崎選手と松尾選手が 8"03 で 3 位、羽鳥選手が 8"10 で 5 位と 1 位～5 位までが 8 秒差の接戦となった。

11→12

▲柴崎 2"06 ▲羽鳥 2"04 ▲松尾 2"11 ▲落合 1"53 ▲木口 2"25 ▲山崎 1"59

ME 同様、終盤のメインレック①。最初の脱出で駐車場北のオープンを走れるとアップ観点から速い。松尾選手のルートは距離が+20m ほどになるが脱出後の階段で更に登ってしまう分、タイムとしては厳しい。落合選手は見事、駐車場北のオープン→キャンピの最速想定ルートを選択し、入賞者の中で最速となった。



12→13

▲柴崎 0"38 ▲羽鳥 0"34 ▲松尾 0"37 ▲落合 0"36 ▲木口 0"32 ▲山崎 0"35

13→14

▲柴崎 0"21 ▲羽鳥 0"19 ▲松尾 0"22 ▲落合 0"20 ▲木口 0"25 ▲山崎 0"19

14→15

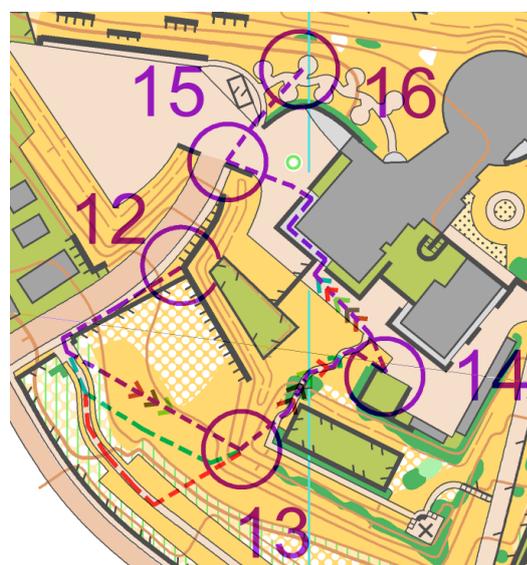
▲柴崎 0"33 ▲羽鳥 0"32 ▲松尾 0"34 ▲落合 0"34 ▲木口 0"32 ▲山崎 0"30

15→16

▲柴崎 0"16 ▲羽鳥 0"23 ▲松尾 0"18
▲落合 0"16 ▲木口 0"15 ▲山崎 0"14

12~16 まで細かいナビゲーションが続く。山崎選手は順番に 6 位→2 位→1 位→1 位のタイムで走り、入賞ラインに浮上してきた。他の入賞者全員、堅い走りでも順位をキープした中、ここまでトップタイムで走っていた樋口選手(筑波 3)が 15 番を飛ばしてしまい、惜しくも失格となってしまった。

16 番終了時点で 1 位の柴崎選手と 6 位の山崎選手のタイム差はわずか 18 秒。1 位柴崎選手と 2 位羽鳥選手はわずか 5 秒差。優勝の行方は最後の勝負レックに委ねられることになった。

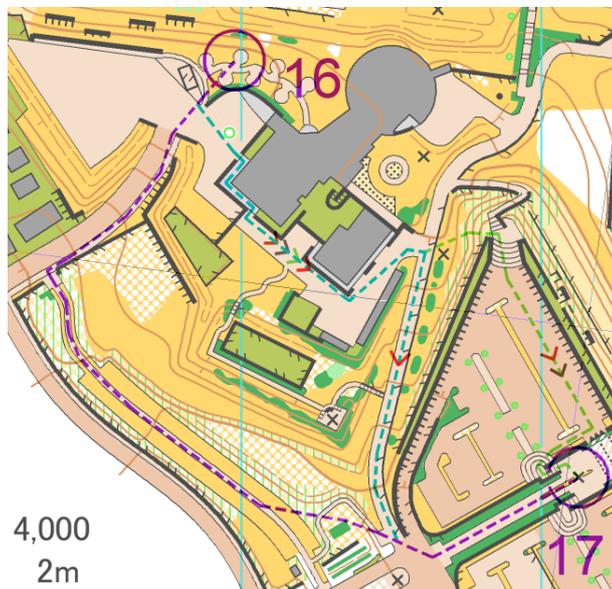


16→17

▲柴崎 1"35 ▲羽鳥 1"31 ▲松尾 1"35 ▲落合 1"44 ▲木口 1"46 ▲山崎 1"41

男子クラス同様、終盤の目玉レック②。一見すると距離の短そうな駐車場ルートは距離的に 10m ほど短いですが、アップ損が大きいいため遅い。羽鳥選手と松尾選手は男子選手権者の橋本選手と同様のルートを選択し、レック 1 位と 2 位の好タイム。柴崎選手は大巻ルートを選択したが素晴らしい走力でレックタイム 2 位の好タイムを出した。

ここで 2 位と 4 秒差の走りを見せた羽鳥選手は 17 番終了時点で柴崎選手+1 秒に迫る追い上げを見せ、優勝の行方は最後の道走りに次第となった。



17→18

▲柴崎 0"23 ▲羽鳥 0"23 ▲松尾 0"24
▲落合 0"24 ▲木口 0"23 ▲山崎 0"25

柴崎選手、羽鳥選手は全体 2 位の 23 秒で同タイム。

18→◎

▲柴崎 0"11 ▲羽鳥 0"10 ▲松尾 0"11
▲落合 0"11 ▲木口 0"09 ▲山崎 0"10

羽鳥選手が柴崎選手を 1 秒上回る走りを見せ、インカレスプリント史上初となる同着優勝の結果となった。



11～◎総評

▲柴崎 6"03 (1位)	▲羽鳥 5"56 (1位)	▲松尾 6"12 (3位)
▲落合 5"58 (4位)	▲木口 6"27 (5位)	▲山崎 5"53 (6位)

※カッコ内は総合タイム

終盤の勝負レック①で一定守りつつ、②で好ラップを出した羽鳥選手が柴崎選手との差を7秒縮め、同着で優勝を飾ることとなった。

11番終了時点で1位だった木口選手は①②ともにミスタイムを計上してしまい5位、11時点で8位だった山崎選手は細かいナビゲーション区間で1位ラップを連発させ6位まで順位を上げた。

▼ WE 総評

▽ 優勝争い

ビジュアルの11番終了時点でトップの木口選手+8秒の間に5人の選手がひしめく、非常に競った展開となった。そんな中、勝負レックを2つとも決め、崩れずに走り切った柴崎選手と羽鳥選手が王座に輝いた。

また最終タイムを見ても1位の2人と8位の山崎選手はわずか23秒差であり、入賞者誰にでも優勝のチャンスがあったといえるだろう。インカレの舞台で素晴らしい走りを見せてくれた彼女たちに運営者一同拍手を送りたい。

【終わりに】

大会成立に向けて尽力された運営の皆様、そしてなによりもこの大会に向けて日々たゆまぬ努力を重ねた選手の皆様に深く感謝したい。

プランナーとして今回のコースを生み出したのはひとえに競技班のメンバーのおかげである。競技責任者の太田氏には人工障壁の配置といったコースの相談、競技成立に向けたありとあらゆる調整を担っていただいた。副競技責任者の村田氏には最高のクオリティな地図で競技を行う上でのありとあらゆる工夫を払っていただいた。また、幾度とない試走で幅広いFBをくれた全運営者のおかげで、選手権のみならず一般クラスの競技性の担保ができた。

「全日本やインカレなど最高峰の大会で質の高い競技が提供されることで、参加者たちの大会へのモチベーションは増幅され、敷いては日本オリエンテーリング界の競技力が向上する。」これは宮西氏が全日本大会を運営するときにおっしゃっていた言葉だ。私もこの考えに強く共感し、本大会のプランナー業務を遂行した。

本大会により、参加者のスプリント愛が刺激され、更なる競技力の向上に繋がってれば望外の喜びである。

【はじめに】

今回もインカレが無事に開催され、選手たちの素晴らしい活躍を見ることができました。オリエンテーリングに関わる全ての人に、この場をお借りして御礼申し上げます。

【コース設定に当たって】

▼ テレインの特性

テレインはかつて山城が築かれた佐白山を中心とした山林と、笠間芸術の森公園によって構成されます。山林は茨城県に多く見られる急峻で走行可能度の低いエリアが大半を占める一方、尾根上や沢底は比較的幅が広いのが特徴です。また、一部に城址由来の変則的な地形も残るため、朽ちてなお攻略は簡単ではないでしょう。(プログラムより)

これらの特性に加え、ロングを行うには競技エリアが狭い範囲であること、フィニッシュとなる会場付近には森林が少ないことを考慮してコースを設定した。

▼ コースのコンセプト

▽ ロングレグ

複数のルートに異なる課題が設定され、選択したルートによって全く違うコースになるロングレグはロング競技の醍醐味でもある。今大会では、本テレインを象徴する山塊の処理を問うレグを中心に複数のロングレグをコースに散りばめた。起伏が激しい分、ルートによって必要とされる能力が大きく変わることを利用し、各選手がそれぞれの持ち味を発揮できるルートを選択できるようにレグを組んでいる。

▽ スピードとタフネス

ロングはナビゲーション能力だけでなく体力的な要素も勝敗に大きく絡んでくるべきだと考え、ルートを選択した後はフィジカルでタイムが決まるようなレグをいくつか取り入れた。

▽ コースのリズムと課題設定

選手にレース中の対応力を要求し、また新鮮な気持ちでテレインを楽しめるように、レグ長、難易度、走行速度や必要な技術が絶えず変化する課題設定を重視した。

▽ 観戦映え

観戦者が選手のGPSログや観戦ガイドを見て楽しめるように、目玉となるロングレグはできるだけ競技エリアを目いっぱい使用する長いレグになるようにした。また、映像映えを意識しつつ、選手が気持ちのいいスタートを切ってもらうために、スタート地区は明るく開けた場所を選定した。

【レース解説・レッグ解説】

▼ ME レッグ解説

	上位平均	寺嶋謙一郎	石原潮人	森清星也	森創之介	金子隼人	梶本和
S→1	2:53	3:01	3:04	3:02	3:12	3:17	3:08
レッグ順位		10	15	13	24	32	18
積算タイム		0:03:01	0:03:04	0:03:02	0:03:12	0:03:17	0:03:08
積算順位		10	15	13	24	32	18
ミスタイム		0:07	-0:01	0:10	0:08	0:21	0:06
1→2	5:33	6:14	6:35	5:54	6:42	5:30	6:03
レッグ順位		10	16	4	21	1	5
積算タイム		0:09:15	0:09:39	0:08:56	0:09:54	0:08:47	0:09:11
積算順位		8	14	4	19	3	7
ミスタイム		0:39	0:39	0:22	0:47	-0:09	0:12

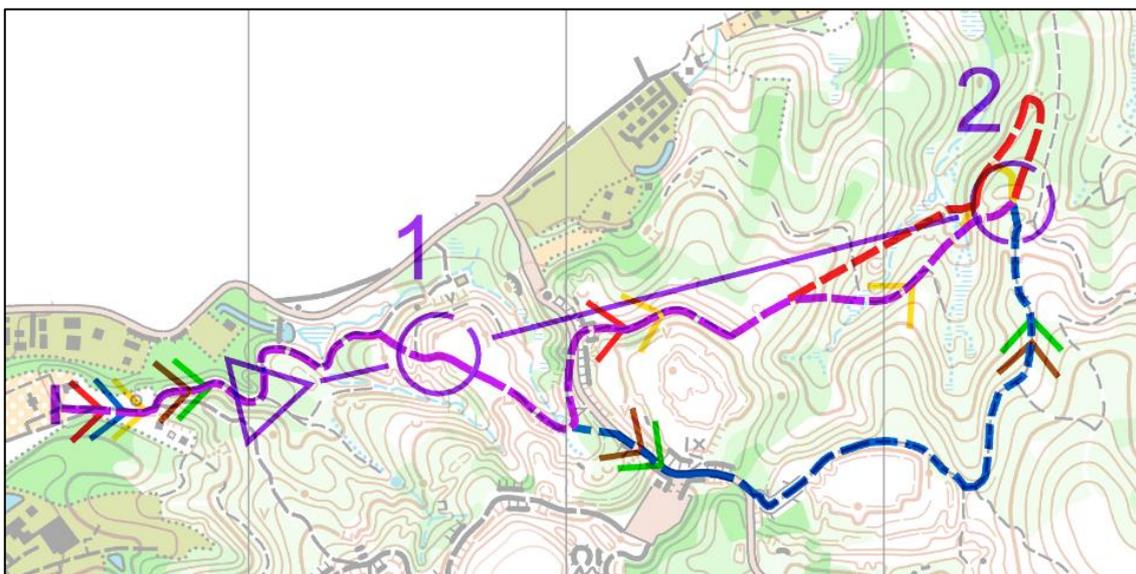
△→1

レースの最序盤には比較的難易度の低いレッグを配置したが、アタックの際には細かい地形を意識する必要がある。

入賞差は全員が同じルートを辿り、概ねミスなく実行できた。

1→2

ルートチョイスのあるレッグ。右の道巻きを選択した金子選手が1位ラップを獲得。同ルートを選択した森清選手、梶本選手も好タイム。

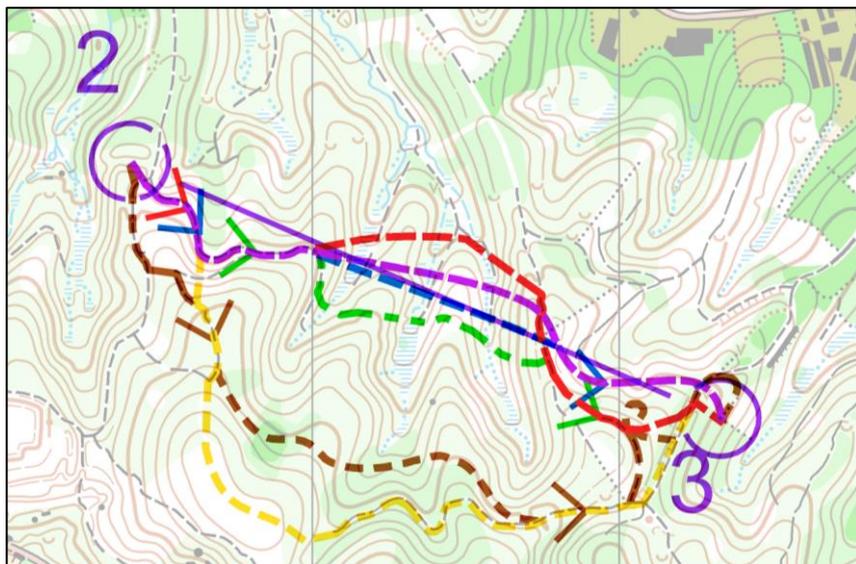


	上位平均	寺嶋謙一郎	石原潮人	森清星也	森創之介	金子隼人	梶本和
2→3	7:40	8:08	8:54	7:58	8:55	13:29	8:36
レグ順位		3	10	2	11	38	8
積算タイム		0:17:23	0:18:33	0:16:54	0:18:49	0:22:16	0:17:47
積算順位		3	11	2	13	26	5
ミスタイム		0:26	0:42	0:19	0:44	5:41	0:31

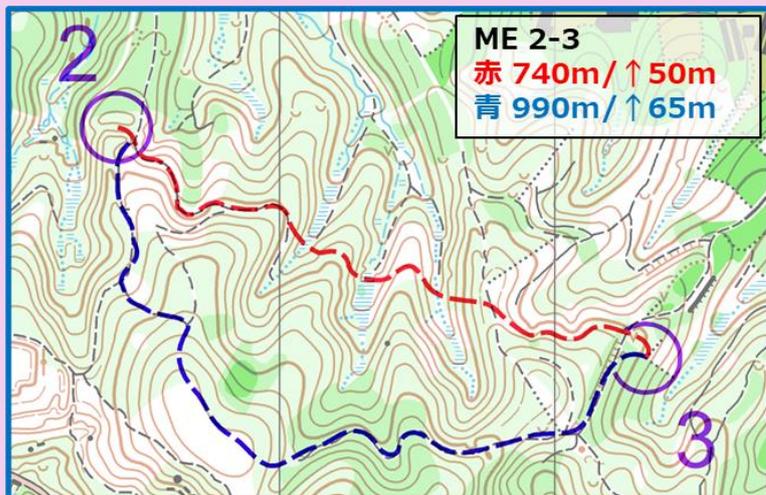
2 → 3

ルートチョイスのあるレグ。距離と等距離を抑えた沢切りルートを選択した寺嶋選手、森清選手が好タイム。GPS ログを見るに寺嶋選手と同じルートを選択したと思われる美濃部選手(横浜市立 3)がこのレグの1位ラップを獲得。6:55の圧倒的なラップタイムにより積算タイムでも1位に浮上した。

このレグの上位1~3位がそのまま積算タイムの1~3位と一致している。



【参考】観戦ガイド



ME 2-3 : レース序盤の流れを作るロングレグ。ストレスのかかる尾根切りの最速ルートを選ぶか。

赤 : 走行可能性は概して低く実行難易度が高いが、距離と登距離が短いため最速と考える。

青 : 脱出からアタックまでとにかく走れるルート。登りが多いため根性が試される。体力に自信がある選手なら十分選択肢に入るだろう。

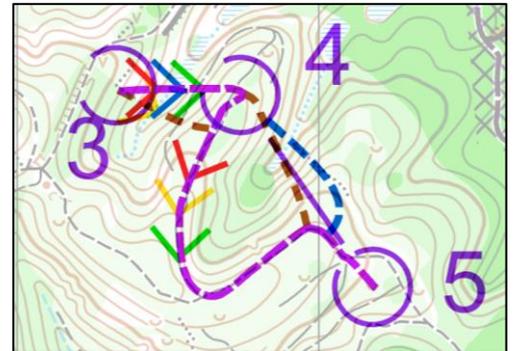
	上位平均	寺嶋謙一郎	石原潮人	森清星也	森創之介	金子隼人	梶本和
3→4	1:29	1:52	1:56	1:49	1:34	1:32	1:40
レグ順位		27	32	22	3	2	13
積算タイム		0:19:15	0:20:29	0:18:43	0:20:23	0:23:48	0:19:27
積算順位		3	12	2	11	23	5
ミスタイム		0:22	0:20	0:20	-0:02	0:01	0:06
4→5	2:39	2:40	3:03	3:11	2:53	4:48	2:47
レグ順位		2	23	29	8	54	5
積算タイム		0:21:55	0:23:32	0:21:54	0:23:16	0:28:36	0:22:14
積算順位		3	10	2	9	26	4
ミスタイム		0:00	0:12	0:32	0:03	2:06	-0:01

3 → 4

エイミングオフをした森選手、金子選手がこのレグを無難にこなしている。このレグはアタックを正確にするための特徴物が少ないが、慎重な選択が功を奏した。

4 → 5

入賞者の中でもルートが分かれた。直進と道巻きで同じくらいのタイムになるよう調整したつもりだったが、道巻きを選択した選手のほうが好タイムを出す結果となった。



	上位平均	寺嶋謙一郎	石原潮人	森清星也	森創之介	金子隼人	梶本和
5→6	1:58	1:58	2:39	2:27	2:49	2:17	3:43
レグ順位		2	21	15	29	6	49
積算タイム		0:23:53	0:26:11	0:24:21	0:26:05	0:30:53	0:25:57
積算順位		2	12	3	9	24	8
ミスタイム		0:00	0:33	0:29	0:43	0:17	1:39
6→8	7:36	7:37	8:31	8:14	8:45	7:41	11:47
レグ順位		2	18	10	24	4	57
積算タイム		0:31:30	0:34:42	0:32:35	0:34:50	0:38:34	0:37:44
積算順位		2	7	3	8	18	15
ミスタイム		-0:01	0:24	0:39	0:39	-0:03	3:47

5 → 6

短めのレグだが、入賞者の中でもルートが4つに分かれる結果となった。唯一切通を利用して横方向から沢にアタックした寺嶋選手が好タイム。さらに寺嶋選手と同じルートを辿った美濃部選手が(横浜市立3)が1:49でこのレグも1位ラップであった。プランナーの想定通り、切り開きを利用するルートが最速となったようだ。

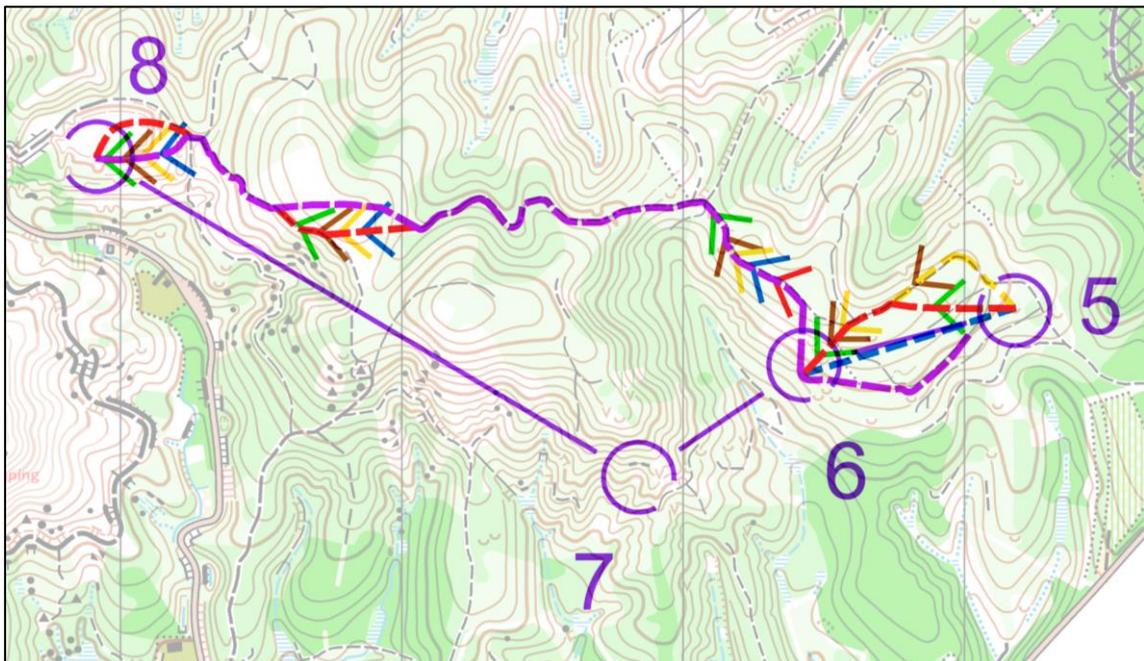
6 → 8

当日ハチが確認されたため、急遽7番ポストを飛ばしてもらったコース変更があった件について、改めて申し訳ない。

当日決まった6→8は簡単で長いだけのレグとなってしまった。このレグは山口選手(東京2)が最速。

また、本報告書内のラップ表やコメントで用いる8→9のようなレグ表記は地図の見た目と対応させてある(ただし、ラップセンターとは一つずれている)。

当日配布・本報告書の地図	6→8
ラップセンター	6→7
本報告書のラップ表・コメント	6→8



	上位平均	寺嶋謙一郎	石原潮人	森清星也	森創之介	金子隼人	梶本和
8→9	2:43	2:52	2:59	4:14	2:40	2:51	3:24
レグ順位		5	7	42	2	3	21
積算タイム		0:34:22	0:37:41	0:36:49	0:37:30	0:41:25	0:41:08
積算順位		1	7	3	6	16	14
ミスタイム		0:08	0:04	1:31	-0:14	0:05	0:32
9→10	1:35	2:02	1:47	1:47	1:43	1:35	1:37
レグ順位		20	13	13	8	2	3
積算タイム		0:36:24	0:39:28	0:38:36	0:39:13	0:43:00	0:42:45
積算順位		1	5	2	4	14	13
ミスタイム		0:27	0:05	0:12	0:02	-0:02	-0:03
10→11	2:51	3:08	3:41	2:51	2:55	3:23	3:35
レグ順位		6	30	2	4	20	29
積算タイム		0:39:32	0:43:09	0:41:27	0:42:08	0:46:23	0:46:20
積算順位		1	5	2	4	12	11
ミスタイム		0:16	0:37	0:00	-0:08	0:28	0:34
11→12	8:06	8:59	9:16	7:23	8:59	8:33	8:34
レグ順位		8	14	1	8	3	4
積算タイム		0:48:31	0:52:25	0:48:50	0:51:07	0:54:56	0:54:54
積算順位		1	5	2	4	9	8
ミスタイム		0:51	0:36	-0:41	0:21	0:19	0:02
12→13	1:27	1:30	1:35	1:39	1:40	1:34	1:46
レグ順位		7	11	18	22	10	31
積算タイム		0:50:01	0:54:00	0:50:29	0:52:47	0:56:30	0:56:40
積算順位		1	5	2	4	8	9
ミスタイム		0:02	0:02	0:12	0:07	0:05	0:14

8→9

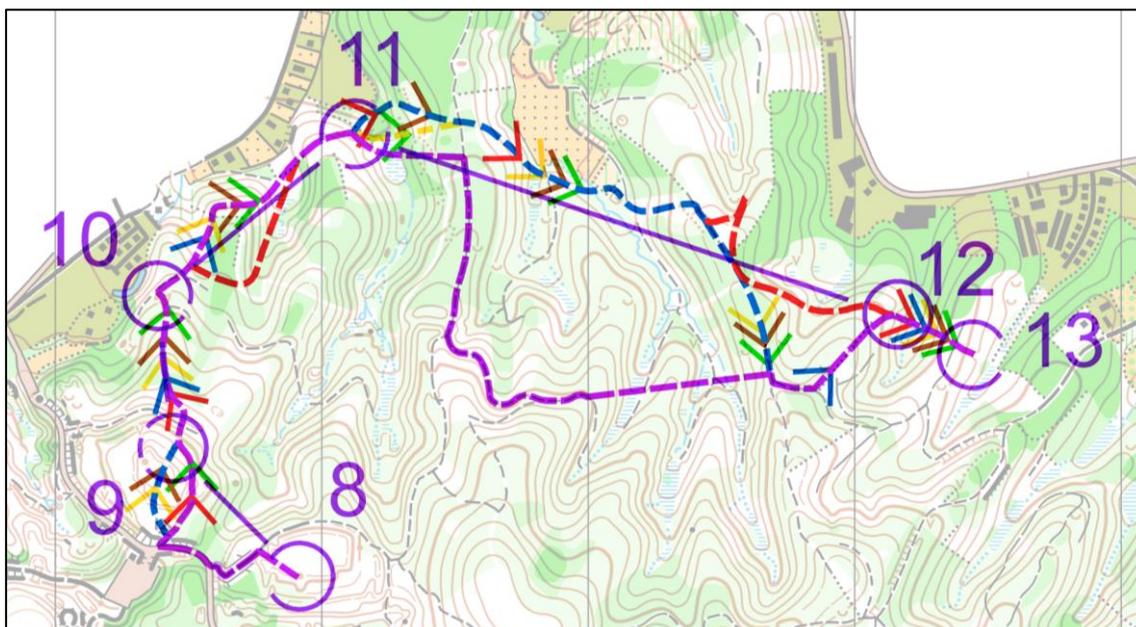
下り斜面の途中で山ちゃん沢にアタックするレグ。特徴的な城址のピークを乗り越えていくか、避けていくかの2通りのルートがある。乗り越えることを選択した森選手、金子選手が好タイムだったようだ。

9→10→11

下り基調の区間での細かいルート取りとナビゲーションの正確さを問うレグとして配置したが、入賞者は概ねミスなくこなし、順位もほとんど変動がなかった。

11→12

入賞者のほとんどが同じルートを辿り、その中でも森清選手が1位だった。寺嶋選手はやや負けルートを選択しており、51秒のミスタイムがついた。



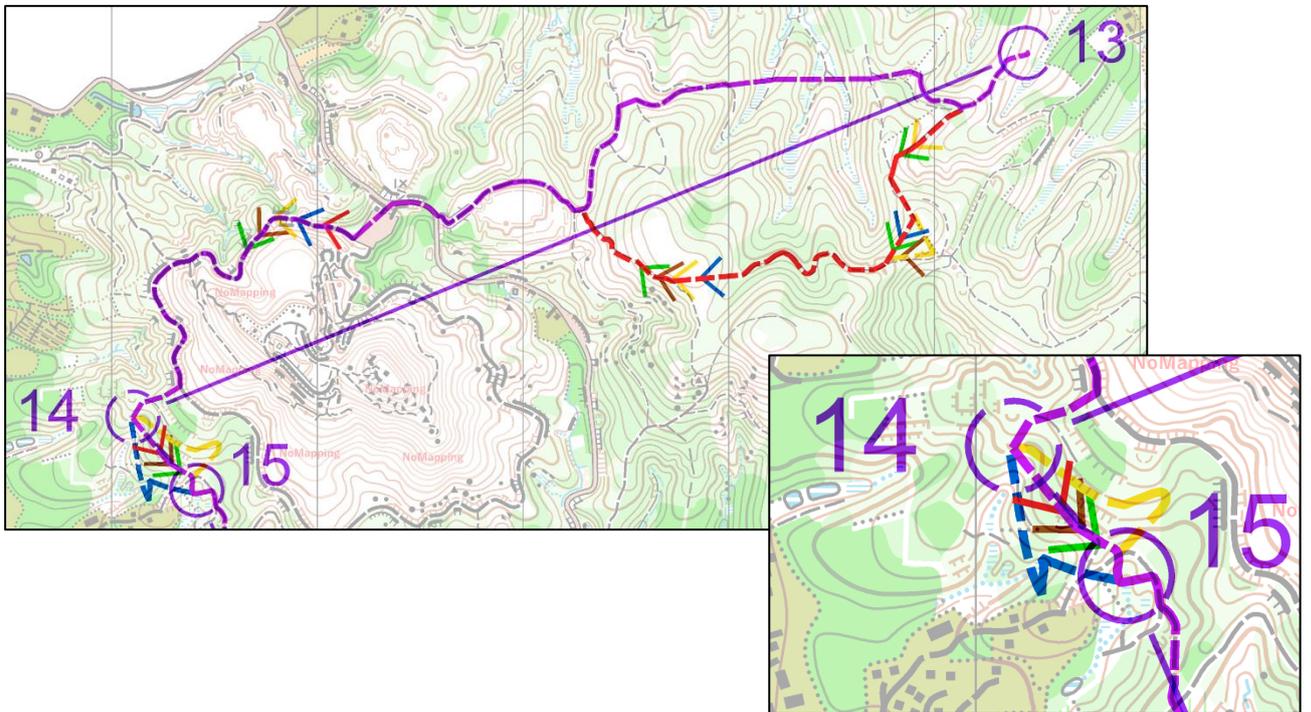
	上位平均	寺嶋謙一郎	石原潮人	森清星也	森創之介	金子隼人	梶本和
13→14	14:09	13:55	14:53	14:20	15:24	14:14	14:36
レグ順位		1	8	3	14	2	5
積算タイム		1:03:56	1:08:53	1:04:49	1:08:11	1:10:44	1:11:16
積算順位		1	4	2	3	6	8
ミスタイム		-0:18	-0:15	0:13	0:18	-0:10	-0:19
14→15	1:39	1:54	1:51	4:30	3:40	1:49	2:05
レグ順位		10	8	59	54	6	24
積算タイム		1:05:50	1:10:44	1:09:19	1:11:51	1:12:33	1:13:21
積算順位		1	3	2	5	6	7
ミスタイム		0:14	0:05	2:51	1:54	0:08	0:20

13→14

本レースの最長レグ。入賞者の中で唯一レグ線の北側を走り複数の尾根を越える想定ベストルートを選択した寺嶋選手が1位ラップ。また、このレグ2位ラップの金子選手が入賞圏内に浮上した。

14→15

気持ちよく走れるロングレグの直後に、課題が異なり難易度の高いレグを配置した。入賞者にも数分程度のミスタイムがついた。



【参考】観戦ガイド

赤：複数本の尾根を越えることになるが、前半の距離を上手く抑えるルート。正確に道に乗ることさえできれば最速だ。

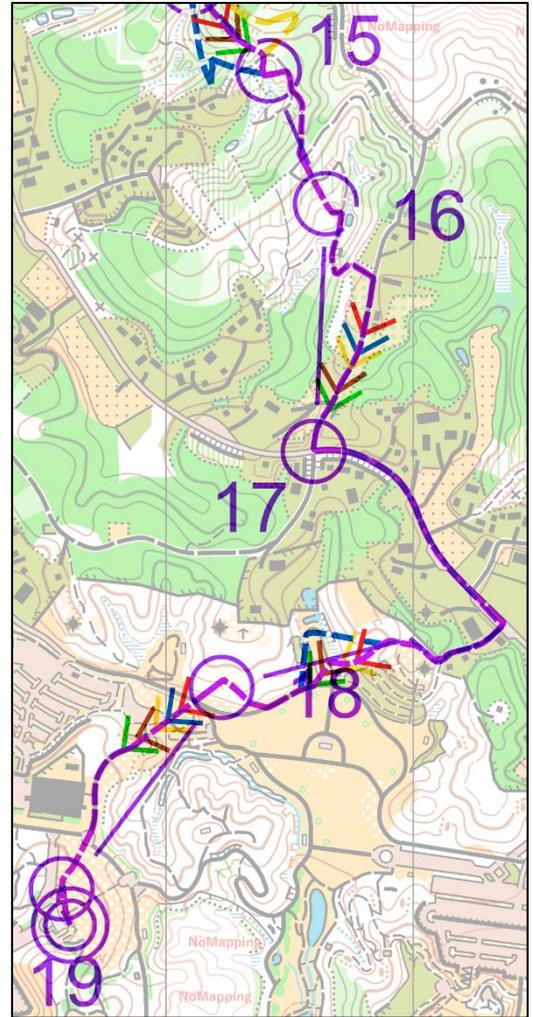
青：主に道を繋いでいくルート。スピードは出るが、多少距離が延びる。次点で速い。

黄：大きく南に進むルート。登りが多いうえに藪に負けることなく道の乗り換えをする必要がある。

赤→青→黄の順に速く、ルートによって1~2分程度の差がつくと想定している。



	上位平均	寺嶋謙一郎	石原潮人	森清星也	森創之介	金子隼人	梶本和
15→16	1:21	1:38	1:24	1:49	1:31	1:29	1:36
レグ順位		25	3	36	8	4	19
積算タイム		1:07:28	1:12:08	1:11:08	1:13:22	1:14:02	1:14:57
積算順位		1	3	2	4	5	7
ミスタイム		0:16	-0:03	0:28	0:04	0:06	0:10
16→17	1:38	1:39	1:48	2:06	1:37	1:51	1:57
レグ順位		3	10	47	1	16	34
積算タイム		1:09:07	1:13:56	1:13:14	1:14:59	1:15:53	1:16:54
積算順位		1	3	2	4	5	7
ミスタイム		0:01	0:03	0:28	-0:08	0:11	0:14
17→18	3:30	3:41	3:28	4:51	3:39	3:49	3:54
レグ順位		6	1	54	4	12	15
積算タイム		1:12:48	1:17:24	1:18:05	1:18:38	1:19:42	1:20:48
積算順位		1	2	3	4	5	6
ミスタイム		0:10	-0:17	1:21	-0:06	0:15	0:12
18→19	1:20	1:20	1:25	1:33	1:20	1:30	1:28
レグ順位		1	6	17	1	14	10
積算タイム		1:14:08	1:18:49	1:19:38	1:19:58	1:21:12	1:22:16
積算順位		1	2	3	4	5	6
ミスタイム		-0:01	-0:01	0:13	-0:06	0:08	0:03
19→◎	0:07	0:08	0:08	0:08	0:09	0:12	0:08
レグ順位		3	3	3	23	62	3
積算タイム		1:14:16	1:18:57	1:19:46	1:20:07	1:21:24	1:22:24
積算順位		1	2	3	4	5	6
ミスタイム		0:01	0:00	0:01	0:01	0:05	0:00



15→19→◎

会場へ向かって走るだけ。ルートやナビゲーションで差がつきにくい分、ミスが順位に直結する。

18→19では上り坂があり最後の踏ん張りどころであったが、寺嶋選手と森選手が見事1位ラップを獲得した。

入賞者総合タイム

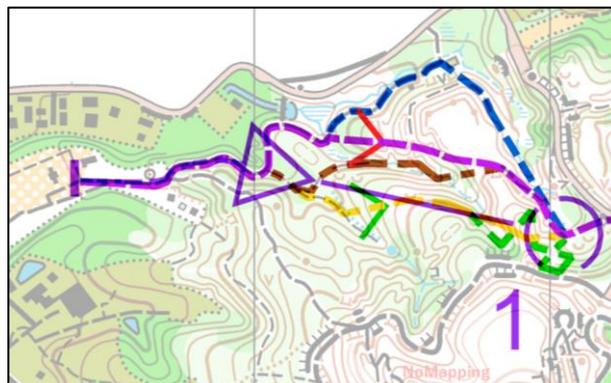
1	寺嶋謙一郎	1:14:16	東京農業大学(オホーツク)2
2	石原潮人	1:18:57	京都大学3
3	森清星也	1:19:46	筑波大学3
4	森創之介	1:20:07	横浜国立大学2
5	金子隼人	1:21:24	東京大学4
6	梶本和	1:22:24	東京大学1

▼ WE レッグ解説

	上位平均	木口瑞穂	大石遥	落合英那	桑原唯歩	砂田優萌子	柴崎愛有
S→1	5:12	5:18	5:17	6:11	6:36	5:38	11:11
レッグ順位		4	3	9	13	5	32
積算タイム		0:05:18	0:05:17	0:06:11	0:06:36	0:05:38	0:11:11
積算順位		4	3	9	13	5	32
ミスタイム		0:08	-0:15	0:59	1:04	-0:20	5:50
1→2	14:03	13:34	14:54	13:42	16:20	19:07	23:28
レッグ順位		1	3	2	5	9	17
積算タイム		0:18:52	0:20:11	0:19:53	0:22:56	0:24:45	0:34:39
積算順位		1	3	2	7	8	18
ミスタイム		-0:24	-0:03	-0:21	1:22	3:00	9:01

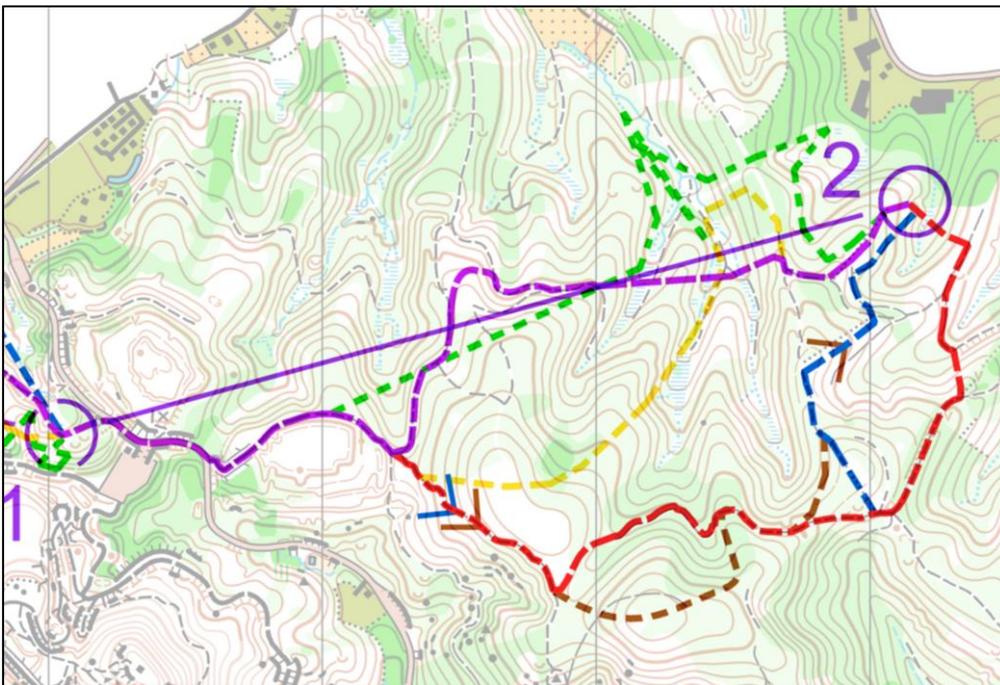
△→1

入賞者の中でもルートが分かれた。落合選手が唯一尾根を巻いていくルートを選択しており、桑原選手、柴崎選手は尾根を2つ切ってレッグ線上を進むルートを選択。好タイムが出たのは大石選手、木口選手や砂田選手が選択した白く平らな尾根だけを切るルートであった。プランナーの想定もこのルートである。走行可能度高く距離も抑えられる。



1→2

入賞者全員が異なるルートを通った。観戦ガイドにも記載している想定ルートを選択した木口選手が最速。小径を辿るルートを選択した落合選手が2位ラップ。別のルートを選択した2人だが、20秒以内の僅差であった。また、落合選手と同じ小径を使い、後半はポストの下側からアタックするルートの大石選手が3位ラップだ。この3人が積算タイムでも上位3人となりレース序盤から後続を大きく引き離れた。



【参考】観戦ガイド

WE1-2：序盤で選手を待ち受ける本レースの最長レグ。自分の技術と戦略に合ったルートチョイスが重要だ!!

赤：距離は短いが、道の乗り換えや後半の尾根切りでナビゲーションの正確さが求められる。上手く実行できれば最速と考える。**青：**距離は長いが、道や植生界など線上的特徴物を繋ぐことができるためスピードは出しやすい。ただし、ポストのある尾根へ降りていく際には方向決定の難易度がやや高く、最後まで油断は禁物だ。



	上位平均	木口瑞穂	大石遼	落合英那	桑原唯歩	砂田優萌子	柴崎愛有
2→3	1:23	1:59	2:05	1:44	1:18	1:37	1:43
レグ順位		14	16	6	1	4	5
積算タイム		0:20:51	0:22:16	0:21:37	0:24:14	0:26:22	0:36:22
積算順位		1	3	2	4	8	18
ミスタイム		0:36	0:36	0:20	-0:11	0:01	0:17
3→4	3:17	3:23	3:41	3:57	3:55	4:15	2:50
レグ順位		2	4	6	5	8	1
積算タイム		0:24:14	0:25:57	0:25:34	0:28:09	0:30:37	0:39:12
積算順位		1	3	2	4	6	16
ミスタイム		0:07	0:11	0:40	0:25	0:29	-0:33
4→5	2:06	3:02	2:09	3:19	2:05	2:34	2:06
レグ順位		18	4	26	1	9	2
積算タイム		0:27:16	0:28:06	0:28:53	0:30:14	0:33:11	0:41:18
積算順位		1	2	3	4	6	15
ミスタイム		0:57	-0:05	1:13	-0:09	0:09	-0:04
5→6	2:29	2:58	3:15	2:42	2:28	2:54	3:03
レグ順位		6	10	4	1	5	7
積算タイム		0:30:14	0:31:21	0:31:35	0:32:42	0:36:05	0:44:21
積算順位		1	2	3	4	6	13
ミスタイム		0:30	0:37	0:13	-0:11	0:03	0:30

2→3、4→5、5→6

入賞者全員が大きく崩れることなくこなした。ルート
 チョイスは無いが方向維持とアタックの正確さが重要な
 レグを続けて配置したが、桑原選手が全て1位ラ
 ップを獲得した。こういう種類のレグが得意なのだ
 ろうか。

3→4

ルートは分かれたが、入賞者でほとんど上位を独占し
 ている。柴崎選手や木口選手のように距離が短くなるよ
 うなルート取りが速かったようだ。



	上位平均	木口瑞穂	大石遼	落合英那	桑原唯歩	砂田優萌子	柴崎愛有
6→7	9:11	10:56	11:07	16:00	9:34	13:25	9:46
Legg順位		6	7	24	2	19	4
積算タイム		0:41:10	0:42:28	0:47:35	0:42:16	0:49:30	0:54:07
積算順位		1	3	4	2	7	8
ミスタイム		1:48	1:21	6:49	-0:13	2:53	0:19

6 → 7

男子と同じく、当日ハチが確認されたため急遽南側の斜面を避けるよう指示があった件について、改めて申し訳ない。山崎葵選手(筑波2)が2位の桑原選手を1:19引き離して1位ラップ。



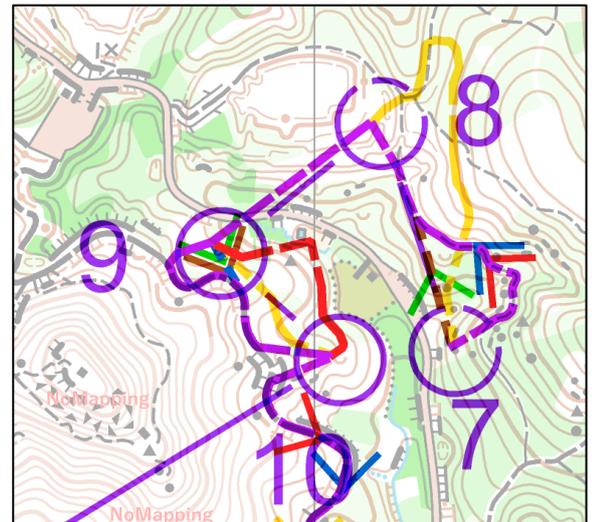
	上位平均	木口瑞穂	大石遼	落合英那	桑原唯歩	砂田優萌子	柴崎愛有
7→8	2:53	3:11	2:54	2:44	6:44	4:29	3:26
Legg順位		5	2	1	31	24	9
積算タイム		0:44:21	0:45:22	0:50:19	0:49:00	0:53:59	0:57:33
積算順位		1	2	4	3	7	8
ミスタイム		0:19	-0:10	-0:09	3:40	1:10	0:28
8→9	2:10	4:54	3:14	1:58	2:35	2:20	2:14
Legg順位		28	12	1	6	3	2
積算タイム		0:49:15	0:48:36	0:52:17	0:51:35	0:56:19	0:59:47
積算順位		2	1	4	3	7	8
ミスタイム		2:44	0:55	-0:13	0:16	-0:10	0:00
9→10	1:41	1:43	3:29	1:59	2:05	2:06	1:39
Legg順位		2	29	6	10	11	1
積算タイム		0:50:58	0:52:05	0:54:16	0:53:40	0:58:25	1:01:26
積算順位		1	2	4	3	6	8
ミスタイム		0:02	1:41	0:17	0:17	0:09	-0:06

7 → 8

脱出で道まで登り返すルートを選択した落合選手、大石選手、木口選手が速かった。

9 → 10

脱出ですぐに道まで登り、上からアタックした落合選手、柴崎選手、砂田選手が1、2、3位ラップ。ルートによってきれいにタイムが分かれる結果となった。

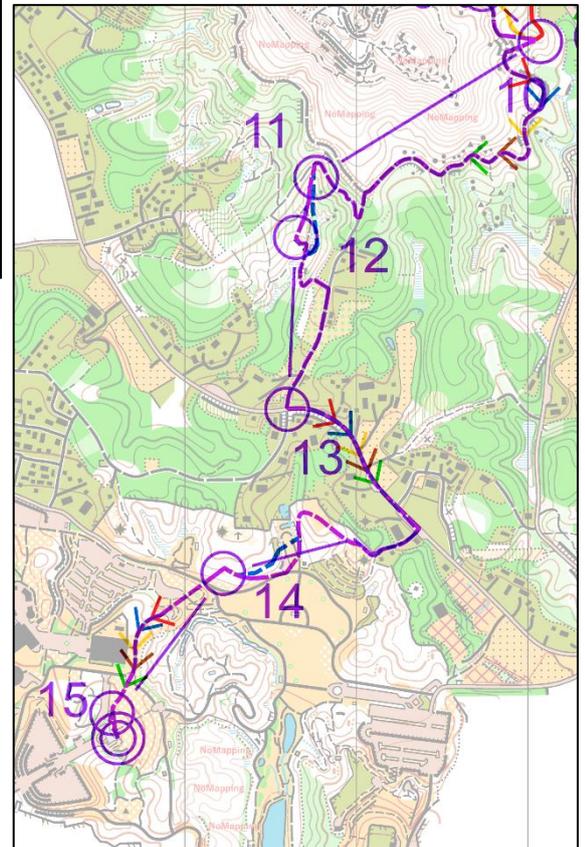


	上位平均	木口瑞穂	大石遥	落合英那	桑原唯歩	砂田優萌子	柴崎愛有
10→11	4:25	5:08	5:05	4:40	4:13	5:01	4:41
Legg順位		11	9	3	1	7	4
積算タイム		0:56:06	0:57:10	0:58:56	0:57:53	1:03:26	1:06:07
積算順位		1	2	4	3	5	8
ミスタイム		0:44	0:23	0:15	-0:29	-0:03	0:08
11→12	1:31	1:31	2:03	3:08	4:32	2:24	2:05
Legg順位		2	9	23	29	17	10
積算タイム		0:57:37	0:59:13	1:02:04	1:02:25	1:05:50	1:08:12
積算順位		1	2	3	4	6	7
ミスタイム		0:00	0:26	1:37	2:55	0:39	0:31
12→13	1:59	2:05	2:26	2:08	1:53	2:30	2:05
Legg順位		5	15	8	1	19	5
積算タイム		0:59:42	1:01:39	1:04:12	1:04:18	1:08:20	1:10:17
積算順位		1	2	3	4	6	7
ミスタイム		0:06	0:19	0:09	-0:14	0:13	0:02
13→14	4:13	5:15	5:16	4:41	4:41	4:30	4:32
Legg順位		12	13	6	6	4	5
積算タイム		1:04:57	1:06:55	1:08:53	1:08:59	1:12:50	1:14:49
積算順位		1	2	3	4	5	7
ミスタイム		1:03	0:47	0:28	0:11	-0:20	0:12
14→15	1:36	1:35	1:57	1:42	1:36	1:40	1:53
Legg順位		1	13	5	2	4	12
積算タイム		1:06:32	1:08:52	1:10:35	1:10:35	1:14:30	1:16:42
積算順位		1	2	3	3	5	7
ミスタイム		0:00	0:15	0:06	-0:06	-0:10	0:14
15→◎	0:08	0:10	0:09	0:09	0:09	0:08	0:10
Legg順位		10	2	2	2	1	10
積算タイム		1:06:42	1:09:01	1:10:44	1:10:44	1:14:38	1:16:52
積算順位		1	2	3	3	5	7
ミスタイム		0:01	0:00	0:00	0:00	-0:02	0:01

10→15→◎

ME 同様、会場まで帰ってくるだけ。入賞者の間には大きく崩れる選手はいなかった。

14→15 は最後の上り坂。木口選手が1位ラップを獲得した。ME の寺嶋選手もそうであるが、この登り坂を制した選手がレースも制する結果となっている。



入賞者タイム

1	木口瑞穂	1:06:42	慶應義塾大学3
2	大石遥	1:09:01	新潟大学4
3	落合英那	1:10:44	京都大学2
4	桑原唯歩	1:10:44	横浜国立大学3
5	砂田優萌子	1:14:38	お茶の水女子大学2
6	柴崎愛有	1:16:52	新潟大学4

【スプリント競技部門】

1 件の調査依頼があった。本調査依頼に対しての提訴は行われなかった。以下に調査依頼とその回答、及び今後の対策について記載する。

▼ 調査依頼

公式掲示板に対する質問の回答では、地図上の変更点をスタート前に明示すると記載している。しかし、私には見せられず、そのことを指摘したが見せてもらえなかった。

一方で、変更点を見せられた選手もいた。

これにより、私は、不利益を被っており、インカレ規則に記載されている「競技場の公正」に違反すると考え、調査を依頼する。

▼ 調査依頼に対する回答

スタート地区の運用の確認を行ったところ、以下の通りであった。

- ・ 運営では、当該資料を 3 分前枠の地面に設置し、選手各自で見る運用としていた。
- ・ 調査依頼を行った選手出走時に何らかの要因で裏返っていた。
- ・ 運営者から当該資料についてのアナウンスを行わなかった。

▼ 原因

- ・ スタート役員への設置物の共有が十分行われておらず、近くにいたスタート役員の認識不足により十分な対応を行えていなかった。
- ・ 設置物の掲示箇所の詳細を事前に選手へアナウンスを行っていなかった。

▼ 対策

- ・ 当日競技責任者はトレイン全体を確認すると思われる。その際、再度パートチーフとともにパート員への共有事項を確認する。
- ・ 前日に急遽注意点が発生することは多々起りうると思われる。そのため、運営者/参加者双方から確認できるように、注意点が発生した場合の掲示箇所を事前に参加者へ明示しておくことが望ましい。

【ロング・ディスタンス競技部門】

調査依頼は行われなかった。

4

大会運営報告

4.1 大会企画の経緯

実行委員長 森川 周

高見澤 翔一

▼ 開催地・日程の決定

本年度のインカレを笠間地区で開催することは、インカレサステナビリティ・プランニング・ユニット（以下、インカレ SPU）により実行委員会発足以前より検討されていた。その後、実行委員会の発足と同時に笠間地区での開催が決定した。

日程については、既に 2023 年 11/4～5 に決定していた全日本オリエンテーリング選手権大会との間を 3 週間空けるため、2023 年 10/14～15 に開催することを 2023 年 2 月に決定した。なお、本日程検討時点では東北大学オリエンテーリング大会の開催が同日程で予定されていたが、当該大会関係者へ相談し日程を譲っていただいた。関係者各位に対しては、この場を借りて改めて御礼申し上げたい。

▼ 実行委員会の発足

2022 年 12 月にインカレ SPU の打診を受け、ロング実行委員長、人事責任者が決定した。その後、この両名を中心に役員を招集し 2023 年 1 月に実行委員会が発足した（ロング EA のみ 2023 年 2 月に決定）。

地図作成業務、地図印刷業務は YMOE 社へ業務委託を行った。地図作成業務については高野氏が YMOE 社の契約社員となり、実質的な地図調査等は高野氏により行われた。

▼ 会場、競技範囲の決定

2023 年 2 月、3 月、4 月にそれぞれ 1 回ずつ下見を実施し、以下の事項を決定

▽ 会場

イベント広場とコンサート場を比較し、従来のオリエンテーリング大会で使用される会場とは異なる要素（すり鉢状の広場と中央のドームなど）の魅力を優先し、コンサート場を大会会場として決定。

▽ スプリント競技部門の競技範囲

笠間芸術の森公園の既存範囲で、本大会の競技範囲としては十分と判断し、拡張等は行わないこととした。

▽ ロング・ディスタンス競技部門の競技範囲

笠間の既存範囲の拡張について、既存範囲の北部のみ拡張の可能性があったため下見等を実施したものの、私有地が多いことなどから拡張はしないことを決定した。

また、隣接テレインである北山と接合可能かという点について下見等を実施したが、2テレインを行き来できる箇所の渉外負荷が高いと見込まれること、コース全体のまわしを加味すると接合した場合でも使用範囲は限られること、北山の競技的な魅力が低いことから、北山との接合はしないことを決定した。

▼ 新型コロナウイルス感染症関連

2023年5月より新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症となることが実行委員会発足時から見込まれていたため、基本的な感染症対策に留意した上で、特に新型コロナウイルス感染症を念頭に置いた対策は検討しなかった。

4.2 活動実績

運営責任者 柏田 芳樹
高橋 利奈

▼ 運営・組織体制

▽ 組織体制

本大会は、学生 OBOG により構成される「インカレスプリント・ロング 2023 実行委員会」が主管する大会として開催した。本大会では、インカレ SPU からの声掛けを中心に、実行委員長、運営責任者、競技責任者、コース設定者、イベントアドバイザーが選任された。

▽ 運営体制

本大会は、スプリント競技部門とロング・ディスタンス競技部門という性質の異なる競技を2日間で行うものであったため、実行委員長、競技責任者、運営責任者、コース設定者、イベントアドバイザーは両日別々に設けた。一方で、チーフクラスの役員(スタートチーフを除く。)については会場が両日共通であることから、共通のチーフとした。

なお、スプリント競技部門の競技責任者については、正・副担当の2名体制とし、業務負荷の分散を図った。競技責任者2名、コース設定者、イベントアドバイザーの4名体制は、高い競技性を担保するにあたり必要十分な体制だったと考える。

▼ 運営の全体スケジュール

年月	実施概要	実施詳細
2023年 1月	第1回 MTG (キックオフ MTG)	[第1回 MTG(幹部キックオフ MTG)] <ul style="list-style-type: none"> •この時点で決まっていた三役 EA 等が参加した。 •以下の点について、現状を共有した。 -開催日程 -テレイン -直近のタスク (要項1 発行等)

		<p>-運営に用いるツール (Discord や drive 等)</p> <p>▼過去大会においてコミュニケーションツールとして用いられてきた slack にいわゆる 90 日制限が導入されたことに鑑み、2022 年度北東・関東学連ミドルセレにて使用実績のあった Discord を用いる方針とした。ファイル共有、経費請求については、前回大会を踏襲し、それぞれ Google ドライブ、Google フォームを用いることとした。</p> <p>▼Discord について、スレッドの作成に手間がかかる点を除けば slack との間に使用感の違いはあまりなく、大会運営のコミュニケーションツールとして十分であったと思われる。</p> <p>-渉外状況</p>
2 月	<p>第 2-3 回 MTG</p> <p>第 1 回下見</p> <p>大会 HP 公開</p> <p>要項 1 発行</p>	<p>[第 2-3 回 MTG]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要項 1 発行に向けた情報共有・意見交換を行った。 ・未決定であったロングイベントアドバイザーについて打診の方針を決め、決定した。 ・地図作成の委託方針を確認した。 <p>[第 1 回下見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スプリント、ロング共通で、会場候補地、駐車場について確認した。 ・スプリントについて、使用予定の競技エリアと地図精度について確認した。 ・ロングについて、トレインの状況を確認した。また、北部への拡張や「北山」範囲との接合の可否の判断材料として、現地の状況を確認した。 ・渉外責任者より、笠間市役所において、地元の関係者の方々に向けた説明会を実施した。
3 月	<p>第 4-6 回 MTG</p> <p>第 2 回下見</p> <p>インカレ旗引継ぎ</p>	<p>[第 4-6 回 MTG]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下見の結果等を踏まえ、笠間芸術の森公園野外コンサート広場をスプリント・ロング両日共通の会場とすることを決定した。 ・ロング競技範囲について、下見の結果等を踏まえ、北部への拡張や「北山」範囲との接合を行わないことを決定した。

		<ul style="list-style-type: none"> ・大会期間の運営者の宿として内原鉱泉湯泉荘を利用する方針を確認し、仮押さえした。 ・機密保持のため Discord のロール機能を用いる方針を決定した。 <p>[第 2 回下見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スプリントコース設定者によるトレイン状況の確認等を実施した。
4 月	第 7-8 回 MTG 第 3 回下見	<p>[第 7-8 回 MTG]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経費削減の要請を踏まえ、地図作成および配信についての実行委員会の態度を決定した。 ・併設大会の最上位クラスが日本ランキング対象大会となることを確認した。 <p>[第 3 回下見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技責任者を中心に、トレイン内の一般客の状況、選手権誘導候補からの視界、植生の状況等を確認した。
5 月	第 9-11 回 MTG 第 1 回試走 第 1 回 UNIVAS 連携 MTG	<p>[第 9-11 回 MTG]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笠間市民体育館をスプリント・ロング両日共通の選手権待機所とすることを決定した。 ・旧笠間市立東中学校を事前準備の作業場所および資材保管場所とすることを決定した。 ・併設大会責任者/実行委員会幹部の顔合わせを行い、本番までの概スケジュールを確認した。 ・エントリーの窓口として公式 LINE アカウントを用いることを決定した。 <p>▼エントリー担当者より、メールよりも手間の少ない連絡手段として公式 LINE アカウントの利用が提案されたことを受け、実行委員会としてもこれを採用することとした。</p> <p>▼メールよりも返信のハードルが低いこと、相手がメッセージを見たことを確認できること、迷惑メールに振り分けられて受信に気付かないことはないことなどから、実行委員会と各校担当者との円滑なやりとりにより一定の効果があったと考える。また、メールと同様に、Discord への転送設定を行うことがで</p>

		<p>き、実行委員会内部の情報共有にも問題はなかった。</p> <p>▼問い合わせがメールよりも容易であるため、問い合わせ件数が多くなり、負担が増えた側面もある。また、Discord への転送設定などは担当者が慣れていないと難しい場合がある。メッセージの一括送信には月あたりの件数制限がある（個別送信は無制限）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス関連対応を行わない方針を確認した。 <p>[第 1 回試走]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に E クラスの試走を行った。 ・地図精度を確認し、要修正事項を洗い出した。 <p>[第 1 回 UNIVAS 連携 MTG]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年行っていたライブ配信を行わず、アーカイブ（ハイライト）動画の作成のみを依頼することを打診し、後日メールにて決定した。
6 月	<p>第 12-13 回 MTG 要項 2 発行 運営者決起会</p>	<p>[第 12-13 回 MTG]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笠間市をはじめ地元の方々に多大な協力をいただいていることから、参加者に対し協力店で使用可能な地域クーポン(300 円相当)を配布することを決定した。スプリント単日参加者はほとんどおらずロングにはほぼ全参加者が参加すると見込み、費用はロング参加費に上乗せした。 <p>▼アンケート回答者約 110 人のうち、クーポンの配布は嬉しかったという回答は約 4 割、実際の利用率は約 2 割であった。</p> <p>▼本取組はインカレではあまり前例が無い中ではあったが、開催地域への経済的な還元の仕組みづくりという視点で導入するに至った。今後のインカレでも同様の方策を導入する場合は、今回の結果を踏まえ参加者のニーズに配慮しつつ、より利用率を高くすることが理想である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手権スタート前に、地域の方々によるパフォーマンスを行っていただくことを決定した。

		▼アンケート回答者約 110 人のうち、本パフォーマンスが楽しかったという回答は約 5 割であり、演出における一定の効果と、地域を知る機会の一つになったと考えられる。
7 月	第 14-15 回 MTG 第 2 回試走 エントリー開始 要項 2.1 発行 第 2 回 UNIVAS 連携 MTG	[第 14-15 回 MTG] ・日本練推薦枠についての記載を追記した要項 2.1 を発行することとした。 ・昨年度の併設大会で開催されたフラッグ山分け杯の開催を本大会では見送る方針を決定した。 [第 2 回試走] ・スプリント・ロング共に、E・A・F クラスの試走をした。 ・誘導区間の所要時間を確認した。 ・会場レイアウトを確認した。 ・地図精度を確認し、要修正事項を洗い出した。 [第 2 回 UNIVAS 連携 MTG] ・ハイライト動画の制作費について、実行委員会側の負担はないことを確認した。
8 月	第 16-17 回 MTG エントリー締切 併設大会要項 1 発行	[第 16-17 回 MTG] ・各パートチーフに、資材リストの作成を依頼した。 ・各パートチーフに、必要人員数と事前準備での作業内容の洗い出しを依頼した。 ・エントリー状況を踏まえ、スケジュールやレーン数を調整した。 ・地図販売を Google フォームで取りまとめることとした。 ▼JOY では、基本 1 日 1 大会につき 1 イベントが原則とされており、併設大会とは別に地図販売のイベントを立ち上げることが難しいことを、併設大会のエントリーを既に開始した後に認識した。エントリー開始後のオプションの変更は混乱を招き得ると考え、地図販売は Google フォームで取りまとめることとした。

		<p>▼枚数の集計や金銭の授受が別途必要になり手間が増えた。今後は、JOYの併設大会と同一のイベント内で取りまとめることが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シード選手を決定した。
9月	<p>第18-21回 MTG 最終試走 要項3発行 エントリーリスト公開 第3回 UNIVAS 連携 MTG 2週間前準備</p>	<p>[第18-21回 MTG]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スプリントイベントアドバイザーの負傷に伴い、アシスタントイベントアドバイザーを決定した。 ・実況担当者を決定した。 <p>▼実況は難しい役職であり、担当者探しが難航する傾向にある。早期に実況経験者を運営に加え、担当者決めのアドバイスを受けたり、実況経験者のサポートを受けられる環境を整えることで引き受けるハードルを下げたりすることが望ましい。</p> <p>。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンセルポリシーを決定した。地図印刷枚数報告期限が2週間前であることを前提に、地図枚数を決定する競技責任者の負担にも配慮し、①3週間前まで全額返金(欠席者分の地図は印刷しない)、②1週間前までは半額返金(印刷した参加者を通じて欠席者に配布する)、③これ以降は返金不可(印刷した参加者を通じて欠席者に配布する)という方針とした。 <p>▼本来は、要項2においてキャンセルポリシーが公表され、エントリー段階で参加者が把握していることが望ましいように思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技者保険について救護パートチーフより保険会社に申し込みをした ・坂野山遊地図企画にナンバーカードの作成を依頼し、入稿した。 ・選手権出場者アンケートを My UNIVAS 経由で展開した。 ・チャーターバスについて、笠間市民体育館駐車場を選手権の部出場者の、まちの駅笠間宿駐車場を一般の部参加者の乗降場とし、陶芸組合駐車場を駐車場とする方針を決定した。 <p>▼大会当日、陶芸組合駐車場に駐車したチャーターバスはなく、道の駅かさま駐車場に駐車していたと</p>

思われる。陶芸組合駐車場にはトイレ等がなく、運転手の方の長時間の待機場所として不適切だったためと思われる。

[最終試走]

・スプリント・ロング共に、E・A・Fクラスの試走を行い、優勝設定時間を確定した。併せて、地図精度を確認し、要修正事項を洗い出した。

・各パートチーフによる現地確認を行った。

・ラストコントロール・フィニッシュ間のレイアウトを最終決定した。

・スプリントについて、競技副責任者が地図修正を行った。また、オンラインコントロールの動作確認を行った。

・ロングについて、トレイン内の特徴物の計測を行った。

[第3回 UNIVAS 連携 MTG]

・ハイライト動画の内容や撮影方法を検討した。

・競技の流れ・トレインの概要を UNIVAS に共有した。その上で機材や人員の数を含めた撮影計画の作成を UNIVAS に依頼した。

・運営からカメラマンに同行する運営者や会場の写真や注目選手、コース解説などより詳細な情報を提供することを約束した。コース図の共有も行った。

[2週間前準備]

<1日目>

・山川ハウス組、笠間組、山川ハウス経由笠間組に分かれて作業を行った。

・山川ハウス組は、山川ハウス所在の資材の仕分け・回収、掲示物の作成等を行った。

・笠間組は、競技班を中心に、コース・地図の最終確認、テクニカルミーティング用の写真撮影等を行った。

・山川ハウス経由笠間組は、山川ハウスで回収した音響資材を用いて、音響確認を実施した。

<2日目>

		<ul style="list-style-type: none"> ・全員が笠間において作業を行った。旧笠間市日東中学校内作業場とスプリント・ロング各テレ員に分かれて作業を行った。 ・各パートチーフによる資材確認を行った。 ・スプリント競技性向上のため、トレイン内の草刈りを実施した。
10月	要項 3.1 発行 併設大会プログラム発行 第 22 回 MTG 1 週間前準備 第 23 回 MTG(直前全体 MTG) 各パート MTG 第 4 回 UNIVAS 連携 MTG 前々日、前日準備 当日	[第 22 回 MTG] <ul style="list-style-type: none"> ・スタートリスト、要項 3.1 の記載内容を確認した。 ・テクミ資料および公式掲示板の発行フローを確認した。 ・パート MTG の実施日程を確認した。 [1 週間前準備] <ul style="list-style-type: none"> ・2 日間を通じて、大会期間の情報伝達のシミュレーションを行った・ ・下見を兼ねて、大会期間中と同一の宿に宿泊した。 〈1 日目〉 <ul style="list-style-type: none"> ・山川ハウス組、笠間組に分かれて作業を行った。 ・山川ハウス組は主に競技班で構成し、主に地図確認を行った。また、1 週間準備で回収しきれなかった分の資材を回収した。 ・笠間組は、配布物確認・仕分け、Si 機材のセットアップ、パートチーフによる資材確認、各パートのシミュレーション等を行った。 〈2 日目〉 <ul style="list-style-type: none"> ・競技班を中心に、コース・地図の最終確認、テクニカルミーティング用の写真撮影等を行った。また、スプリント競技班は人工障壁設置方法の確認も行った。 ・配布物の封入・確認を行った・ ・コントロールの組み立ておよびスプリントで使用する人工障壁資材の仕分けを行った。 [第 23 回 MTG(直前全体 MTG)] <ul style="list-style-type: none"> ・運営責任者および競技責任者より、大会期間中のスケジュールや注意事項の説明を行った。

		<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員長より挨拶を行った。 <p>[各パート MTG]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートマニュアルを読み進めながら、パートチーフからパート員に対しスケジュールや注意事項の説明を行った。 ・運営責任者や競技責任者の認識と各パートチーフの認識に齟齬がないか適宜確認した。 <p>[第 4 回 UNIVAS 連携 MTG]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影計画の詳細を共有 UNIVAS からしていただいた。①前日に下見をする可能性があること、②当日の到着時刻、③撮影ポイント、④駐車場の指定について情報共有を行った。 <p>[前々日準備]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロングのコントロール、給水、および誘導を設置した。 <p>[前日準備]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロング競技責任者・イベントアドバイザーによるポ確を行った。 ・スプリントのコントロール、人工障壁、各種テープ等を設置した後、競技責任者およびイベントアドバイザーによる確認を行った。 ・スプリント監視員の動きを確認した。 ・会場およびスタート地区の設営を行った。 ・ディスプレイや協賛品の受け取りを行った。 ・笠間市民体育館にて机等を借用し、会場に運搬・設置した。 ・作業場保管資材を会場または運営宿に運搬した。 ・全体 MTG および各パート MTG において大会当日の動きの最終確認を行った。 <p>[大会当日-スプリント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各パートで最終設営を行った。 ・朝確と Si ステーションの起動を行った。 ・選手権の部競技終了後、コントロール、人工障壁、および各種テープの撤収を行った。 ・ロングの有人給水を設置した。 <p>[大会当日-ロング]</p>
--	--	---

		<ul style="list-style-type: none"> ・雨天であったが、警報の発令はなく、前走において危険個所の報告はなかったため、開催判断を行った ▼詳細は 4.4 項及び 5.2 項を参照されたい。 ・各パートで最終設営を行った。 ・朝確を行った。 ・複数の選手が蜂に刺された旨報告され、MUL1 および ME クラスで使用するコントロール付近に蜂の巣があることが確認されたため、一般の部の一部クラスを中止・競技不成立とするとともに、選手権クラスについてもコントロールカット等の対応を行った。 ▼詳細は 4.4 項及び 5.2 項を参照されたい。 ・選手権の部競技終了後、コントロールおよび各種テープを含むすべての大会資材の撤収を行った。 ・山川ハウスより借用した資材を山川ハウスに返却した。 ▼当日中の返却を試みたことにより、仕分け等が不十分な状態で山川ハウスに収納することになり、山川克則氏に多大な負担をおかけし、後日 2 名の運営者で再整理に行くこととなった。山川ハウスへの資材返却は大会翌日に相応の時間および人員を割いて行うことが望ましい。 [大会翌日] ・ディスプレイおよび笠間市民体育館から借用した資材を返却し、また、ごみを回収業者に受け渡し、会場から完全撤収した。 ・作業場として用いた旧笠間市立東中学校を清掃し、完全撤収した。 ・Si 資材をサン・スーシの倉庫に返却した。
2024 年 12 月	返金処理・会計	各種返金処理を終了した。
2025 年 3 月	報告書発行	-

▼ 競技地図の作成

▽ 計画

- ・ 競技地図作製
 - 一次調査：YMOE 社に委託
 - 二次調査：副競技責任者が担当

- ・ スケジュール
 - 4 月中：一次地図調査完了
 - 4 月中：下見
 - 5 月中：第一回試走/地図二次調査
 - 7 月中：第二回試走
 - 9 月中：第三回試走
 - 9 月 24 日：コース完成
 - 9 月 30 日,10 月 1 日：2 週間前準備（地図最終修正、入稿）
 - 10 月 7 日,10 月 8 日：1 週間前準備（地図現物確認）

▽ 実施

- ・ スケジュール
 - 3 月 30 日：一次地図調査完了
 - 4 月 1 日：テレイン下見
 - 5 月 28 日：第一回試走/二次地図調査
 - 7 月 1 日：第二回試走
 - 9 月 9 日：第三回試走
 - 9 月 26 日 コース完成
 - 9 月 30 日 地図最終修正
 - 10 月 1 日 地図入稿(YMOE 社にレイアウト・印刷・シーリングを委託)
 - 10 月 7 日 地図現物確認

▽ 補足

第二回試走以後、下記の日程でオンラインでのコース検討を競技関係者(競技責任者、副競技責任者、コースプランナー、イベントアドバイザー)間で行った。

コース検討開催日程：7/10、7/21、8/9、8/22、(第3回試走)、9/12

▽ 提言等

スプリントの競技場所の特性やスピード性から、安全性の管理や渉外上の管理にはより一層の注力が求められる。また、近年のインカレスプリントでは、人工障壁等を使用して競技性の向上を図ることや、曖昧さ回避のためにトレイン内にテープ等で通行不可能性を明示することが多く、コースの改良を重ねる毎に地図表記のミスを誘発しやすくなる。競技性の担保に加え、こういった管理等を行き届かせるためには、余裕を持ったコース作成のスケジュール設定が重要である。地図の完成時期は特にスケジュールに直結するであろう。

▼ **コースの設定**

▽ 計画

- ・ 参加者の観戦を会場のみとし、チーム毎のよりまとまった応援がなせるようにする。
- ・ 上記の理由により、会場付近での選手の動きが多様となるようにルートチョイスを設定する。
- ・ レース中に中間速報コントロールを設置する。
- ・ 人工障壁の設置により多様なルートを創出する。
- ・ 旧図には描かれていない陶芸大学校の建物周囲のキャノピーを使用する。
- ・ 駐車場を利用したルートを創出する。

▽ 実施

- ・ テレイン全域で応援を可能とした場合、インカレならではの大学毎のまとまった盛り上がりには欠けてしまうという懸念があった。そのため本大会では観戦を会場のみ限定し、選手の動きに変化を持たせ観戦者が楽しめるように会場通過直後に勝負レグが置かれることとなった。
- ・ スプリントはその性質上 GPS による演出は断念した。観戦は会場のみとしたため中間速報コントロールによる戦況の掲示及び演出を行った。中間速報は各エリアの勝負レグ後のポストに2箇所と会場直前の計3箇所とした。機材試運転は第3回試走で確認を行い電波状況が問題ないことを確認した。
- ・ 人工障壁はオレンジネットを使用した。主に北東の広場を中心にルートチョイス創出に利用がなされた。
- ・ 陶芸大学校の建物周囲のキャノピーの使用は一次調査地図の完成後に想定を始めた。
- ・ 参加者向けの南駐車場の車両の出入りを一部制限することにより、駐車場を通過するルートを創出した。

▼ 安全対策

▽ 計画

- ・ 一般来場者とのトラブルを避けるため、工芸の丘エリアを通るルートがメインとなるレグを避け、小さな子どもが多いあそびの社エリアは使用しない。
- ・ 一般来場者が多い場所や車両通行のある場所等、競技中に危険が発生する可能性がある箇所には監視員を配置する。

▽ 実施

- ・ 渉外担当者には公園及び市と綿密なやり取りを行ってイベント情報の共有をしてもらっており当日公園での他のイベントはないことを確認していたが、コースプランナーには念のため工芸の丘エリアを極力避けたコース作成をしてもらった。当日、事前に認知していないイベントが工芸の丘にて開催されていたが小規模であり、幸いトラブルなく終えられた。
- ・ 一部に細く選手同士の正面衝突の危険がある通路があったため、通路両端2人と中央1人の計3名監視員を配置した。事前に衝突回避の誘導手順を確認し、当日スムーズに誘導を行うことができた。

▼ 競技成立に向けて

▽ 計画

- ・ 定期的なミーティングを行い認識共有
- ・ 青黄テープによる現地の通行不能箇所の明示、監視員による立入禁止区域侵入者への声掛け
- ・ 危険箇所、立入禁止区域侵入発生可能性のある箇所の監視員設置
- ・ 選手権の部で使用するコントロールにコントロールガードを配置

▽ 実施

- ・ 第二回試走以後隔週で、競技責任者、副競技責任者、コースプランナー、イベントアドバイザーによるオンラインでのミーティングを行った。
- ・ 現地にて、生垣/水域/私有地の通行可否を判別しにくい箇所が多かったため、テレビン全体において青黄テープによる通行不能箇所の明示を手厚く行うことを心掛けた。また、立入禁止区域への侵入を監視員が確認した場合可能な限り声掛けを行い、侵入位置まで戻った場合は失格にしないことを事前に取り決めた。
- ・ 昨年同様、失格が極力生じないよう競技途中の誘導区間は廃止した。

4.4 競技面の準備経緯（ロング・ディスタンス競技部門）競技責任者 宮本 和奏

▼ 競技地図の作成

▽ 計画

- ・ 地図作成者
YMOE 社に委託
- ・ スケジュール
5 月中：一次地図調査完了、一次試走
6 月中：コース・地図検討、現地確認
7 中：二次地図調査完了、二次試走
9 月上旬：最終試走、コース決定、地図完成
9 月下旬：入稿

▽ 実施

- ・ スケジュール
4 月 1 日：下見
→ 使うエリアの選定、会場の検討
5 月 28 日：一次試走
7 月 1 日：二次試走
7～9 月：地図修正
→ 試走でのフィードバックをもとに地図修正
9 月 9 日：最終試走
→ 試走でのフィードバックをもとに地図修正
9 月 30 日：地図確認・修正、コース完成
10 月 1 日：入稿
10 月 2～7 日：地図印刷
10 月 7 日：地図・シーリング確認
10 月 13 日：地図・ディスクリプション最終確認

▽ 補足

トレインの調査範囲についての詳細は「4.1.3 会場、ロングにおけるおおまかな競技範囲の決定」を参照いただきたい。また、9 月 9 日の最終試走で用いた地図が未完成であったため、2 週間前準備で最終的な地図の確認を行なった。確認の段階で、コース上に地図に記載のない特徴物が複数あったため、その場で修正を行った。

コースがある程度決まった段階で、コース付近の調査を詳細に行ってほしい旨を調査者へ強く主張するべきであろう。

▼ コースの設定

本大会は茨城県笠間市の「笠間城址」にて実施した。詳細に関しては、3章「競技結果と解説」を参照いただきたい。ここでは、コースの設定に関する実施時期を示す。

- ・ スケジュール

5月中旬：素案決定、一次試走

→ 選手権クラスのスタート地区、会場、フィニッシュ、大まかな回しを決定

6月中：コース検討

7月上旬：二次試走

→ 選手権クラスのコース修正、一般併設クラスのスタート地区、

フィニッシュ、大まかな回しを決定

8月中：コース修正

9月中旬：最終試走

9月末：地図の最終確認を受けコース修正、決定

▼ 安全対策

▽ 一般道の横断への対策

「笠間城址」はトレインの中央に車道が南北に走っており、コースを組む上で選手権クラス、一般クラスともに、この道の横断は避けられなかった。出来る限りトレイン内に侵入する車両に対して競技者がいることを知らせるため、1週間前から立て看板を設置した。また、当日はより端的に競技者に注意することを示した看板を設置した。

▽ 開催判断、寒さ対策

ロング当日は天候の悪化によって寒さが予想された。大会当日の気象警報発表の有無を大会開催判断基準とした。当日の朝6時の段階で開催の判断を行い、周知を行った。また低体温のリスクが高くなるため、前日にSNSなどで各々の体調に合わせて出走判断、競技継続の判断をするように呼びかけた。

▼ 競技成立に向けて

▽ コース設定における競技中の誘導設定

選手権クラスにおいてレース終盤に芸術の森公園へ入るために車道を横断する箇所があり、誘導を設定した。誘導を設定した目的としては、

① 車との接触の可能性を減らすこと、

② 道路横断によってタイム差が発生しないようにすること である。

誘導の起点となるコントロール位置から100mほどは車道がカーブしており見通しが悪かったため、直線部分で横断するようなレイアウトにした。また、タイム差が発生しないように、道路横断可能エリアを長く設定し、競技者各自の判断で横断するようにした。選

手権クラスの誘導については事前にテクニカルミーティング代替資料にて公表した。当日は、立て看板に加え、交代でスタッフを4名配置し安全かつ確実に選手が道路を横断するように注意喚起を行った。

▼ 当日の競技に関する対応

▽ 選手権クラスの誘導の一部変更と注意喚起

選手権クラスの誘導途中で芸術の森公園に入る箇所に急斜面があり、大会当日の朝には雨天の影響でとても滑りやすく、登りにくい状態であることが確認された。現地の誘導を地図の表記から数mずらし、比較的緩い斜面上を通すこととした。

また選手権クラスの誘導直後の公園内に湿地があり、当日雨天の影響で深く沈むことが前走者から報告された。

上記2点の内容を選手権待機所と選手権スタート地区に紙に書いて掲示し、アナウンスを行った。

▽ 蜂への対応

競技実施中にテレイン内で蜂刺されが相次いだため、

- ① MUL1、MUL2クラスのスタートを中止
- ② 男子選手権クラスの7番コントロールを飛ばす対応 を行った。

下記に時系列で当日の対応を記載する。

時刻	運営における対応
9:00	一般・併設クラスストップスタート
9:50頃	一般スタート地区から蜂に刺された競技者がいるという一方が知らされる。
10:00頃	蜂刺されによってMUL1の競技者が相次いで一般スタート地区に帰還。
10:02	MUL1のスタート中断を決定。
10:17	MUL2も同様に帰還する競技者が相次いだため、MUL2のスタート中断を決定。 これ以上被害者を出さないため、かつ選手権クラスの実施を考慮し蜂への刺激を減らすため、MUL1、MUL2クラスのスタート中止(再開はしないこと)を決定。 →会場へ口頭でアナウンス。 ※12:00ごろに「MUL1/MUL2のコントロール位置付近に蜂が確認されたため、スタートを中止しました。よって、MUL1/MUL2は競技不成立とします。」との記載を公式掲示板に掲示し、会場へ競技不成立の旨をアナウンスした。
10:40頃	MUL1/2のスタート中止後、スタッフが蜂の目撃箇所を見に行くと蜂が活発に動いていた。

10:57	<p>男子選手権クラスの7番コントロール、女子選手権クラスの6番から7番コントロールへのルートが蜂の活動箇所にて該当した。蜂の被害を出さないために、</p> <p>①男子選手権クラスの7番コントロールを飛ばすこと ②女子選手権クラスで該当箇所を避けるようルートを制限すること ③スタート時刻を15分遅らせる(トップスタートがMEは11:15、WEは11:16となる)ことを決定。</p> <p>→選手権スタート役員に上記の①②を紙に書いて掲示し、スタート1分前で地図を見せながらアナウンスするように指示。 →会場へ口頭でアナウンス。 →確実に選手が上記の①②を実行できるように、男子/女子選手権クラス共通の6番コントロールにスタッフを派遣。また、スタート地区でも競技者へ確実にアナウンスされているか確認を行うため、実行委員長が選手権スタート地区へ向かった。</p>
11:13	<p>スタッフ配置のため、スタート時刻をさらに10分遅らせる(トップスタートがMEは11:25、WEは11:26)ことを決定。 →選手権スタート、会場へ口頭でアナウンス。</p>
11:18	<p>スタッフがトレインに到着したことを確認。また、選手権スタート地区において①スタートの繰り下げ、②7番コントロールのカットまたは該当箇所を通行しないこと、③誘導の一部変更、④湿地の注意喚起について掲示物に反映され、1分前でアナウンスされることを確認。</p>
11:25	選手権クラススタート開始

各段階でイベントアドバイザーと協議を行い、各判断を行った。今回は選手権クラスを実施したいという思いを念頭に、競技成立を目指して対応した。WEでは蜂の被害が出た箇所を通過するルートを通らないように制限することを決定したが、必ずしも蜂の巣を通過するとは限らず、ルート選択の幅を持たせるためにも注意喚起に止めることも考えられた。

▽ 救急対応

今大会では、トレイン内と会場にそれぞれ1つずつ救護所を用意し、怪我等の応急処置にあたった。また、昨年同様UNIVASによるトレーナースタッフの派遣を受けており、専門知識を持っているスタッフがいる事は大変心強かった。

今大会での大きな傷病対応としては、蜂刺症と低体温症であった。また、幸いにも救急車を呼ぶ程の傷病者は出ず、トレーナーによる応急処置後、必要であれば各自病院に行ってもらった形となった。

まず、一つ目の蜂刺症についてである。9:50 頃、スタート役員から蜂に刺された選手がいるという一報が入った。その後も蜂刺されが相次ぎ、トレーナーが直接トレイン内に出動して応急処置を行った。応急処置後、蜂刺症対象者への病院案内に手こずってしまったため、今後は周辺医療施設に関しての配布用資料を作成し、順次病院へ向かってもらうという形で改善を計れたら良いと感じた。

次に、二つ目の低体温症についてである。ロング競技当日の天候は雨、平均気温 14 度と 10 月にしては寒い日となった。低体温症が疑われる競技者が複数いたが、お湯、カイロ、防寒シート等を用意し加温対応をした。また、競技者には事前に着替え・タオル等の用意を周知するなど事前の対策を取ることが出来た。これらの対応が出来たのも、トレーナーを始めとする様々なスタッフの意見や、事前のシミュレーションがあったからである。今後さらに良い救護体制を築くためには、本部と競技エリアが離れるというオリエンテーリングの性質を考慮し、救護体制を構築していくことが重要と思われる。

▽ 検索

検索者は出なかったが、未出走者なのか未帰還者なのかを判別するのに時間がかかった。

マルカクラウドの操作を確実にスタートで行うことが必要であると思われる。

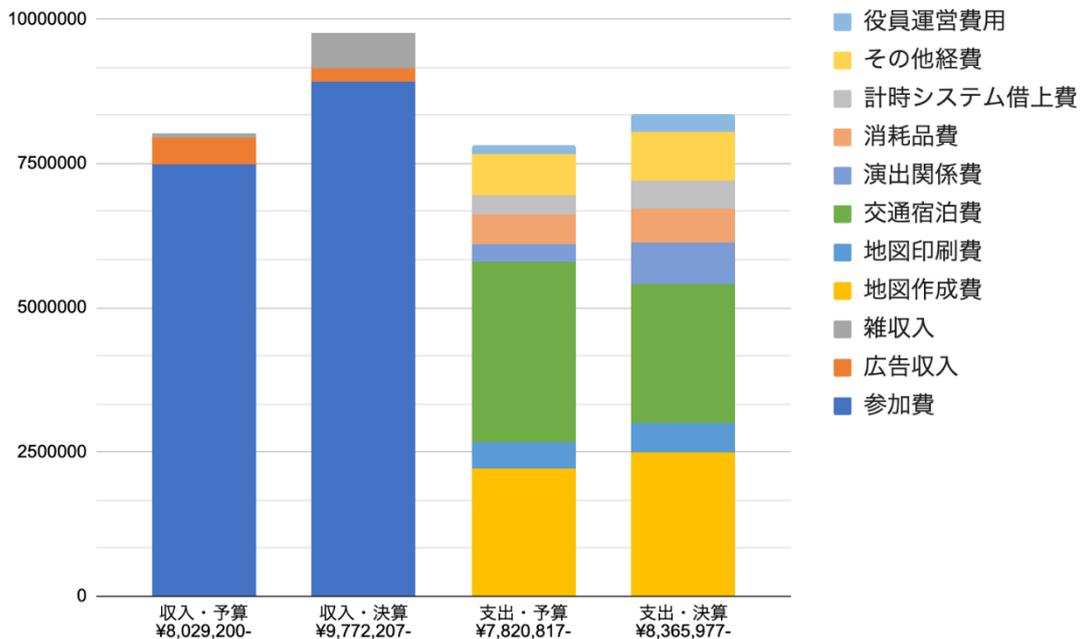
4.5 会計

会計 西谷 彩奈

本項では、本大会における会計業務の結果と行動について記す。

▼ 簡易決算報告

まず初めに、本大会において策定した予算と 2025 年 1 月 4 日時点での決算の結果概略を以下に報告する。この結果は、スプリント競技部門及びロング競技部門の準備に係る経費をまとめている。以下の項目では、この結果を中心に、例年との比較を交えながら簡単な解説を行う。



▼ 予算案の策定

会計的に大会を成功させるためにも、予算案策定時点での十分な検討は必要不可欠である。例年と比較し、本年度で注力したと思われる内容を中心に、予算案の策定経緯について以下で述べる。

▽ 支出項目の検討

支出項目のうち最も割合が大きい地図作成費を見積金額で固めつつ、例年の実績を参考にその他の項目の予算を設定した。地図作成費の次に割合が大きい交通宿泊費については、それぞれの試走や事前準備、大会当日の人数や宿泊施設を想定して予算を設定し、大きく上振れして収支に悪影響を及ぼさないよう努めた。運営者への負担を増やさないためにも必要以上の経費削減は行わず、役員運営費についても例年通りとした。

▽ 日本学連からの貸付金

運営者が高額な経費を長期間立替え続けるという負担が生じないように、本年度においても運営終了後に返済する貸付金という名目で日本学連から財源を確保した。

▽ 地域クーポンの検討

本年度は地域への経済的な還元を促すため、開催地域との連携により、地域の飲食店等で使用可能なクーポン券を配布することとした。インカレの参加費高騰が問題視されてい

中であること、多額のクーポン券ではクーポン単体で商品を購入できてしまうことの二点から、クーポンの金額は 300 円とした。

▽ 参加費の設定

地図は新規作成扱いとなり見積額が高額であったこと、参加者数は例年に比べて特段の増減が見込まれる要素は無かったことの二点から参加費の増額を検討し、新人クラスの参加費を増額することとした。地域クーポンについては、ロングに比べてスプリント単日参加者が少ないことから、ロング参加者のみ一律に 300 円を参加費に上乗せしクーポンを配布することとした。

▼ **決算結果について**

▽ 全体概要・総評

予算時点から、収入の大幅な増、支出増となった結果、最終的には黒字となる見込みである。予算時点の想定を上回る参加者数となったこともあり、結果として黒字額が比較的大きい会計運営となった（下記詳細）。

▽ 収入詳細

都市近郊の既存トレインであることを鑑み、予算策定時点では例年並みの参加者数であると想定していたが、参加者が想定以上となり予算時点から大幅な収入増となった。学生参加者も予想より多かったが、特に併設大会の参加者数の増大が顕著であった。これについては、都市近郊トレインの 7 年ぶりのフルリメイクであることや、近年導入された日本ランキング制度におけるインカレのランキングポイント加点などが要因として考えられる。

地域への経済的な還元を促すために導入したクーポンであるが、参加費から徴収したクーポン費用は 267,600 円であったが、実際に使用された金額（クーポン券印刷費用も含む）は、67,300 円に留まった。差額の約 20 万円については今後のインカレで選手に還元されるべきと考える。

また、株式会社アークコミュニケーションズ様、イブスポ様（株式会社 INSHI 様）、株式会社 Waisports ジャパン様、ライラック様、からの協賛は大きな増加要因となった。

▽ 支出詳細

予算に対し支出も増額となっているが、大きい要因としては地図作成費が見積額より 1 割強高額となったこと、予算策定時に見込んでいなかった演出機材（大型ディスプレイ）を導入したことが挙げられる。一方で、大会直前期～大会当日にかけての運営をスリム化したことで交通宿泊費を抑えることができ、予算との乖離を抑えることができた。

5

イベント・アドバイザー報告

5.1 スプリント競技部門

イベント・アドバイザー 吉澤 雄大
アシスタント EA 谷野 文史

▼ はじめに

日本学生オリエンテーリング選手権実施規則(以下、「インカレ実施規則」)30条に基づき業務を遂行した。本大会における業務報告、及びイベント・アドバイザーの視点から本大会で見受けられた課題と今後の提言などを以下で述べる。なお、インカレ実施規則 31条に規定される「幹事会、理事会及び技術委員会への活動報告」は本内容にて兼ねるものとする。

▼ 業務実施報告

イベント・アドバイザー(以下 EA、吉澤)とアシスタント EA (谷野氏) の役割の棲み分けについて書かせていただく。

本来、EA の吉澤がスプリント部門の全ての EA の役割を網羅する予定であった。ところが大会直前の 2023 年 9 月に行われたクラブカップ 7 人リレー (CC7) において、左橈骨頭粉碎骨折という大怪我を負い、手術で大会準備に行けないなど本大会業務に支障が出てしまった。そこで急遽、谷野氏に残りの期間の EA 業務を(渉外責任者と)兼務してもらった。

以上のような経緯を整理すると EA の分担は以下ようになる。

- ・ 9 月の CC7 まで:スプリントの EA は吉澤が 1 人で担当
- ・ CC7 以降:事実上、(名前はアシスタント EA だが) 谷野が主担当、吉澤がサブ以上を踏まえて詳細を記載する。

▽ 要項などの発行物の確認

全ての要項や発行物の公開前に、内容が実施規則に則していることを確認した。

インカレ実施規則の不適用事項について内容と実行委員会の判断を確認した。

▽ 会場、トレインの適格性の確認

スプリントのトレインは「笠間芸術の森公園」であるということが EA 就任前から決定事項であった。

当該トレインでは、過去にパーク O での実績があるが、本格的なスプリントに耐えうるトレインかを確認する必要がある。下見において、十分な広さと演出面に優れた会場が存在すること、全体的には単純な構造ながらも随所に複雑な建物や植生が存在することを確認した。また、人工障壁を置くことが可能であることも確認した。以上より工夫すれば

インカレスプリントに耐えうるコースができるだろうと考え、トレインの適格性は十分であると判断した。

▽ スケジュールの確認

全体を通して適切なスケジュールであることを確認した。

▽ スタート・フィニッシュのシステムとレイアウト確認

谷野氏の立ち会いのもとで競技責任者及びパートチーフとともに現地で問題のないことを確認した。

▽ 計時システムの信頼性と正確性判断

タッチフリー可能なSIカード及びステーションを採用した。また、ループアンテナ通過によるフィニッシュ計時を採用した。

▽ 地図規定照合

競技責任者と地図図式規定（ISSprOM2019-2）に適合していることを確認した。建物のキャノピー部分については慎重に検討を行った。

▽ 地図の正確性、作図や印刷の妥当性確認

地図の正確性は複数回に及ぶ現地確認、試走等で競技責任者・副競技責任者と確認した。最終的に大会前日に人工柵を設置した段階で、地図表記との齟齬がないことを現地に競技責任者・コース設定者と確認した。

地図の状態に関しては印刷のかすれや滲み、色の不調、誤記、不適切なシーリングが無いことを競技地図の全数について確認した。

▽ コースの適格性の確認

（コースについて）

<一般の部>

スプリント種目として適正なコースが設定されていることを確認した。

<選手権の部>

トレインの性質上、コースが簡単になりやすいため、選手権の部に適した難易度になっているか十分に確認を行った。人工柵の位置や細かなコントロール位置について何度も助言を行った。

全体としては試走の結果などから適切なコース距離、難易度であると判断した。

(安全管理について)

コースで使うキャノピー及び駐車場の安全管理については人及び車との衝突の可能性があったため、対策について注意深く検討した。

全体としては各コントロールにコントロールガード役員を配置していること、安全管理のための人員を配置していること、危険箇所を回避するコース設定となっていることを確認した。

詳細は 4.3 項を参照されたい。

▽ コントロール位置説明の適格性確認

現地の確認及び試走結果から、全ての競技用地図について適切なコントロール位置説明であることを確認した。また、配布用のコントロール位置説明についても競技用地図と合致しているかを確認した。

▽ 式典の適格性確認

式典の準備及び当日の進行について確認した。フィニッシュ閉鎖から日没までの間に式典が完了することを確認した。

▽ 報道関係者、観客等に対する処遇の確認

<UNIVAS について>

写真の撮影などを行っていただいた。撮影箇所について確認を行った。

<新聞社について>

ロングの日に取材いただいた。

<観客について>

ビジュアル区間（会場周辺）で応援することができるようにした。長年続いた新型コロナウイルスによる応援の規制は撤廃された。

▽ 運営組織、人事、会計及び競技運営全般の確認

<運営組織、人事について>

主にオンライン会議にて各進捗状況を確認した。

<会計について>

予算案を確認した。学連登録 1 年目の数については予算に大きく影響することから詳しく把握するように努めた。

▼ 本大会において見られた課題

- ・ 特に男子の優勝タイムはウイニングタイムからの乖離が大きかった。試走時の天候なども理由の一つであるが、少し外しすぎた印象がある。試走時はロングに人を割きがちであるが、スプリントの（特にタイムを出せる）試走要員をしっかりと確保するなどして、ウイニングタイムの正確性を上げることは重要であると感じる。
- ・ 例年と公園の草刈りの時期が異なり、地図入稿後に公園内の草刈りが行われた。結果として、草刈り後の正しい地図表記をスタート枠で表示することとなった。草刈りがいつ行われるのかを把握できると地図修正などに時間を割かずに済む。
- ・ オフィシャルレースについて、度が過ぎるのではないかという声が聞かれた。直近のインカレではモラル啓発などに努めていたのでこちらは継続頂きたい。

5.2

ロング・ディスタンス競技部門

イベント・アドバイザー 田中 大貴

▼ はじめに

日本学生オリエンテーリング選手権実施規則(以下、「インカレ実施規則」)32条に基づき業務を遂行した。本大会における業務報告、及びイベント・アドバイザーの視点から本大会で見受けられた課題と今後の提言などを以下で述べる。なお、インカレ実施規則 33条に規定される「幹事会、理事会及び技術委員会への活動報告」は本内容にて兼ねるものとする。

▼ 業務実施報告

2023年2月に、ロング・ディスタンス競技部門実行委員長の高見澤氏より打診を受け、EAに就任した。以降のEAとしての活動について、インカレ実施規則第32条4項に記載されている、確認項目に従って報告する。

▽ 要項等発行物確認

全ての要項および発行物の公開前に、その内容がインカレ実施規則に準じており、また適正であることを確認した。

インカレ実施規則の不適用事項について、実行委員会内での判断を確認し、インカレ担当理事である谷野氏を通じて技術委員会への諮問及び理事会への申請を行った。

▽ 会場、テレインの適格性確認

会場は、スプリントおよびロング・ディスタンス競技実行委員会内で検討し、本大会で使用した会場に決定した。インカレを実施するうえで、広さや競技者の動線等面から適切であると確認した。

トレインについては、過去にロング・ディスタンス競技の大会を開催しており、適切なコース設定が可能であると考えた、また、旧図と比べ競技で使用可能なエリアに大きな変化がないことを下見で確認した。加えて、直近で開催された大規模な大会は2019年度(全日本リレー)であり期間が空いていることから、競技性・公平性の双方での確であると判断した。

▽ スケジュール全体の確認

準備期間や大会当日のスケジュールについては、定例ミーティングや要項発行等の際に、都度確認した。

<準備期間のスケジュール>

各種発行物の公表時期、作図ならびに作図やコース設定、地図印刷、資材調達等の観点から準備期間のスケジュール計画について問題ないことを確認した。また、特にコース設定～地図の確認のスケジュールについては、進捗の確認や細かいスケジュールの確認を随時実施した。

<大会当日のスケジュール>

日没の時間を考慮したうえで、参加者の来場・競技開始・競技終了・解散までのスケジュールならびに、運営者の直前準備から完全撤収までのスケジュールが適切であることを確認した。

▽ スタート、フィニッシュのシステムとレイアウトの確認

競技責任者や各パートチーフと共に現地にて問題が無いことを確認した。

▽ 計時システムの信頼性と正確性判断

EMIT社製の電子パンチングシステム(Electronic Punching and Timing System)を採用した。信頼性・正確性共に過去の大会実績から十分であると判断した。

▽ 地図規定照合

競技責任者・コース設定者と共に現地及び机上での検証を経て、各地図図式規定に適合していること、判読性について問題がないことを確認し、競技用地図として適切な水準の地図であることを確認した。

▽ 地図の正確性、作図や印刷の妥当性確認

地図の正確性については、試走や現地確認を複数回行い、確認した。

また、印刷後の地図については、すれや滲み、色の不調、誤記、不適切なシーリングが無いことを競技地図の全数について確認した。

▽ コースの適格性確認

コースの適格性については、現地での試走や机上でのコース確認、競技責任者やコース設定者とのオンラインミーティングを通じて実施した。

<一般の部>

試走の結果や各クラスにおけるキロ当たりタイムの差を考慮し、難易度やコース距離を調整した。しかしながら、多くのクラスで競技時間内に完走できなかった選手が多くおり、難易度設定については反省すべき点であると感じている。

本大会のトレインは概して急峻かつ藪がちで見通しのききにくいトレインであり、さらに辿りやすい道などの線上特徴物が少ない。加えて、選手権クラスとの両立や多数の参加者を出走させる観点からスタート地区が限定されてしまい、総じて難易度の高いコースになってしまった。一般の部における参加者の競技レベルは幅が広く優勝設定を含めた適切な難易度・コース距離の設定は難しいが、多くの参加者がインカレを楽しめるよう、慎重な難易度設定が必要であった。

<選手権の部>

現地での試走に加え、競技責任者やコース設定者とのミーティングを通じ、ロング・ディスタンス競技部門として、競技者の体力・持久力やルート選択能力を問う適切なコースとなっていることを確認した。

また、安全管理の面で森林エリアから公園エリアに移動する区間において、道路横断のための誘導区間を設定した。誘導区間については、当日現地でテープ誘導の状況を確認し、適切であることを確認した。

▽ 式典の適格性確認

式典の準備及び当日の進行について確認した。フィニッシュ閉鎖から日没までの間に式典が完了することを確認した。

▽ 報道関係者、観客等に対する処遇の確認

UNIVAS によるトレイン内での撮影や参加者による観戦、実況等について、競技への悪影響が生じないことを確認した。

▽ 運営組織、人事、会計及び競技運営全般の確認

<運営組織・人事。競技運営全般について>

Discord 上でのやり取りやオンラインミーティングを通じて、パートの役割分担や人員配置、業務内容が適切であることを確認した。

<会計について>

Discord 上でのやり取りやオンラインミーティングを通じて、予算案や収支の実績を確認した。

▼ 特筆すべき対応について（競責の内容踏まえて調整する）

本項では、大会実施報告にあたって特筆すべきものとして考えている「雨天による特別対応」「トレイン内での蜂被害による対応」について反省点・改善点を記載する。なお、雨天および蜂被害に伴う具体的な対応は 4.4 競技面の準備経緯(ロング・ディスタンス競技部門)に記載しているため、そちらを参照いただきたい。

▽ 雨天による特別対応

警報有無による開催判断や参加者への注意喚起、防寒具の手配などを行ったが、こうした対応競技前日～当日に検討し、実施したものだ。競技前日・当日では対応する時間・リソースともに限られており、ある程度事前に雨天時の対応を想定しておくべきだろう。例えば、開催判断の時間や基準は前もって決めておくことは可能である。また、前週時点での天気予報をもとに参加者への注意喚起を行えば、参加者側で十分な対策をとることも可能になるだろう。

▽ テレイン内での蜂被害による対応

一般・併設クラス競技開始後に、一部クラスで使用するコントロールの至近距離に蜂の巣があると判明した。これを踏まえて、一般クラスにおいては一部クラスの出走中止、選手権クラスにおいては一部コントロールのカットやルートチョイスの制限を行った。

蜂の巣があると分かったエリアについては、試走やテープ巻き・前日の全コントロール位置確認等で複数の運営者が通過・確認しているが、蜂の巣についての報告は無かった。当日は多くの競技者が当該エリアを走行しておりそれが刺激となったためと考えられ、事前に蜂の巣の有無をトレイン全域で確認することは困難だと考える。

一方で、準備段階から、蜂の目撃情報は公園内を含めトレイン全域で幾度もあった。オリエンテーリングという競技の性質上、完全に被害をゼロに抑えることは難しいものの、「蜂に刺された人への対応」と「蜂被害時の競技における対応」を想定することで、スムーズな対応ができたのではと感じている。

▼ 終わりに

EA としては、インカレを初めとする運営知識・経験が少なく力不足な所もあったと感じていますが、それでも、こうして本大会を開催し、悪条件の中でも選手権クラスを成立

させることができたのは、責任者のみならず運営者一人一人の尽力によるものであったと考えています。また、通常よりリスクが高い中、加えてイレギュラーな対応が多い中でも致命的な事故無く大会を終えることができたのは競技者の方々のご協力があったことだと思います。この場を借りて、運営者・参加者の皆様へ御礼申し上げます。

6

将来への提言

▼ 運営組織

本年度は近年のインカレスプリント・ロングの開催形態に倣い、両競技部門ごとに実行委員長、競技責任者、運営責任者を設け、それぞれが競技部門ごとの中心となって準備を進めた。競技範囲は被りつつも全く競技特性の異なる競技部門であるため、この体制は今年度の運営においても適した形式であったと考えられる。また、スプリント競技部門においてのみ副競技責任者を設置したが、本競技部門の競技に影響を及ぼす要素の多様さを鑑みて、適切な配置であったと考えられる。一方、両競技部門における競技エリアの重複や会場が同一であることから、部分的に共同して準備を進める必要があった。この点については、実行委員長、運営責任者、渉外責任者の5名が中心となり、両部門の橋渡しをしつつ協力して準備を進めることができた。今後も同様の開催形式をとるのであれば、適宜補佐等の役職を新設しつつ、同様の運営体制を敷くことが望ましいと考えられる。

▼ 演出

インカレでは競技者を「魅せる」演出が重要な要素の一つである。この点における本大会での工夫としてはまず、4.1項記載の通り、本大会会場は従来のオリエンテーリング大会会場にはあまり見られないすり鉢状の広場と中央のドームを擁するコンサート場を使用したことが挙げられる。これを活用した会場レイアウトを考案し、どの観戦者からも選手権のフィニッシュおよびインタビューの様子を見ることができるようにした。さらに、観戦エリアを会場に限定し参加者が会場に集まっていること、および会場全体からドームが見やすいことから大型モニターを導入した。モニターではプランナーによるコース解説などを行い、7割超のアンケート回答者より高評価をいただいた。また、近年のインカレでは取り入れられることの減った速報ボードを導入した。会場にて一目で勝負の状況が把握できることのほか、選手の思い出として持ち帰ることができるという演出面以外の点も加味しての判断であったが、多くの選手に持ち帰ってもらうことができた。

一方で演出を優先するあまり、インカレらしさや公平性・競技性が損なわれることが無いような意識も心がけた。まずスプリント競技における競技エリア内での観戦の禁止については、インカレならではの大学毎のまとまった盛り上がりにかけてしまうという懸念と、日頃から一般来場者も多く来場する公園であり、一般来場者に加えて観戦者も競技エリアに入ることにより公平性が担保できなくなると考えての判断であった。またロング競技のビジュアルを設定しなかったことについて、仮にビジュアルを設定した場合は公園エリアをビジュアル後のまわしで使用することになっていたが、フォレストの地図図式および1:15,000の縮尺では公園エリアの情報を十分に表現し得ないため公平性が担保できな

いこと、公園エリアのナビゲーション難易度が低く限られたコース距離の中ではフォレストエリアの使用を優先した方が競技性を高くできること、の2点からの判断であった。

▼ 地域との連携

本大会では渉外責任者を中心として、大きく分けて以下の3点について、地域との連携に力を入れた。

▽ 運営へのご支援

本大会では主に地図と資材の2点でYMOE社との協力体制を敷いていたが、開催地である笠間地区はYMOE社と距離が離れていることから、円滑な連携を行うことが難しいことが予見された。そこでオフィシャルスポンサーである株式会社茨城県民球団様（球団名：茨城アストロプラネッツ）よりテレイン付近の施設の一部をお借りし、作業場兼資材置き場として活用させていただくことができた。またご後援いただいた笠間市より机等の大型の資材をお借りすることで、遠方のYMOE社から資材を運ぶ際の往復数を減らすことができた。

▽ 地域との交流

本大会では両競技部門において、選手権クラス開始前に笠間地区の方々にパフォーマンスを行っていただいた（スプリント：茨城県民球団所属チアリーダー、ロング：稲荷囃子）。また、地域のお店を訪れてもらうという地域交流および地域への経済的な還元の二点を鑑み、ロング競技参加者に対して300円のクーポン券を配布した。4.1項記載の通り、いずれの取り組みも一定の効果はあったことと考えられ、6割超のアンケート回答者より笠間市へ再訪したいとの声をいただいた。

インカレ参加者の大多数を占める学生は社会人と比較して経済的な余裕が小さいことなどから、地域との交流を確実にすることは難しいかもしれない。しかし、オリエンテーリングという競技は地域の方ありきで成り立っていることを鑑みると、地域との交流は必要不可欠な要素である。インカレでは、こうした地域との交流を意識した取り組みはほとんど実績が無く、今回試験的にこうした取り組みを実施した。インカレでも、インカレ以外の大会でも、今後も運営者・参加者のどちらもが地域との交流が重要であることを認識し、地域の方との継続的な関係性が構築されることが望ましい。

7

スタートリスト（選手権の部）

7.1 スプリント競技部門

★印はシード選手

ME		参加人数 62	
スタート時刻	氏名	学校・学年	SIカード番号
13:30	藤原考太郎	筑波大学 2	8681356
13:31	波多野直人	大阪大学 3	8681326
13:32	八巻伶門	新潟大学 3	8681209
13:33	白川和希	東北大学 3	8628569
13:34	佐藤健人	広島大学 2	8159882
13:35	高橋忠大	東北大学 4	8628571
13:36	神谷篤大	新潟大学 4	8681210
13:37	倉上英	慶應義塾大学 4	8024503
13:38	吉岡奨悟	大阪大学 3	8681327
13:39	清古光	早稲田大学 1	8681302
13:40	大六野祐斗	千葉大学 4	8681267
13:41	堀口航	東北大学 3	8628572
13:42	福室凜	早稲田大学 1	8681303
13:43	鈴木寛人	名古屋大学 2	8019116
13:44	安部雄真	東北大学 3	8628573
13:45	酒井幸太	名古屋大学 3	8644965
13:46	川崎陽暉	茨城大学 3	8637722
13:47	政井秀仁	大阪大学 1	8681328
13:48	伊藤悠真	横浜国立大学 1	8637733
13:49	常広寿哉	慶應義塾大学 2	8024504
13:50	横山大樹	東北大学 3	8628574
13:51	石原潮人	京都大学 3	8667149
13:52	真家遼介	千葉大学 4	8681268
13:53	梶本和	東京大学 1	8500293
13:54	谷口瑞樹	筑波大学 3	8681357
13:55	酒川卓斗	新潟大学 3	8681211
13:56	平出駿	東北大学 3	8628575
13:57	金子隼人	東京大学 4	8500294
13:58	早川正真	立命館大学 2	8024516
13:59	古角海志	東北大学 2	8628576
14:00	山口颯大	東京大学 2	8500295
14:01	丸田祐大	大阪大学 3	8681329
14:02	竹下舜人	筑波大学 2	8681358
14:03	谷口直弥	京都大学 3	8667150
14:04	市川礼人	名古屋大学 3	8644971
14:05	鎌倉京平	筑波大学 4	8681359
14:06	根本浩平	東京理科大学 3	8500341
14:07	加賀谷湧	東京大学 4	8500296
14:08	川邊太清	慶應義塾大学 3	8024505
14:09	荒川恭誠	名古屋大学 3	8644978
14:10	折橋旺	東京大学 3	8500297
14:11	★上妻慶太	横浜国立大学 3	8637734
14:12	加藤賢斗	筑波大学 1	8681360

14:13	加藤優拓	広島大学 2	8159883
14:14	千葉奨太郎	横浜国立大学 3	8637735
14:15	★寺嶋謙一郎	東京農業大学 (オホーツク) 2	8500338
14:16	毛利智紀	京都大学 3	8667151
14:17	稲邊拓哉	筑波大学 3	8681361
14:18	小野旭陽	名古屋大学 3	8664109
14:19	★澤野祐希	新潟大学 3	8681212
14:20	小浦姿	北海道大学 3	8638282
14:21	野口遊瑚	横浜国立大学 3	8637736
14:22	三井健世	東京大学 3	8500298
14:23	★森創之介	横浜国立大学 2	8637737
14:24	青木悠真	早稲田大学 2	8681304
14:25	栗原拓未	筑波大学 2	8681362
14:26	浅川竣風	横浜国立大学 3	8637738
14:27	★橋本遼佑	神戸市立工業 高等専門学校 4	8681230
14:28	久保木航	東京大学 3	8500299
14:29	竹林寛生	京都大学 1	8667152
14:30	佐藤諒平	東京大学 3	8500300
14:31	★美濃部駿	横浜市立大学 3	8637769

WE		参加人数 35	
スタート時刻	氏名	学校・学年	SIカード番号
12:45	秋澤実乃里	椋山学園大学 3	8681251
12:46	福田有紗	国際基督教大学 4	8159886
12:47	岩城美奈	東北大学 3	8641251
12:48	中館美卯	横浜国立大学 1	8637739
12:49	林明穂	東北大学 3	8628581
12:50	西川真由	日本女子大学 3	8632390
12:51	安部紗也佳	横浜市立大学 3	8637770
12:52	片岡明日香	千葉大学 2	8681269
12:53	小野塚智美	筑波大学 1	8681363
12:54	山崎有里彩	慶應義塾大学 2	8024506
12:55	高野澄佳	大阪大学 4	8681330
12:56	宮澤海帆	横浜市立大学 4	8637771
12:57	浦中美里	東京理科大学 3	8500342
12:58	木口瑞穂	慶應義塾大学 3	8024507
12:59	★山崎葵	筑波大学 2	8681364
13:00	大石遥	新潟大学 4	8681213
13:01	古谷那奈	千葉大学 2	8681270
13:02	和田向日葵	法政大学 2	8638273
13:03	★鷺津加子	東北大学 3	8628583
13:04	牧依瑠香	早稲田大学 2	8681305
13:05	小野希美	椋山学園大学 3	8681252
13:06	沼田奈津	京都大学 2	8667153
13:07	★柴崎愛有	新潟大学 4	8681214
13:08	森下遥	千葉大学 4	8681271
13:09	砂田優萌子	お茶の水女子大学 2	8640512
13:10	松尾晴乃	神戸大学 3	8681231
13:11	★落合英那	京都大学 2	8667154
13:12	羽鳥汐音	新潟大学 4	8681215
13:13	皆上直香	千葉大学 2	8681272
13:14	川瀬智尋	奈良女子大学 2	8631044
13:15	★桑原唯歩	横浜国立大学 3	8640513
13:16	羽岡美紀	京都大学 3	8024472
13:17	藤澤ゆい	神戸大学 3	8681232
13:18	山本ひより	名古屋大学 3	8664133
13:19	★樋口佳那	筑波大学 3	8681365

7.1 スプリント競技部門

ME		参加人数 63	
スタート時刻	氏名	学校・学年	SIカード番号
11:00	小島佑太	東北大学 3	256455
11:02	一戸厚志	広島大学 3	518372
11:04	神谷篤大	新潟大学 4	528161
11:06	弓田和生	法政大学 3	261194
11:08	杉中海斗	京都大学 2	525167
11:10	小野旭陽	名古屋大学 3	524343
11:12	白川和希	東北大学 3	266150
11:14	山口颯大	東京大学 2	265854
11:16	中野啓太	東北大学 2	261204
11:18	川崎陽暉	茨城大学 3	518382
11:20	小浦姿	北海道大学 3	レンタル
11:22	藤原考太郎	筑波大学 2	524639
11:24	八巻伶門	新潟大学 3	528166
11:26	波多野直人	大阪大学 3	519409
11:28	田中雅崇	筑波大学 2	レンタル
11:30	澤野祐希	新潟大学 3	528164
11:32	谷口瑞樹	筑波大学 3	519050
11:34	川邊太清	慶應義塾大学 3	519394
11:36	八房穰	千葉大学 3	518941
11:38	市川礼人	名古屋大学 3	515777
11:40	古角海志	東北大学 2	249334
11:42	森創之介	横浜国立大学 2	524943
11:44	市川優人	早稲田大学 3	519515
11:46	梶本和	東京大学 1	520600
11:48	早川正真	立命館大学 2	525166
11:50	吉田聖悟	東京大学 2	265843
11:52	根本浩平	東京理科大学 3	519534
11:54	栗田稜也	東京大学 2	261192
11:56	島田智也	名古屋大学 3	513108
11:58	酒川卓斗	新潟大学 3	528165
12:00	森清星也	筑波大学 3	519373
12:02	加藤優拓	広島大学 2	518374
12:04	福室凜	早稲田大学 1	518923
12:06	小野慶真	法政大学 3	257862
12:08	直江隼輝	筑波大学 2	レンタル
12:10	堀口航	東北大学 3	266148
12:12	村岡泰輝	横浜国立大学 4	513115
12:14	角田和貴	京都大学 3	レンタル
12:16	倉上英	慶應義塾大学 4	524957
12:18	及川悠太郎	筑波大学 2	レンタル
12:20	折橋旺	東京大学 3	257856
12:22	横江明弘	神戸大学 2	523121
12:24	★金子隼人	東京大学 4	レンタル
12:26	満田壮晴	大阪大学 4	513280
12:28	井崎竜之介	横浜国立大学 3	519390
12:30	本多哲大	北海道大学 3	レンタル

12:32	★久保木航	東京大学 3	257858
12:34	平出駿	東北大学 3	515743
12:36	泉浦旭秀	法政大学 2	265844
12:38	鎌倉京平	筑波大学 4	レンタル
12:40	★寺嶋謙一郎	東京農業大学 (オホーツク) 2	レンタル
12:42	三井健世	東京大学 3	261189
12:44	四宮裕一郎	京都大学 3	519335
12:46	佐藤諒平	東京大学 3	257859
12:48	★橋本遼佑	神戸市立工業高等 専門学校 4	519404
12:50	鈴木悠太	東北大学 2	249335
12:52	高塚碩己	千葉大学 3	518932
12:54	柴田日向	名古屋大学 2	520690
12:56	★石原潮人	京都大学 3	519340
12:58	徳力雅哉	立命館大学 4	519346
13:00	山村瑛	東北大学 2	515810
13:02	加賀谷湧	東京大学 4	513039
13:04	★美濃部駿	横浜市立大学 3	528178

WE		参加人数 33	
スタート時刻	氏名	学校・学年	SIカード番号
11:01	川瀬智尋	奈良女子大学 2	523122
11:03	鷺津加子	東北大学 3	254667
11:05	大石遥	新潟大学 4	528158
11:07	砂田優萌子	お茶の水女子大学 2	265847
11:09	林明穂	東北大学 3	266151
11:11	中野友貴	名古屋大学 2	520682
11:13	高野澄佳	大阪大学 4	レンタル
11:15	羽鳥汐音	新潟大学 4	528160
11:17	山本佳奈	東京理科大学 2	524975
11:19	相葉莉子	横浜市立大学 3	528175
11:21	牧依瑠香	早稲田大学 2	524973
11:23	安部紗也佳	横浜市立大学 3	528176
11:25	柴崎愛有	新潟大学 4	528159
11:27	溝端昭子	明治大学 3	265323
11:29	浦中美里	東京理科大学 3	519530
11:31	福田有紗	国際基督教大学 4	265831
11:33	★樋口佳那	筑波大学 3	519047
11:35	吉田菜里	椛山女子学園大学 3	255122
11:37	小野萌菜	千葉大学 2	518940
11:39	兼子照実	実践女子大学 2	261191
11:41	★落合英那	京都大学 2	518834
11:43	片岡明日香	千葉大学 2	518939
11:45	坂池なつほ	筑波大学 3	レンタル
11:47	小野希美	椛山女子学園大学 3	513251
11:49	★山崎葵	筑波大学 2	524640
11:51	宮川葵衣	東京理科大学 3	519372
11:53	山本ひより	名古屋大学 3	515789
11:55	羽岡美紀	京都大学 3	519419
11:57	★桑原唯歩	横浜国立大学 3	519391
11:59	西川真由	日本女子大学 3	519532
12:01	宮澤海帆	横浜市立大学 4	513117
12:03	角本柚香	京都大学 3	519353
12:05	★木口瑞穂	慶應義塾大学 3	519395

8

大会役員

▼スプリント競技部門

実行委員長	森川 周	(東京 17)		
競技責任者	太田 知也	(京都 17)	競技副責任者	村田 千真 (筑波 18)
運営責任者	柏田 芳樹	(一橋 17)		
コースプランナー	大石 洋輔	(早稲田 17)		
イベント・アドバイザー	吉澤 雄大	(慶応義塾 14)		

▼ロング・ディスタンス競技部門

実行委員長	高見澤 翔一	(一橋 16)
競技責任者	宮本 和奏	(筑波 17)
運営責任者	高橋 利奈	(日本女子 16)
コースプランナー	藺部 駿太	(東北 17)
イベント・アドバイザー	田中 大貴	(一橋 13)

▼共通部門 各責任者

渉外責任者	谷野 文史	(筑波 17)	広報責任者	河野 隼司	(東京 18)
人事責任者	小寺 義伸	(東京工業 17)	エントリー責任者	有澤 達哉	(東京 18)
資材責任者	若松 甫	(東京工業 16)	Web 責任者	片岡 茅悠	(東京 17)
会計責任者	西谷 彩奈	(東京理科 16)	併設大会責任者	金子 哲士	(東北 17)

▼各チーム

会場	橘 詩乃	(日本女子 17)	救護	香取 瑞穂	(立教 17)
スタート(スプリント)	飯田 泰史	(東京 16)	交通	篠原 幹博	(京都 17)
スタート(ロング)	西村 直哉	(早稲田 16)	演出	古殿 直也	(東京工業 17)
計セン/フィニッシュ	友田 賢吾	(東京経済 18)	大会キャラクター	小寺 珠穂	(法政 17)

▼その他の役員

青芳 龍	(東北 16)	坂根 歩実	(実践女子 19)	橋本 花恵	(茨城 17)
池ヶ谷 みのり	(一橋 18)	坂巻 朱里	(実践女子 19)	長谷川 望	(早稲田 16)
伊部 琴美	(名古屋 17)	佐藤 遼平	(東京 15)	長谷川 優理	(鍼灸師)
岩井 龍之介	(京都 16)	鹿野 梨佳子	(十文字女子 16)	比企野 純一	(東京 16)
大橋 陽樹	(東京 16)	世良 史佳	(立教 17)	宮川 靖弥	(東京工業 18)
上島 浩平	(慶応義塾 15)	滝沢 壮太	(新潟 17)	宮本 樹	(東京 15)
久野 公愛	(日本女子 16)	竹下 晴山	(茨城 18)	明神 紀子	(聖心女子 18)
倉田 瞭一	(東京工業 18)	橘 孝祐	(横浜国立 13)	八重樫 篤矢	(東北 16)
小林 美咲	(十文字女子 16)	田村 一紗	(横浜国立 17)	保木 祥声	(津田塾 17)
小林 祐子	(東北 17)	長江 有祐	(東京 15)	山根 萌加	(京都 17)
小林 璃衣紗	(青山学院 17)	仲長 航	(一橋 19)	楊 馨逸	(早稲田 17)
小牧 弘季	(筑波 17)	中村 僚宏	(東京 17)	吉田 薪史	(大阪 17)

▼地図調査者

高野 兼也 宮西 優太郎



大会公式キャラクター

「いなりん/いなるん」

作：小寺珠穂

笠間稲荷の眷属の狐を目指して奮闘中の狐たち。芸術の森に住み着いており、絵画や彫刻など様々なアートに幼い頃から触れてきた。

今は修行の一環として、地元笠間で開催されるインカレをお手伝いするべく奮闘中。

2023 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
スプリント競技部門、ロング・ディスタンス競技部門
報告書

発行日：2025 年 3 月 27 日

発行者：2023 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
スプリント競技部門、ロング・ディスタンス競技部門
実行委員会

発行責任者：森川 周・高見澤 翔一（実行委員長）

編集責任者：河野 隼司（広報責任者）